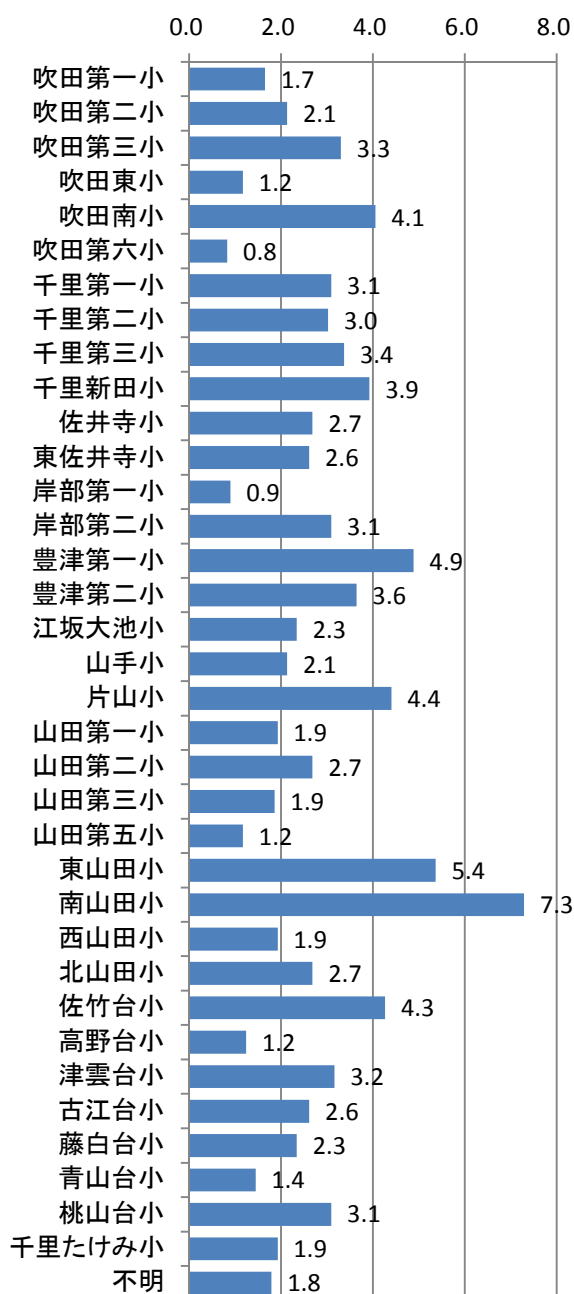


第2章 集計結果

第1節 家庭の状況

1. 居住地域（小学校区）

就学前児童(0~5歳)
【N=1,454】



就学児童(小学生)
【N=1,462】

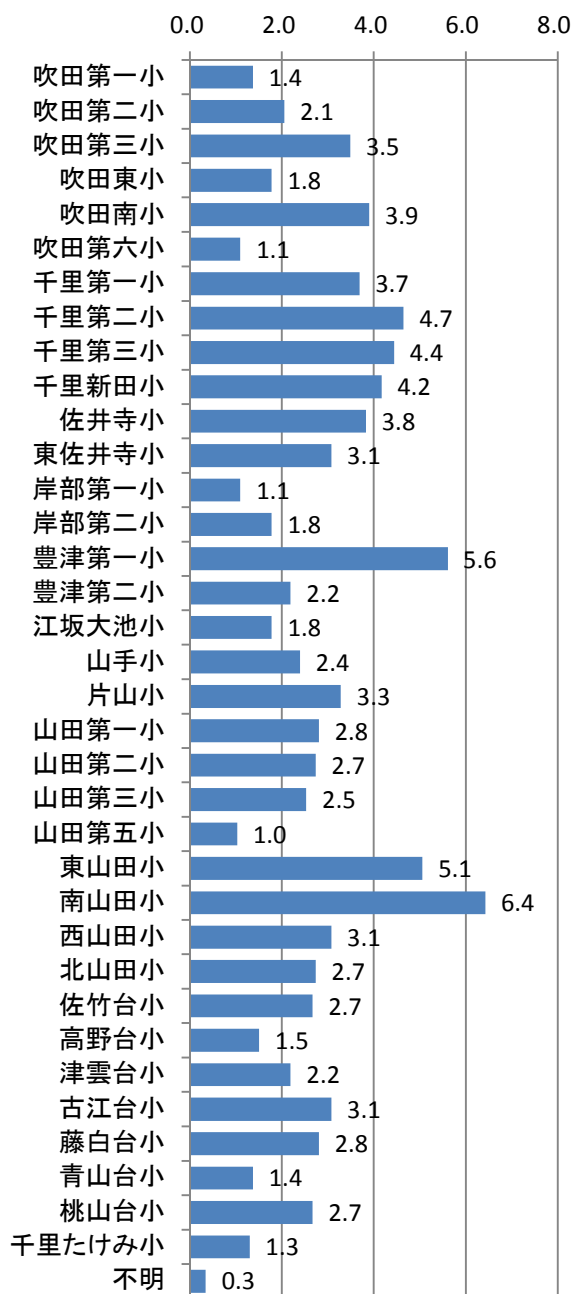


図 2-1 (1) 居住地域（小学校区）

2. 回答者と子どもの続柄

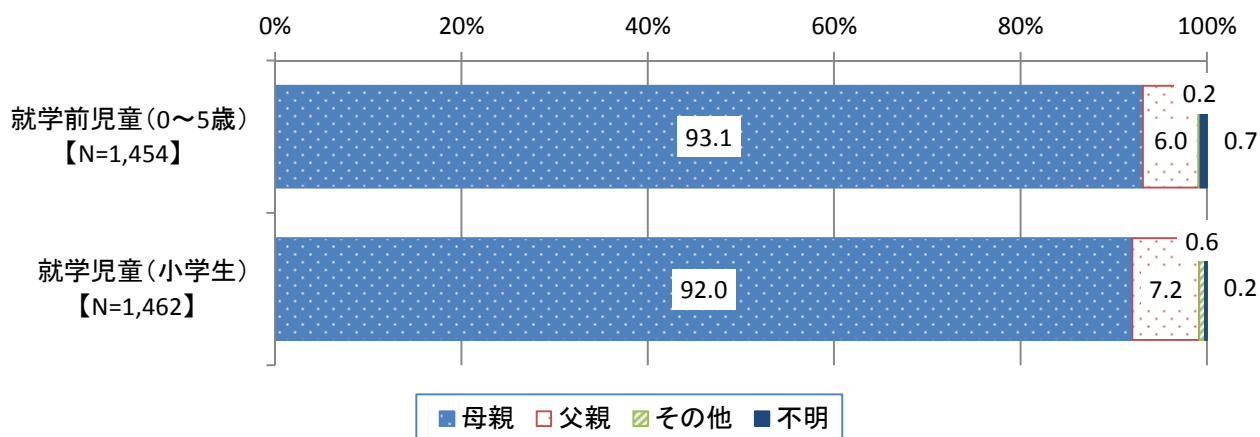


図 2-1 (2) 回答者と子どもの続柄

3. 子どもの年齢及び学年

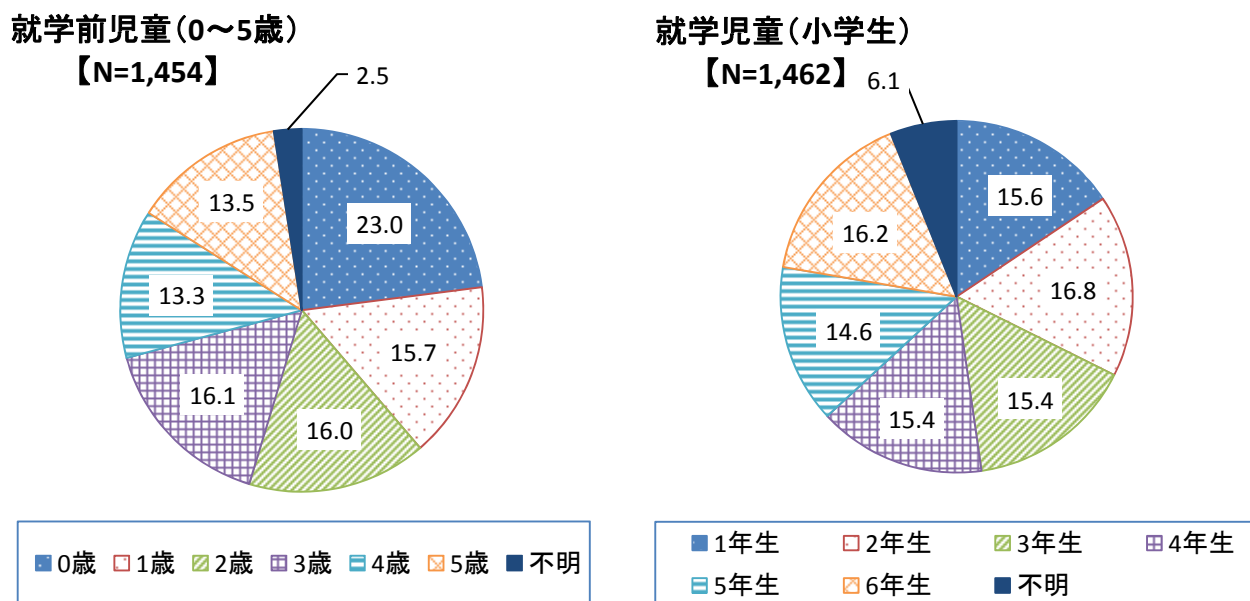


図 2-1 (3) 子どもの年齢及び学年

4. 子どもの人数

子どもの人数について、就学前児童では「1人」が最も多く43.5%、次いで「2人」が41.0%、「3人」が12.0%と続いており、平均は1.7人となっている。また、就学児童では「2人」が最も多く55.2%、次いで「1人」が28.0%、「3人」が14.2%と続いており、平均は1.9人となっている。

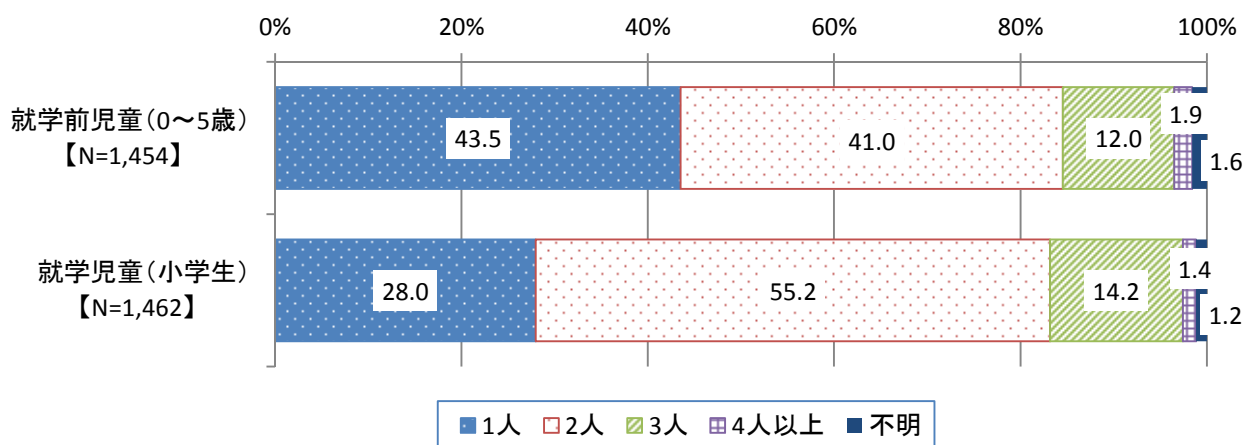


図 2-1 (4) 子どもの人数

希望する子どもの人数について、就学前児童では「2人」が最も多く54.6%、次いで「3人」が31.6%、「1人」が6.5%と続いており、平均は2.5人となっている。

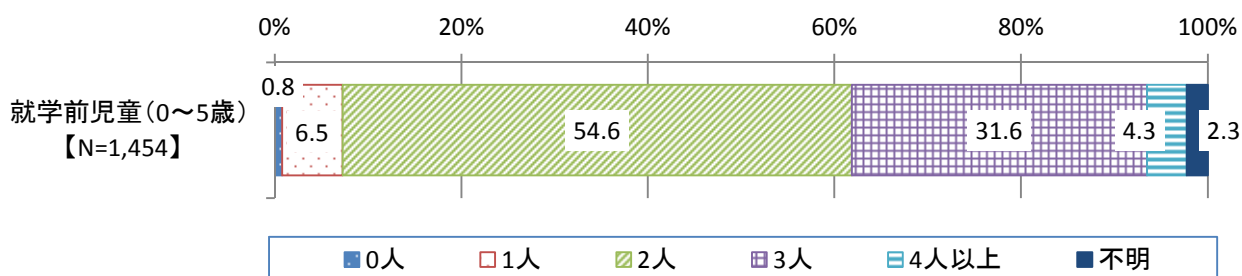


図 2-1 (5) 希望する子どもの人数

もう1人以上の子どもを生またいかについて、「生またいと思う」が45.8%、「生またいとは思わない」が52.7%となっており、「生またいとは思わない」の方が6.9ポイント高くなっている。

就学前児童(0～5歳)
【N=1,454】

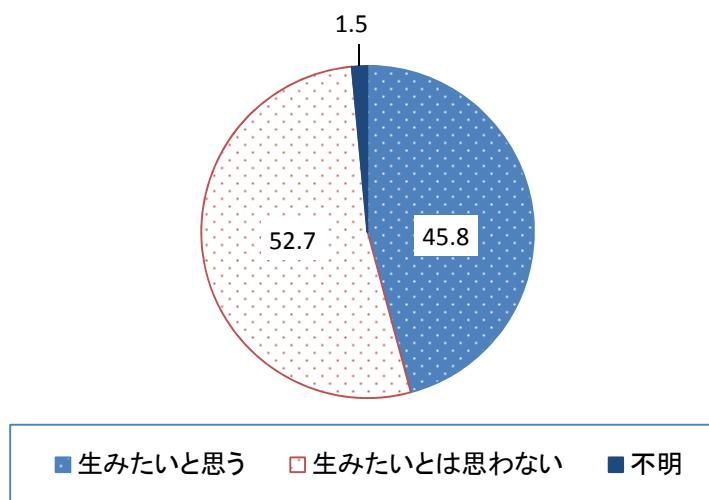


図 2-1 (6) もう1人以上の子どもを生またいか

もう1人以上の子どもを生またいとは思わない人に、どのような環境を整えればもう1人以上の子どもを生またいと思うかについて聞いたところ、「収入が増えれば生またい」が最も多く41.5%、次いで「その他」が39.8%、「保育所など子どもを預かってくれる環境を整えれば生またい」が9.5%と続いている。その他の主な内容として、「年齢的にもう少し若ければ」「もう生みたくない」「教育費用の補助制度があれば」「正社員として長く働ける職場が見つければ生またい」などがある。

就学前児童(0～5歳)
【N=766】

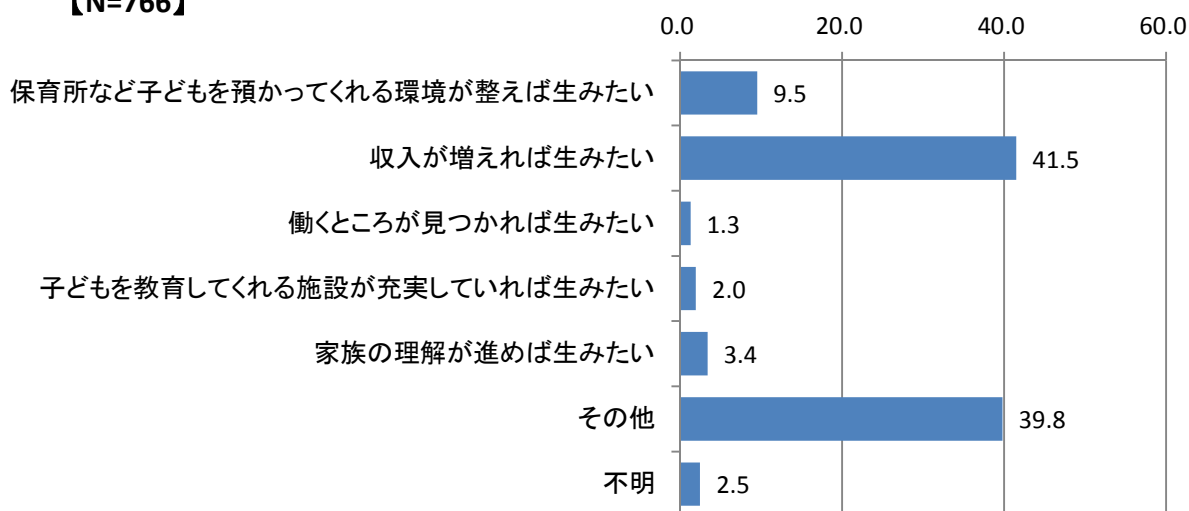


図 2-1 (7) どのような環境を整えればもう1人以上の子どもを生またいと思うか

5. 一緒に住んでいる人、近所に住んでいる人

一緒に住んでいる人について、就学前児童では「父と母と一緒に住んでいる」が最も多く 93.1%、次いで「祖母が近所に住んでいる」が 25.4%、「祖父が近所に住んでいる」が 20.6%と続いている。また、就学児童では「父と母と一緒に住んでいる」が最も多く 87.9%、次いで「祖母が近所に住んでいる」が 18.7%、「祖父が近所に住んでいる」が 14.2%と続いている。

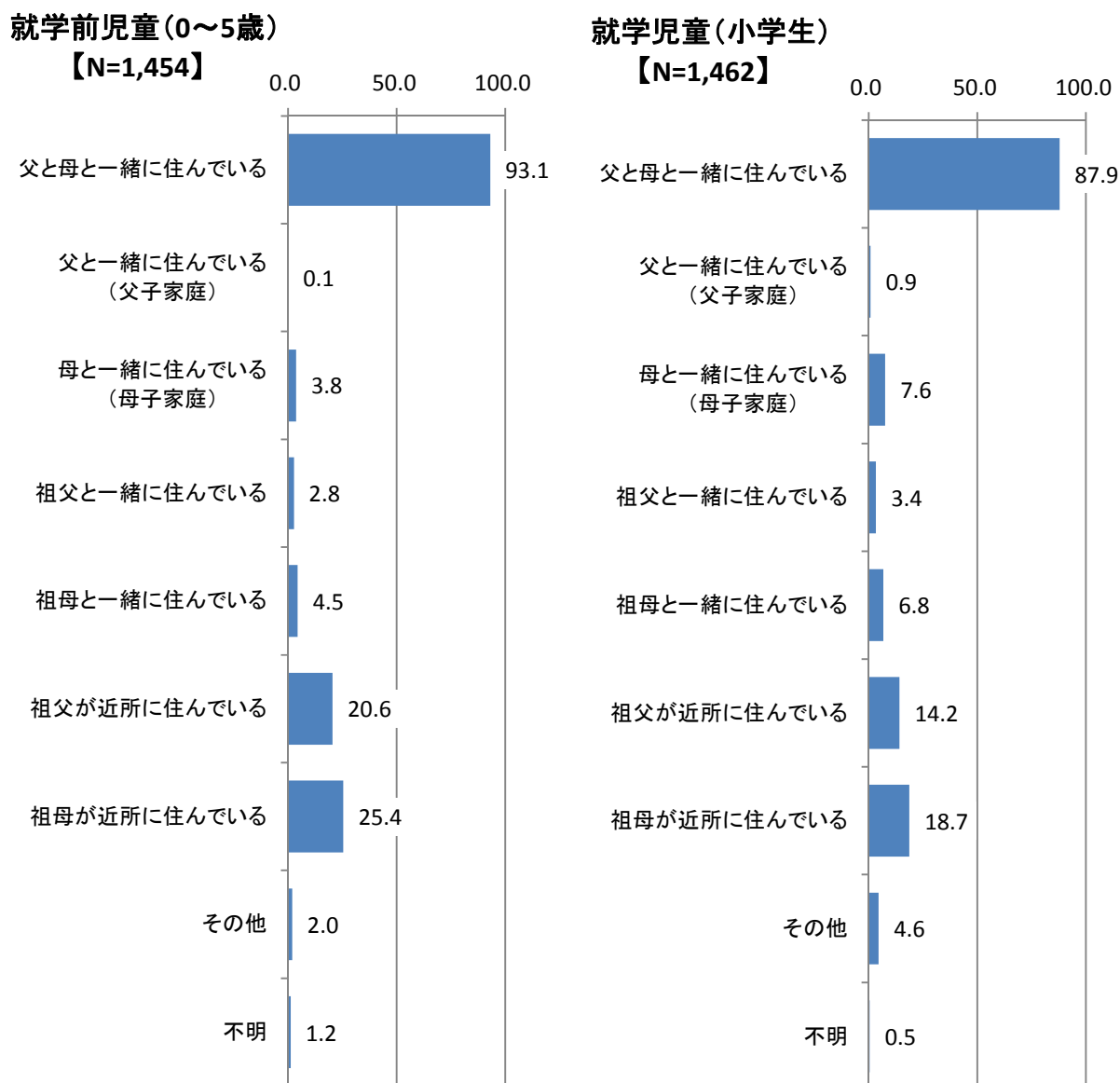


図 2-1 (8) 一緒に住んでいる人、近所に住んでいる人【複数回答】

第2節 子育てに関わっている人や施設

1. 子育てや教育を主に行っている人

子育てや教育を主に行っている人について、就学前児童では「主に母親」が最も多く 50.4%、次いで「父母ともに」が 48.2%と続いている。また、就学児童では「主に母親」が最も多く 48.7%、次いで「父母ともに」が 48.4%となっている。

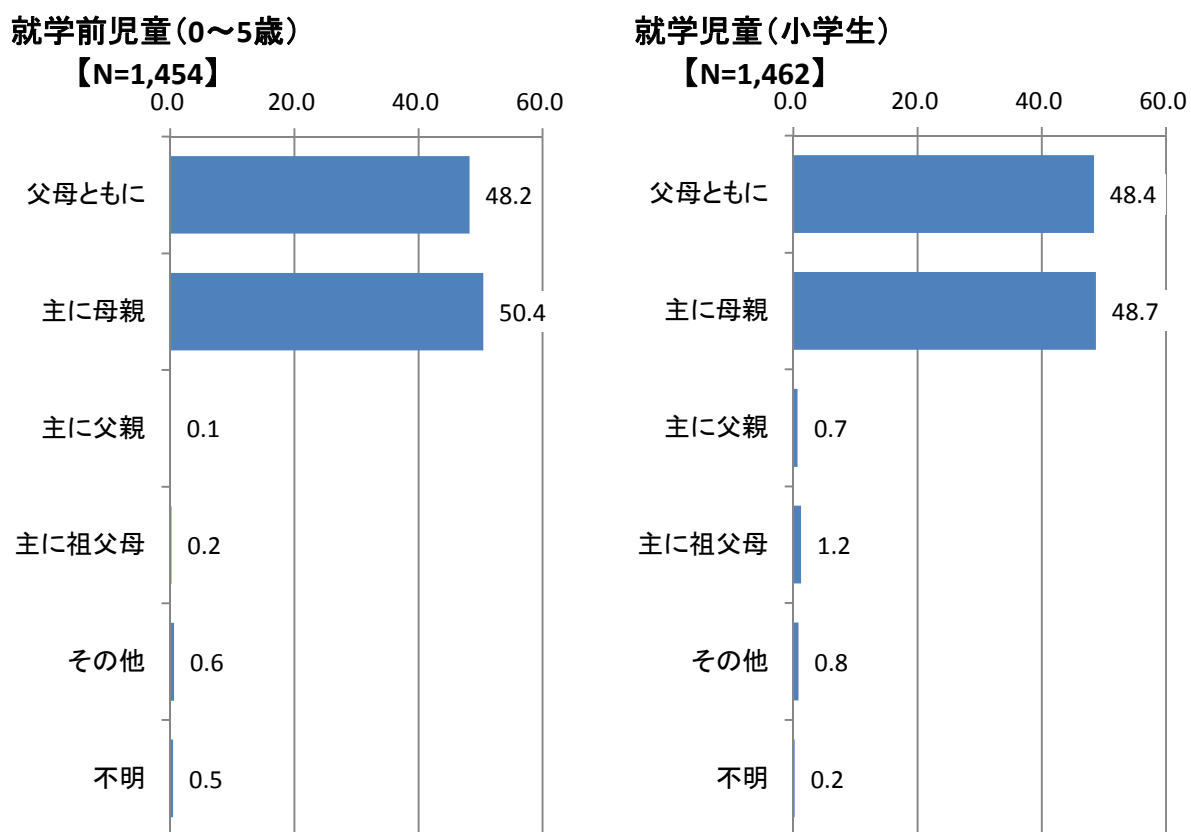


図 2-2 (1) 子育てや教育を主に行っている人

2. 子どもの面倒をみてもらえる人

子どもの面倒をみてもらえる人について、就学前児童では「緊急時もしくは用事のあるときにはご自身や配偶者の親、親せきにみてもらえる」が最も多く 53.0%、次いで「緊急のときや用事があるときに子どもをみてもらえる友人や知人がいる」が 24.3%、「日常にご自身や配偶者の親、親せきにみてもらえる」が 23.5%と続いている。

就学前児童(0～5歳)

【N=1,454】

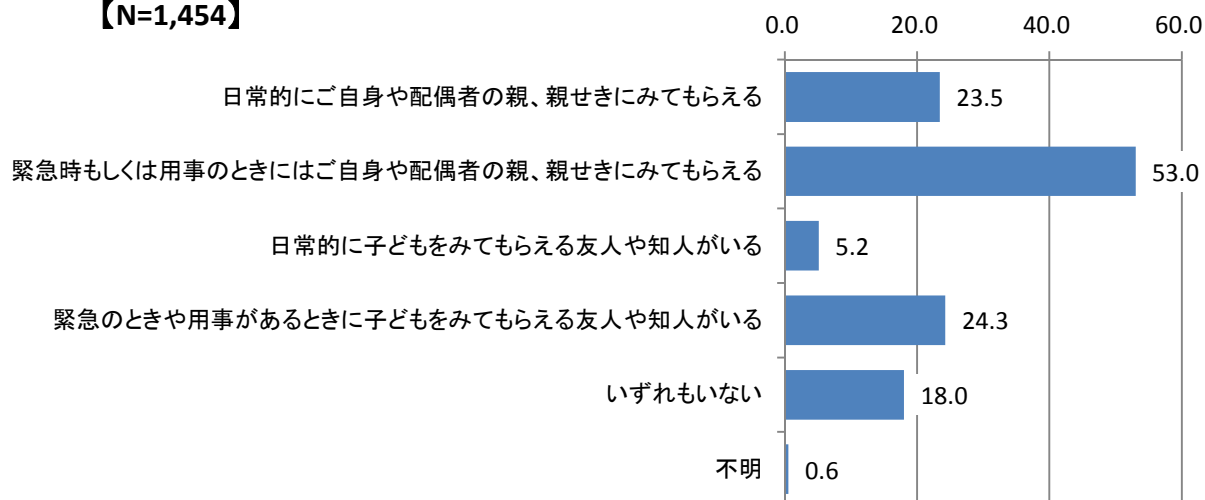


図 2-2 (2) 子どもの面倒をみてもらえる人《就学前児童》【複数回答】

また、就学児童では「緊急時もしくは用事のあるときにはご自身や配偶者の親、親せきにみてもらえる」が最も多く 48.2%、次いで「緊急のときや用事があるときに子どもをみてもらえる友人や知人がいる」が 35.1%、「日常にご自身や配偶者の親、親せきにみてもらえる」が 26.5%と続いている。

就学児童(小学生)

【N=1,462】

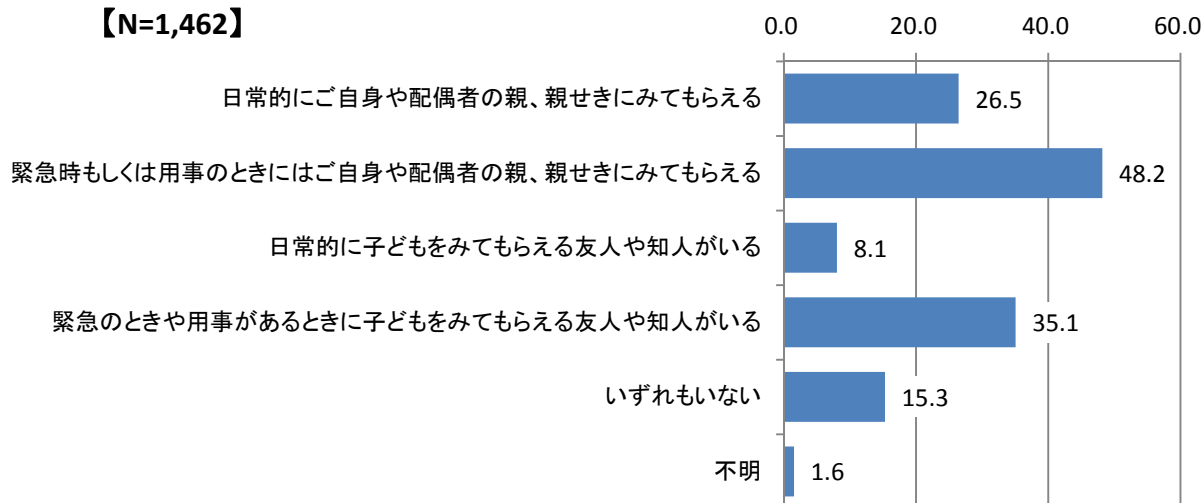


図 2-2 (3) 子どもの面倒をみてもらえる人《就学児童》【複数回答】

3. 子育てや教育を気軽に相談できる人や場所

子育てや教育を気軽に相談できる人や場所について、就学前児童では「配偶者」が最も多く 88.0%、次いで「友人や知人」が 77.2%、「ご自身や配偶者の親、親せき、(同居している) 家族」が 71.8%と続いている。また、就学児童では「配偶者」が最も多く 81.7%、次いで「友人や知人」が 77.7%、「ご自身や配偶者の親、親せき、(同居している) 家族」が 63.9%と続いている。

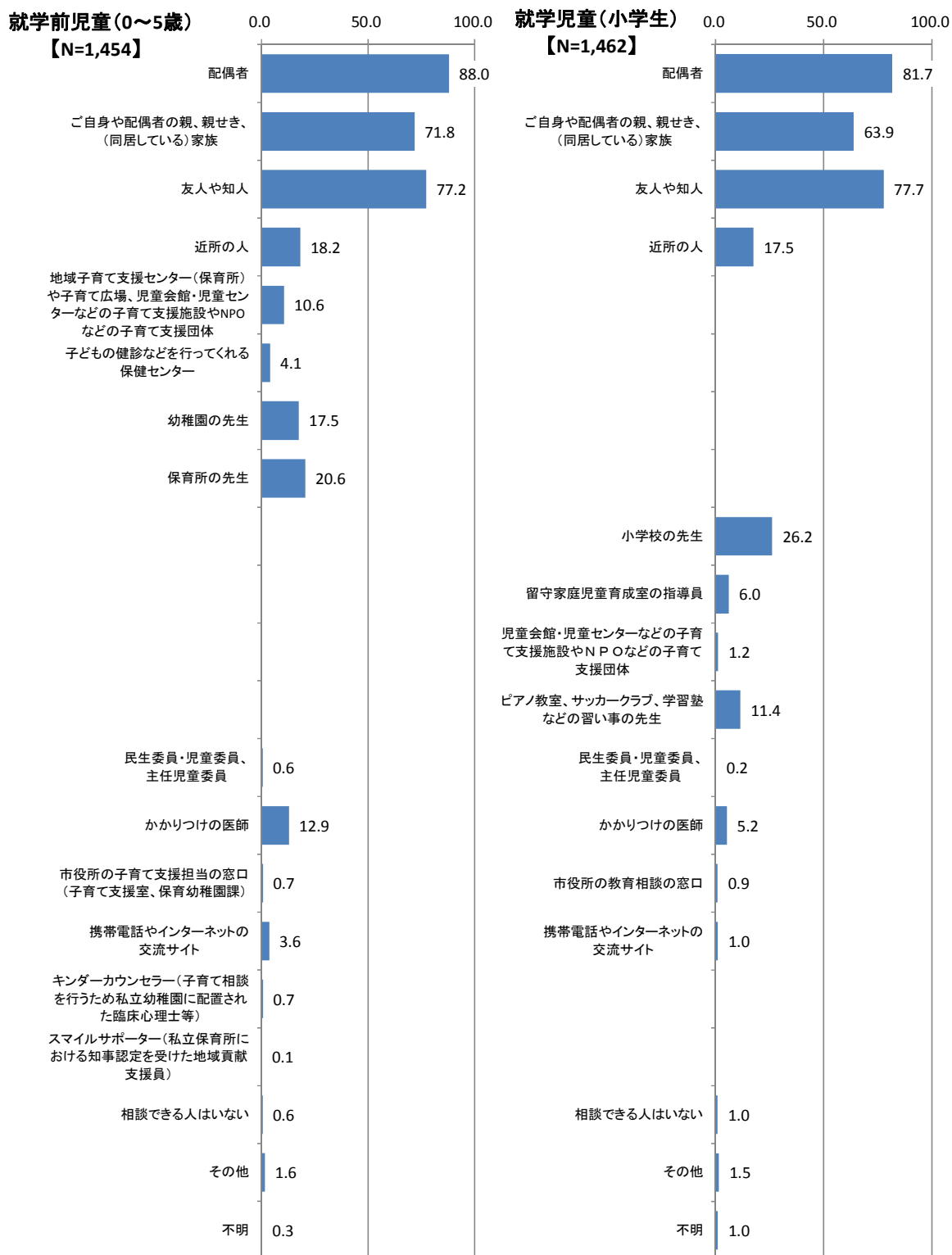


図 2-2 (4) 子育てや教育を気軽に相談できる人や場所【複数回答】

第3節 保護者の就労状況

「フルタイム」…1週間に5日程度、1日に8時間程度の就労

「パート・アルバイトなど」…「フルタイム」以外の就労

1. 母親の就労状況

母親の就労状況について、就学前児童では「以前は働いていたが、今は働いていない」が最も多く48.5%、次いで「フルタイムで働いている」が18.6%、「パート・アルバイトなどで働いている」が17.1%と続いている。

就学前児童(0～5歳)

【N=1,454】

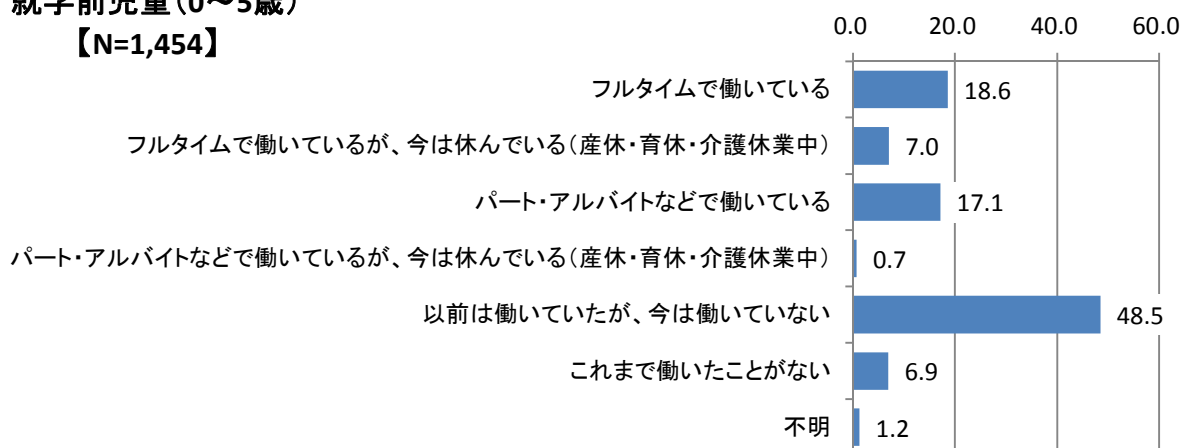


図 2-3 (1) 母親の就労状況<<就学前児童>>

また、就学児童では「パート・アルバイトなどで働いている」が最も多く43.0%、次いで「以前は働いていたが、今は働いていない」が22.1%、「フルタイムで働いている」が21.5%と続いている。

就学児童(小学生)

【N=1,462】

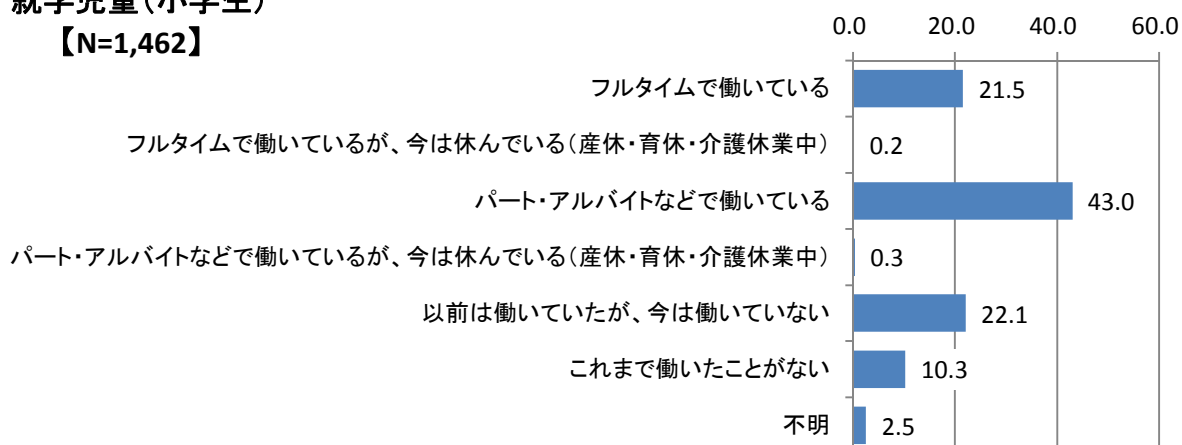


図 2-3 (2) 母親の就労状況<<就学児童>>

2. 父親の就労状況

父親の就労状況について、就学前児童では「フルタイムで働いている」が最も多く 94.4%となっている。

就学前児童(0～5歳)

【N=1,454】

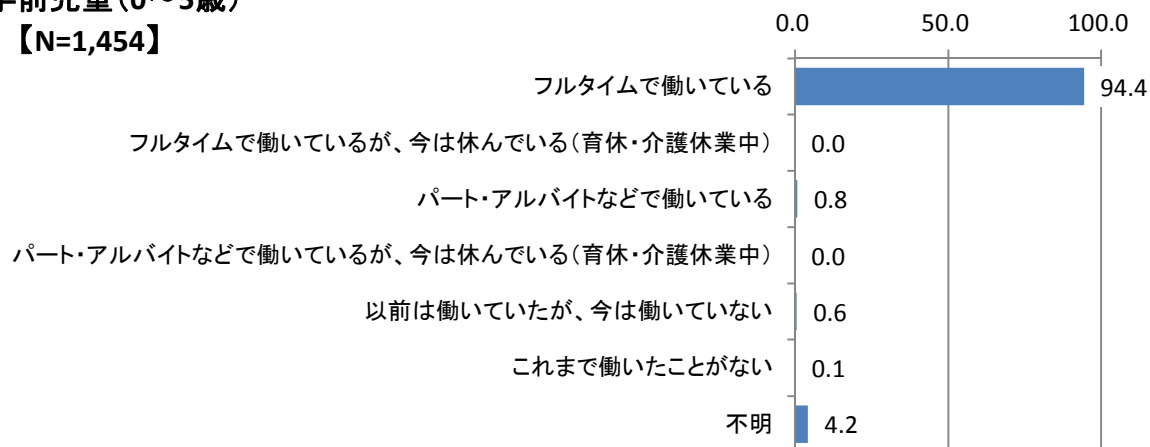


図 2-3 (3) 父親の就労状況<<就学前児童>>

また、就学児童では「フルタイムで働いている」が最も多く 86.5%となっている。

就学児童(小学生)

【N=1,462】

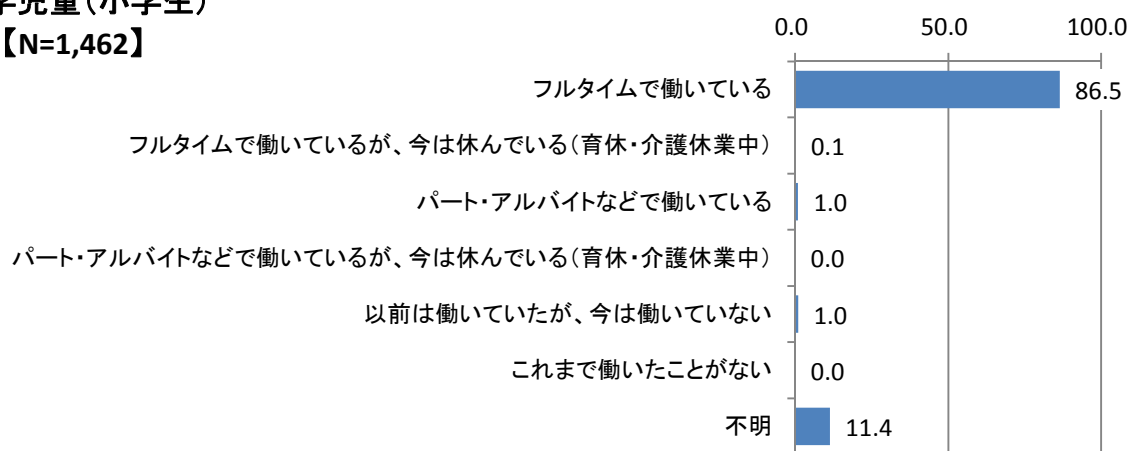


図 2-3 (4) 父親の就労状況<<就学児童>>

3. 母親の就労日数と就労時間数

母親の週当たりの就労日数について、就学前児童では「5日」が最も多く61.8%、次いで「4日」が12.4%、「6日以上」が11.3%と続いており、平均は4.5日となっている。また、就学児童では「5日」が最も多く46.4%、次いで「4日」が21.0%、「3日」が16.8%と続いており、平均は4.3日となっている。

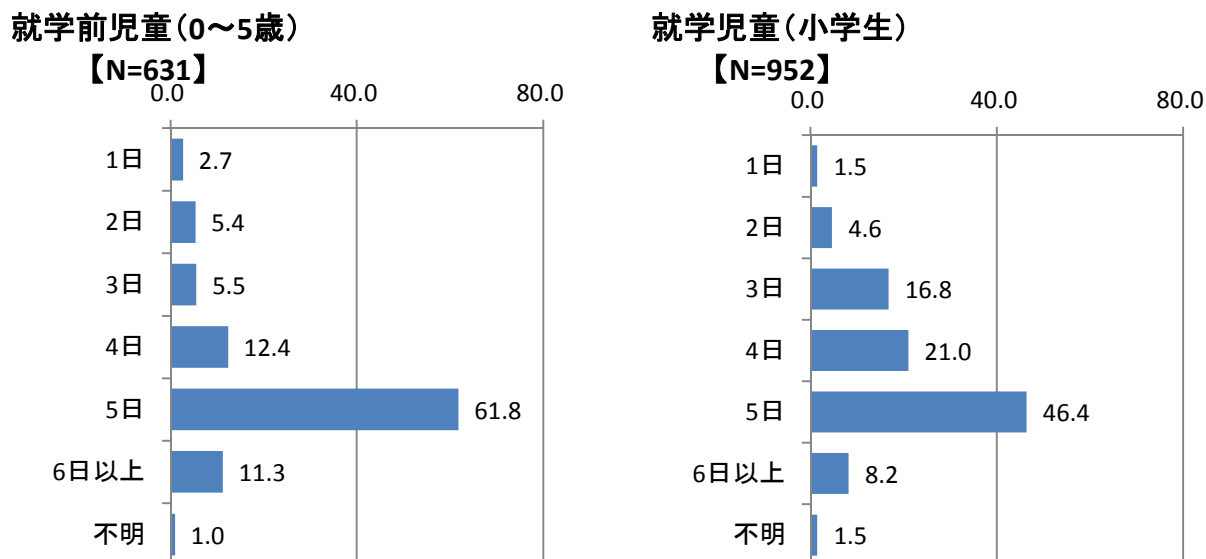


図 2-3 (5) 母親の週当たりの就労日数

母親の1日当たりの就労時間数について、就学前児童では「6時間以上9時間未満」が最も多く60.9%、次いで「3時間以上6時間未満」が22.7%、「9時間以上12時間未満」が10.5%と続いており、平均は6.8時間となっている。また、就学児童では「3時間以上6時間未満」が最も多く43.2%、次いで「6時間以上9時間未満」が42.1%、「9時間以上12時間未満」が8.5%と続いており、平均は6.1時間となっている。

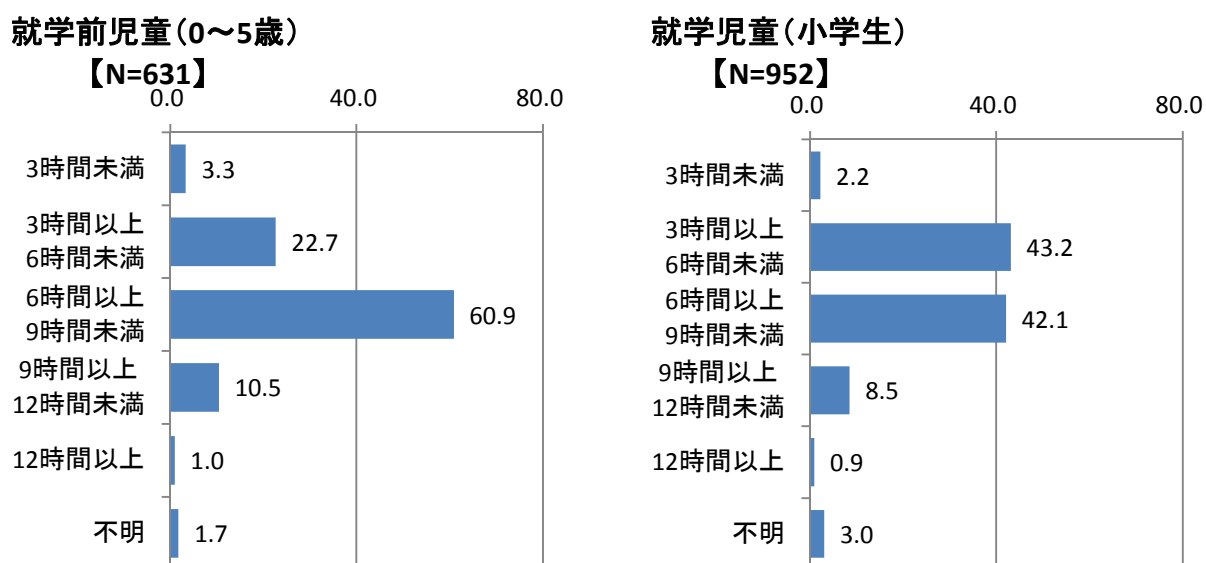


図 2-3 (6) 母親の1日当たりの就労時間数

4. 父親の就労日数と就労時間数

父親の週当たりの就労日数について、就学前児童では「5日」が最も多く63.7%、次いで「6日以上」が32.6%と続いており、平均は5.3日となっている。また、就学児童では「5日」が最も多く63.9%、次いで「6日以上」が31.9%と続いており、平均は5.3日となっている。

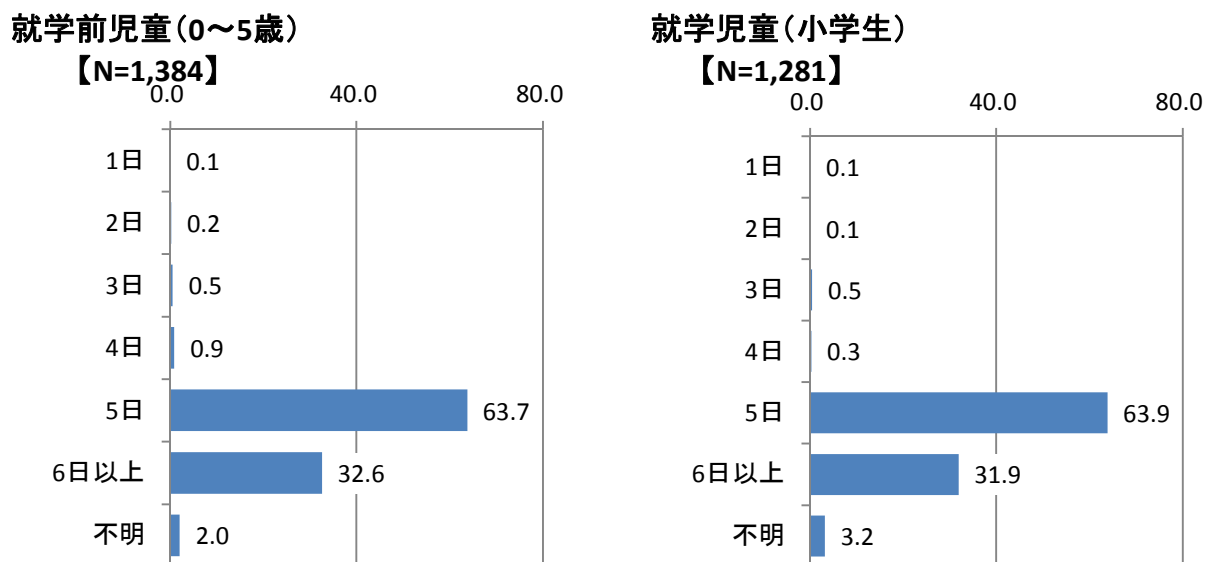


図 2-3 (7) 父親の週当たりの就労日数

父親の1日当たりの就労時間数について、就学前児童では「9時間以上12時間未満」が最も多く42.8%、次いで「12時間以上」が27.5%、「6時間以上9時間未満」が23.5%と続いており、平均は10.4時間となっている。また、就学児童では「9時間以上12時間未満」が最も多く42.4%、次いで「6時間以上9時間未満」が25.0%、「12時間以上」が22.6%と続いており、平均は10.1時間となっている。

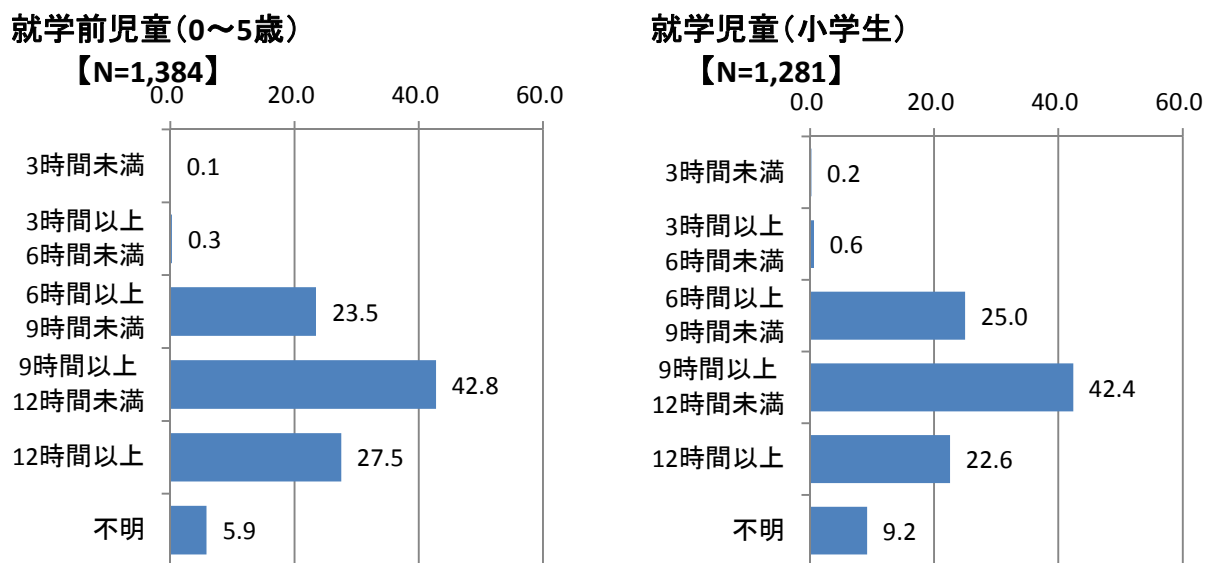


図 2-3 (8) 父親の1日当たりの就労時間数

5. 母親の家を出る時間と帰宅時間

母親の家を出る時間について、就学前児童では「8時台」が最も多く39.3%、次いで「7時台」が31.2%、「9時台」が15.5%と続いている。また、就学児童では「8時台」が最も多く50.2%、次いで「9時台」が17.6%、「7時台」が14.2%と続いている。

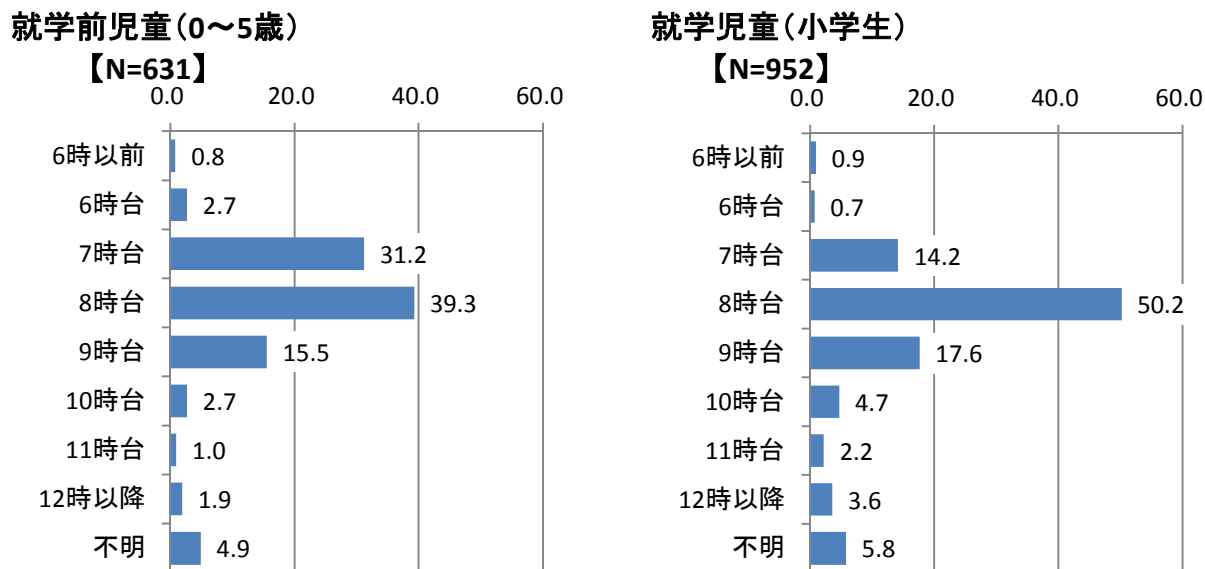


図 2-3 (9) 母親の家を出る時間

母親の帰宅時間について、就学前児童では「18時台」が最も多く36.1%、次いで「19時台」が17.0%、「17時台」が15.2%と続いている。また、就学児童では「15時以前」が最も多く22.8%、次いで「18時台」が17.8%、「17時台」が13.3%と続いている。

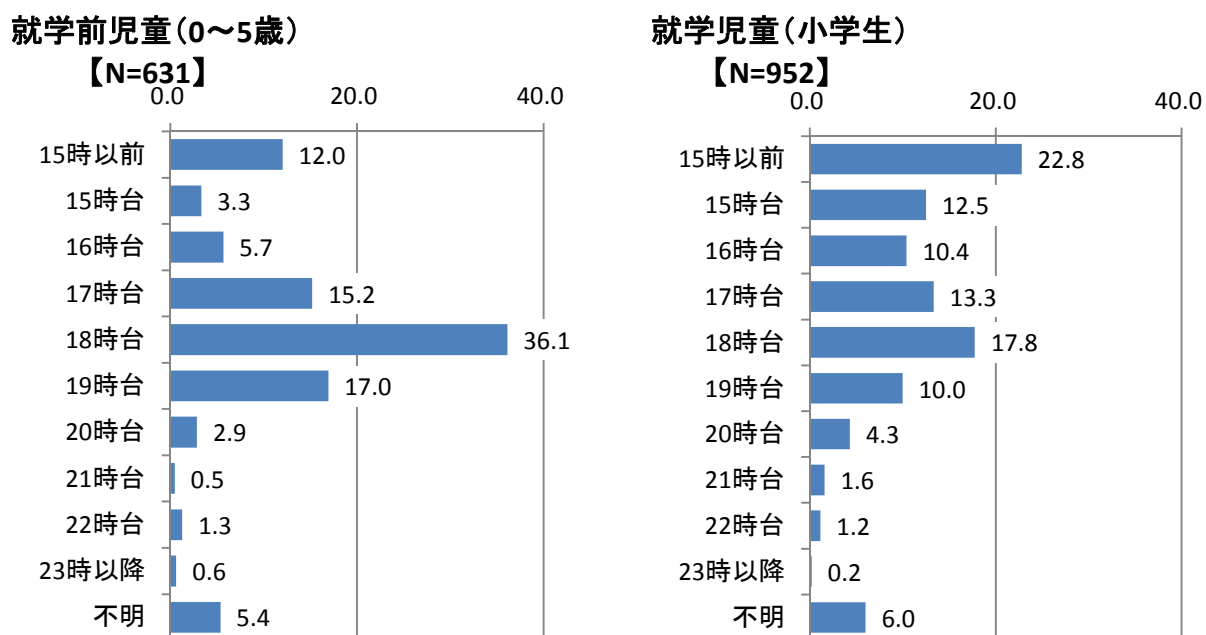


図 2-3 (10) 母親の帰宅時間

6. 父親の家を出る時間と帰宅時間

父親の家を出る時間について、就学前児童では「7時台」が最も多く41.8%、次いで「8時台」が29.0%、「6時台」が14.0%と続いている。また、就学児童では「7時台」が最も多く42.1%、次いで「8時台」が24.5%、「6時台」が15.8%と続いている。

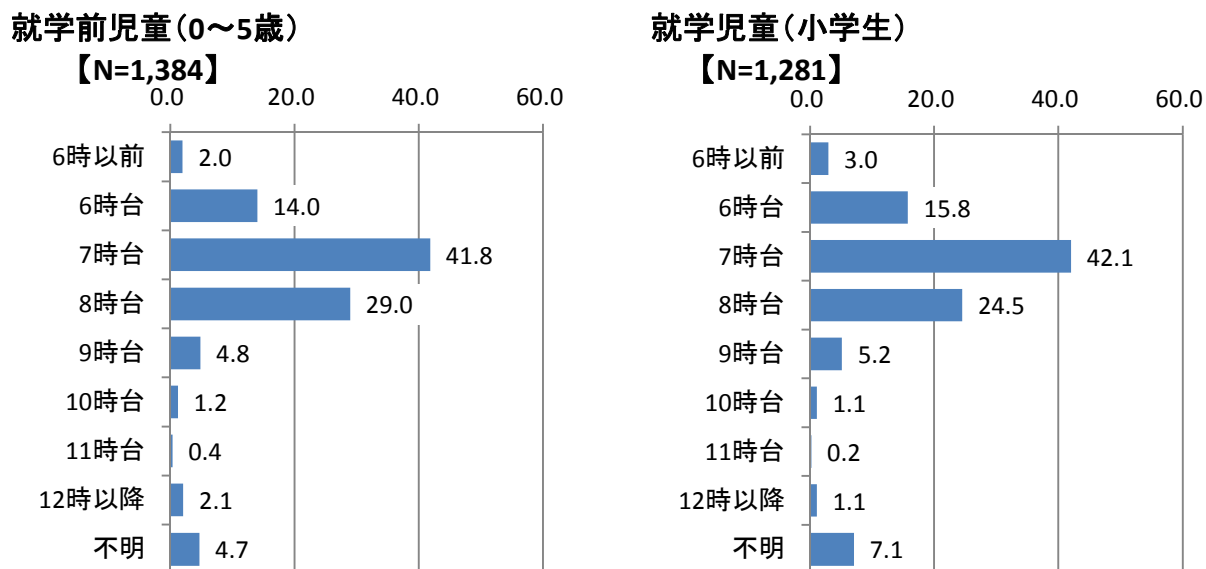


図 2-3 (11) 父親の家を出る時間

父親の帰宅時間について、就学前児童では「20時台」が最も多く21.5%、次いで「21時台」が19.5%、「22時台」が15.8%と続いている。また、就学児童では「21時台」が最も多く20.1%、次いで「20時台」が18.3%、「22時台」が16.9%と続いている。

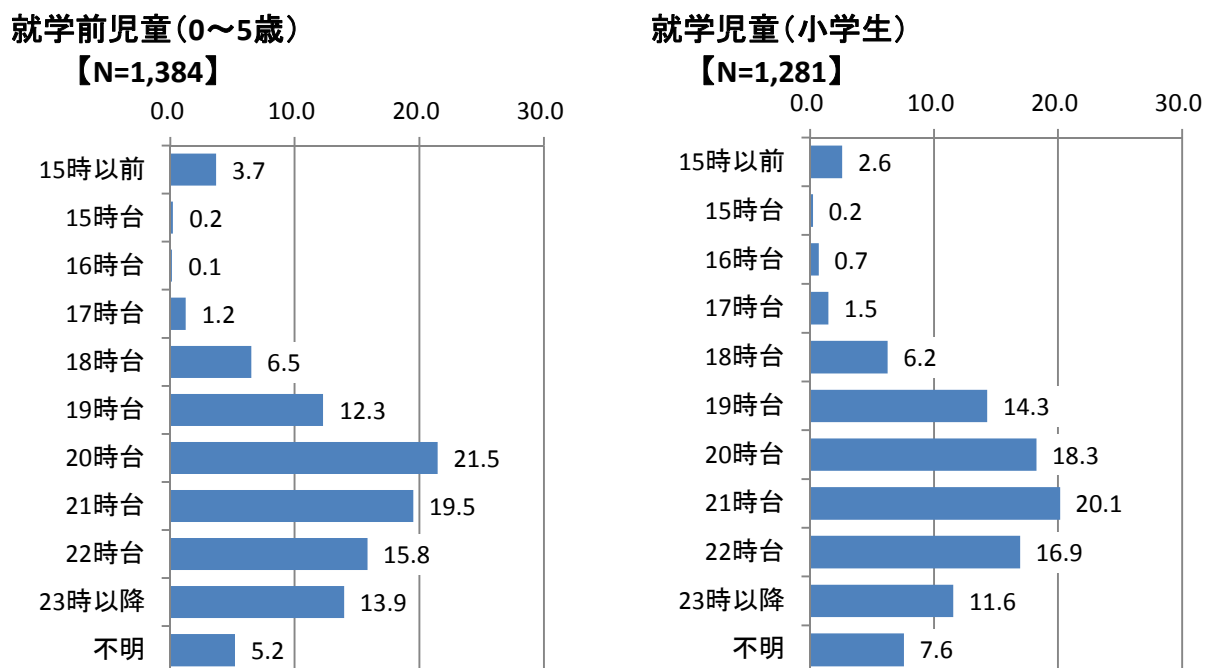


図 2-3 (12) 父親の帰宅時間

7. 母親のフルタイムへの転換希望

パート・アルバイトなどで働いている人に、母親のフルタイムへの転換希望を聞いたところ、就学前児童では「パート・アルバイトなどで働き続けることを希望」が最も多く 27.0%、就学児童では「パート・アルバイトなどで働き続けることを希望」が最も多く 37.7%となっている。

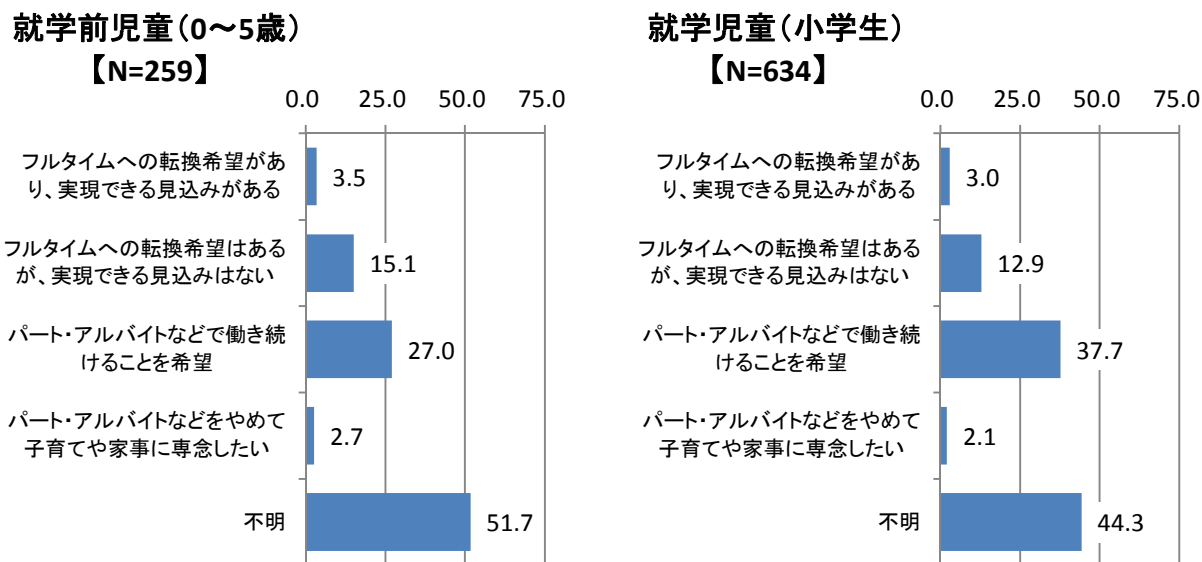


図 2-3 (13) 母親のフルタイムへの転換希望

8. 父親のフルタイムへの転換希望

パート・アルバイトなどで働いている人に、父親のフルタイムへの転換希望を聞いたところ、就学前児童では「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が最も多く 36.4%、就学児童では「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が最も多く 50.0%となっている。

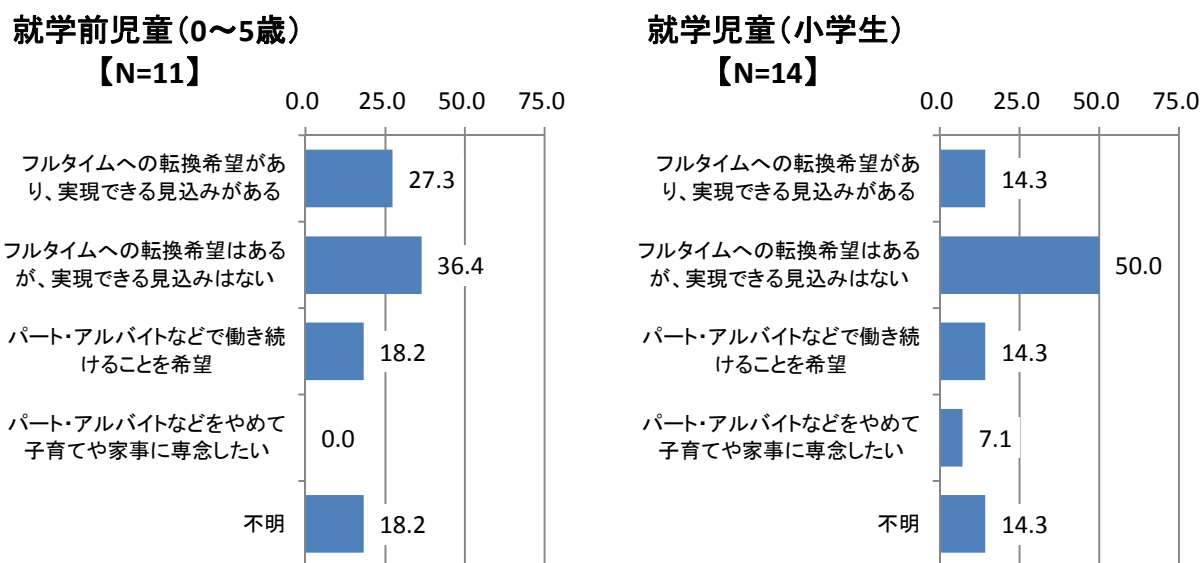


図 2-3 (14) 父親のフルタイムへの転換希望

9. 母親の就労希望

現在働いていない母親に、働きたいという希望があるかについて聞いたところ、就学前児童では「1年より先、一番下の子どもが、ある程度の年齢になったところに働きたい」が最も多く9.9%、就学児童では「すぐにでも、もしくは1年以内に働きたい」が最も多く15.6%となっている。

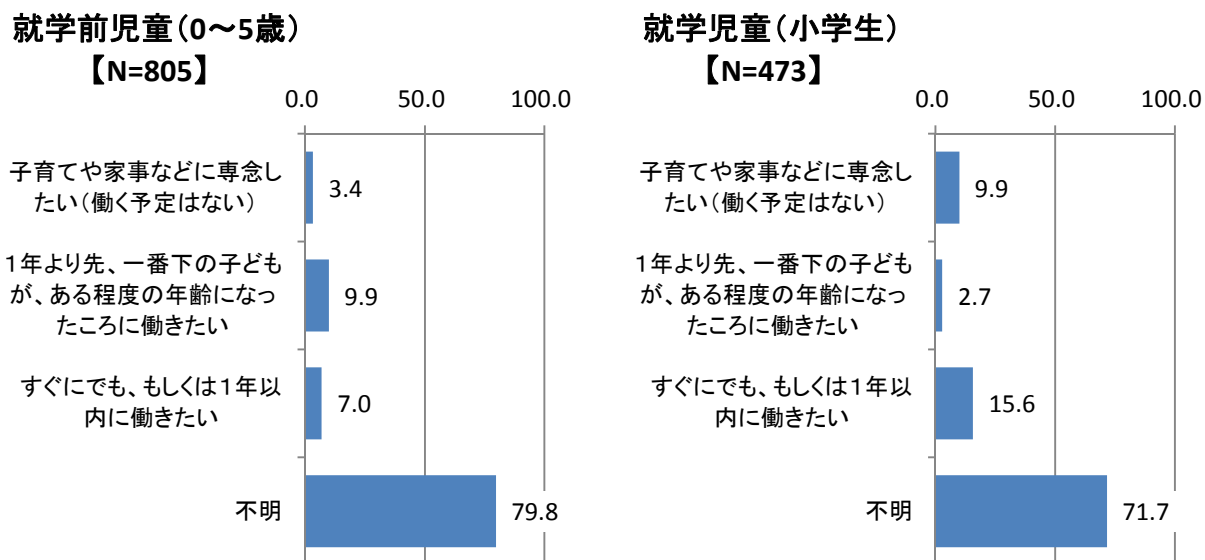


図 2-3 (15) 母親の就労希望

就労希望で「1年より先、一番下の子どもが、ある程度の年齢になったところに働きたい」と回答した母親に、一番下の子どもが何歳になったところに働きたいかについて聞いたところ、就学前児童では「6～8歳」が最も多く11.3%、平均は5.2歳であった。また、就学児童では「9歳以上」が最も多く53.8%となっており、平均は11.0歳であった。

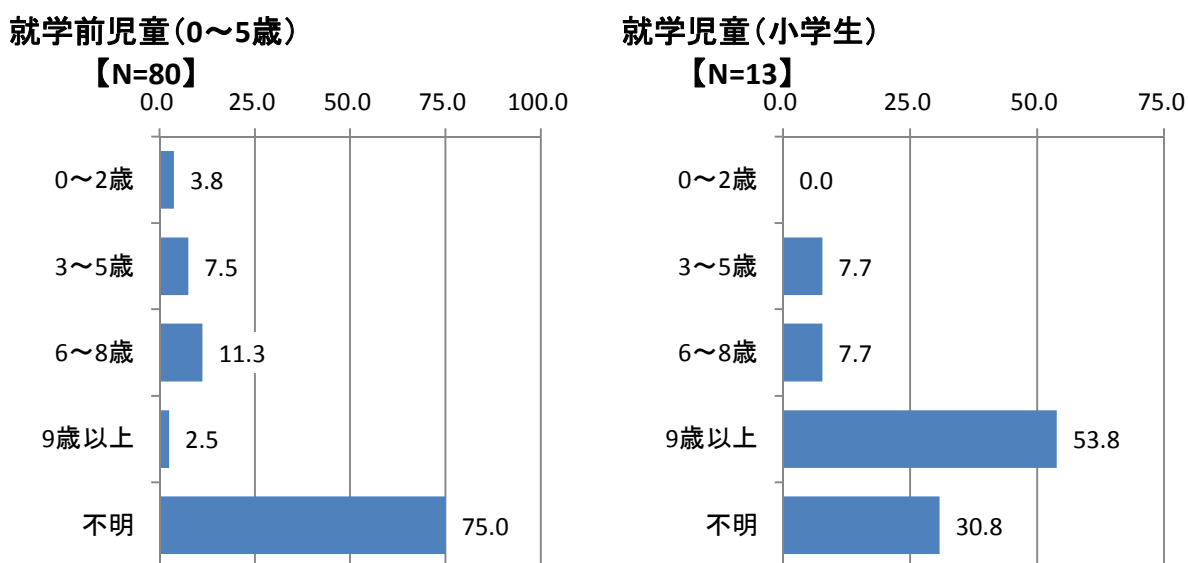


図 2-3 (16) 母親が一番下の子どもが何歳になったところに働きたいか

就労希望で「すぐにでも、もしくは1年以内に働きたい」と答えた母親に、希望する働き方について聞いたところ、就学前児童では「フルタイム」が17.9%、「パートタイム、アルバイトなど」が82.1%、就学児童では「フルタイム」が9.5%、「パートタイム、アルバイトなど」が87.8%となっており、フルタイムを希望する人は、就学前児童の方が8.4ポイント高くなっている。

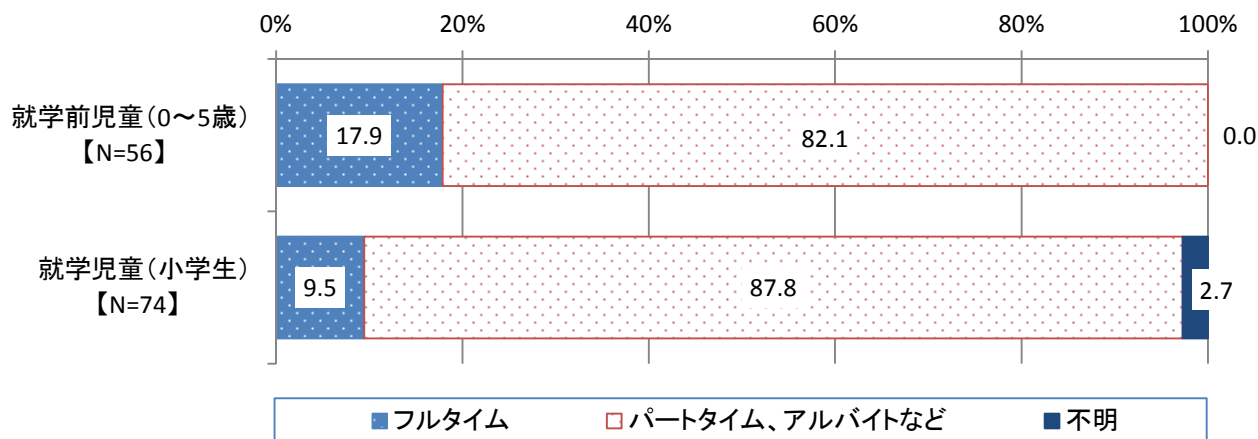


図 2-3 (17) 母親の希望する働き方（すぐにでも、もしくは1年以内に働きたい）

また、1週当たりの就労日数について、就学前児童では「3日」が最も多く33.9%、次いで「5日」が28.6%、「4日」が21.4%と続いており、平均は3.7日となっている。また、就学児童では「3日」が最も多く55.4%、次いで「4日」が26.2%、「5日」が12.3%と続いており、平均は3.5日となっている。

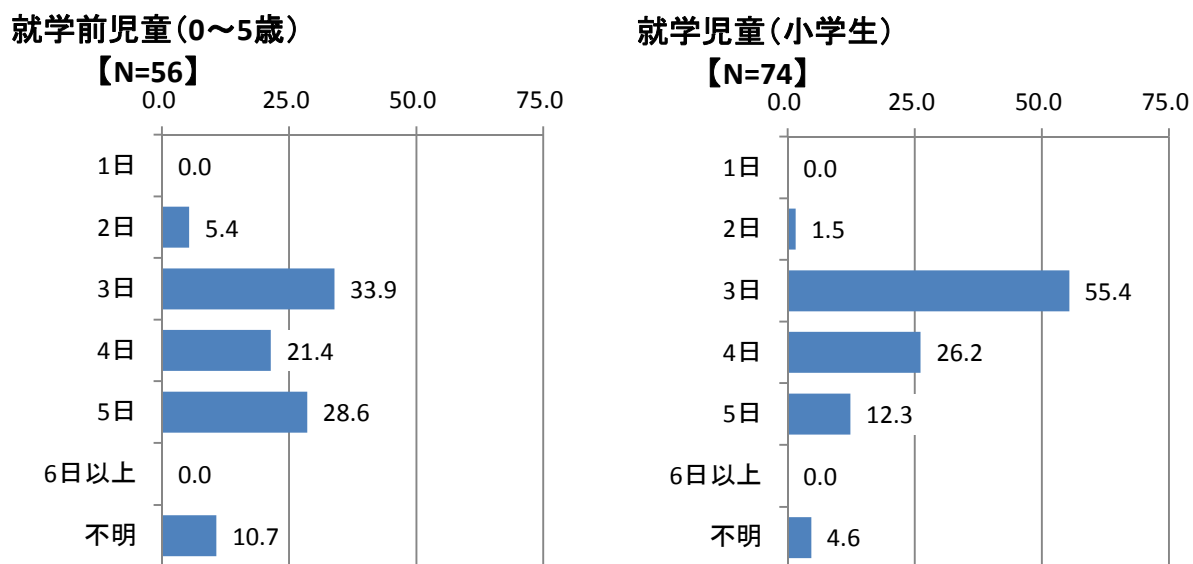


図 2-3 (18) 母親の1週当たりの希望就労日数（すぐにでも、もしくは1年以内に働きたい）

さらに、1日当たりの希望就労時間数について、就学前児童では「3時間以上6時間未満」が最も多く58.9%、平均は5.1時間となっている。また、就学児童では「3時間以上6時間未満」が最も多く83.1%、平均は4.7時間となっている。

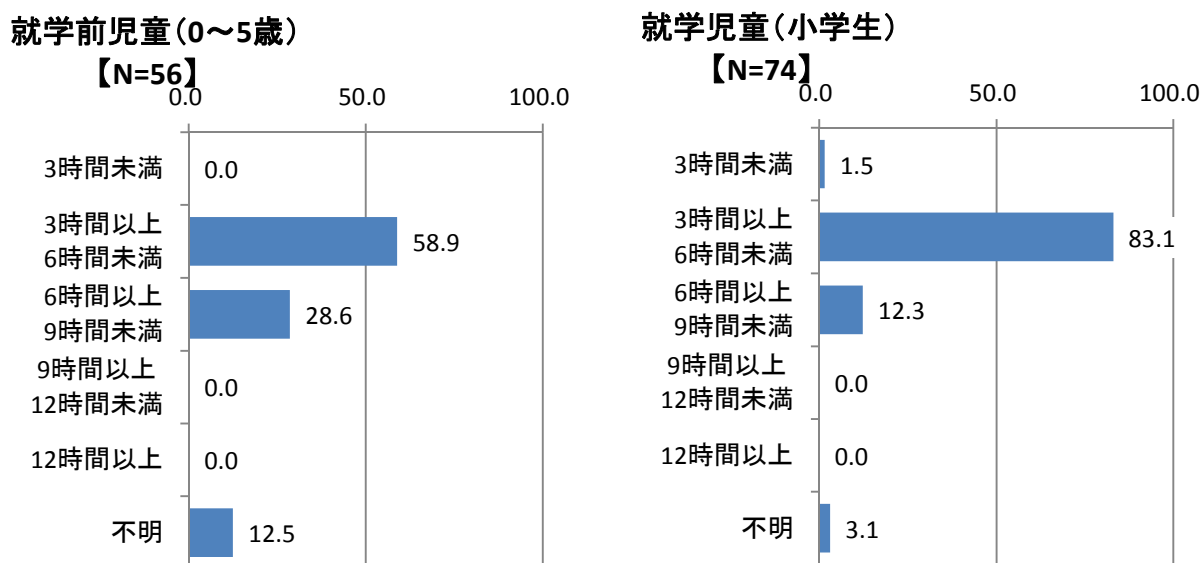


図 2-3 (19) 母親の1日当たりの希望就労時間数(すぐにでも、もしくは1年以内に働きたい)

10. 父親の就労希望

現在働いていない父親に、働きたいという希望があるかについて聞いたところ、就学前児童では「すぐにでも、もしくは1年以内に働きたい」が最も多く37.5%、就学児童では「子育てや家事などに専念したい(働く予定はない)」「すぐにでも、もしくは1年以内に働きたい」が最も多く、それぞれ20.0%となっている。

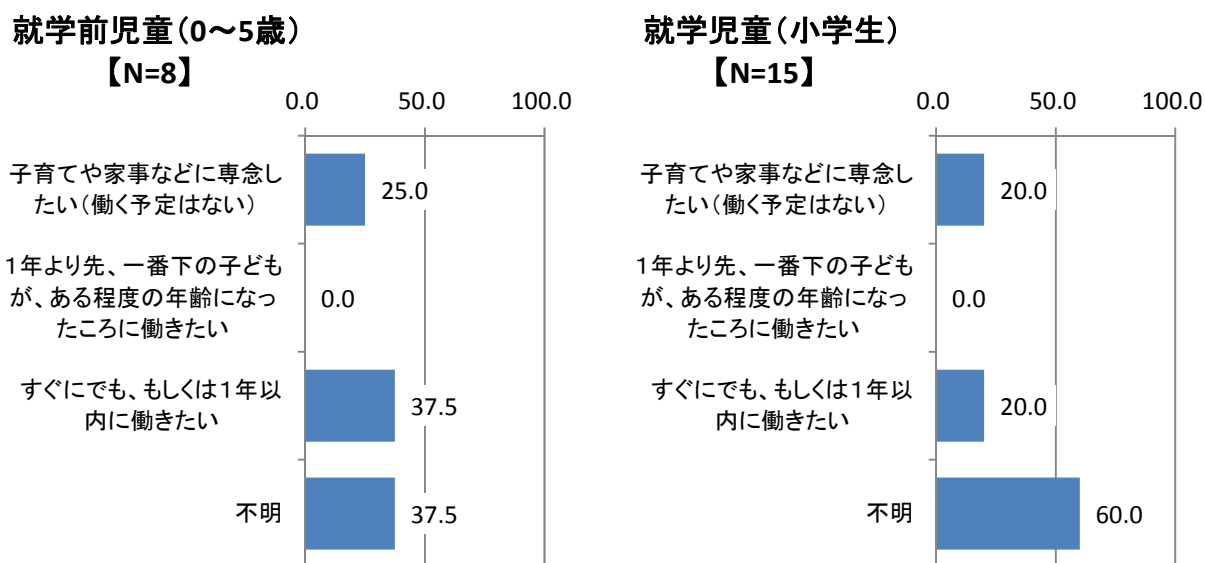


図 2-3 (20) 父親の就労希望

1.1. 就労希望の理由

現在働いていないが就労希望のある人に、その理由を聞いたところ、就学前児童では「将来への備えのため（子どもの教育費、老後の備えなど）」が最も多く 83.9%、次いで「仕事を通じて、自分の能力を発揮し、向上させたいため」が 35.0%、「働かないと、暮らしていけなくなるため」が 34.3%と続いている。また、就学児童では「将来への備えのため（子どもの教育費、老後の備えなど）」が最も多く 80.0%、「仕事を通じて、自分の能力を発揮し、向上させたいため」が 26.7%、「働かないと、暮らしていけなくなるため」が 22.2%と続いている。

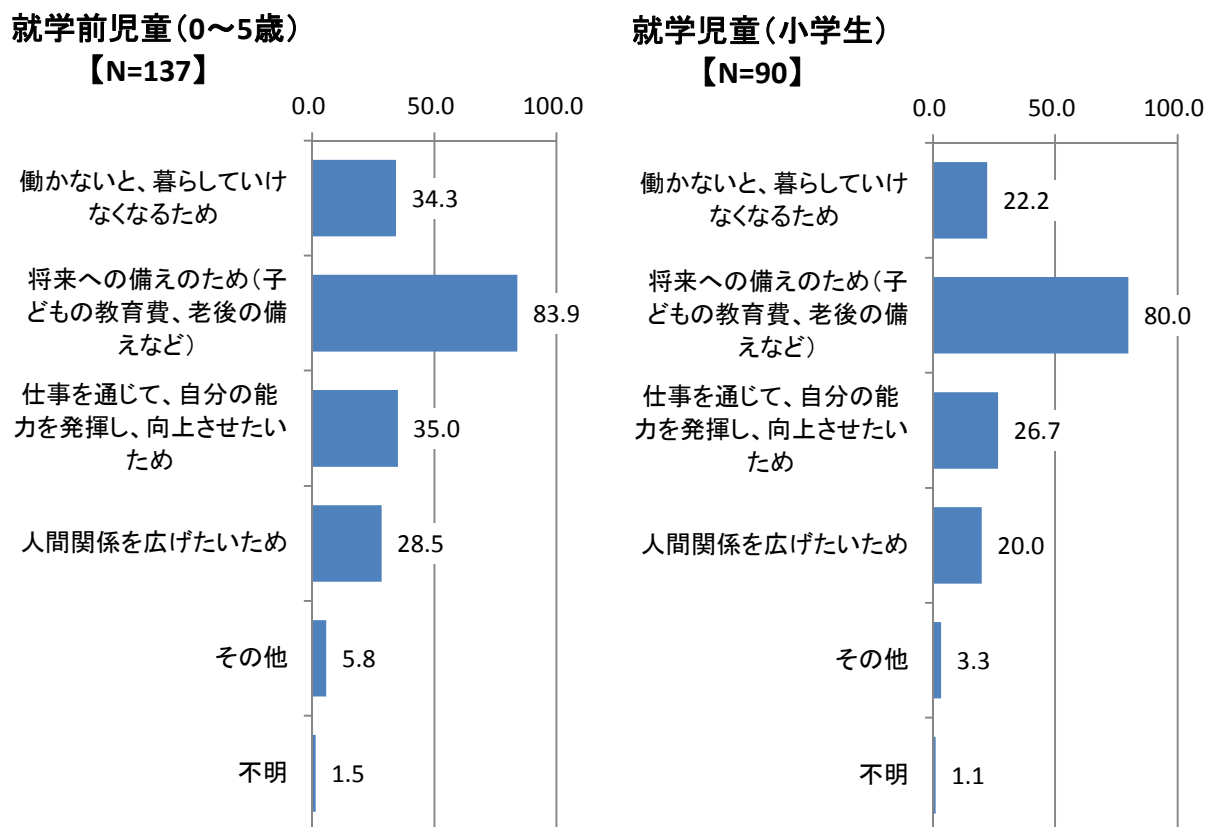


図 2-3 (21) 就労希望の理由【複数回答】

第4節 定期的な幼稚園や保育園などの利用

1. 平日の定期的な幼稚園や保育園などの利用の有無

平日の定期的な幼稚園や保育園などの利用状況について、「利用している」が59.5%、「利用していない」が40.2%で、「利用している」の方が19.3ポイント高くなっている。

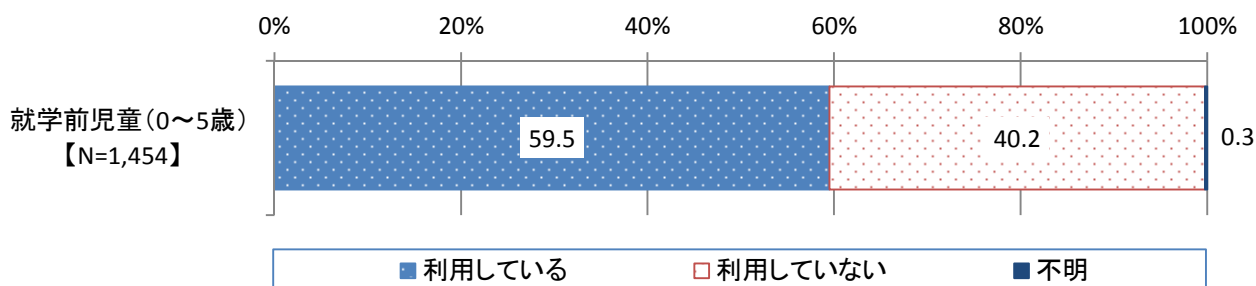


図 2-4 (1) 平日の定期的な幼稚園や保育園などの利用状況

2. 平日の定期的な幼稚園や保育園などを利用しない理由

平日の定期的な幼稚園や保育園などを利用していない人に、その理由を聞いたところ、「ご自身や配偶者が子どもの面倒をみているため、利用する必要がない」が最も多く55.0%、次いで「子どもがまだ小さいため、ある程度の年齢になったら利用しようと考えている」が41.7%、「利用したいが、幼稚園や保育所などに空きがない」が13.2%と続いている。

就学前児童(0～5歳) 【N=585】

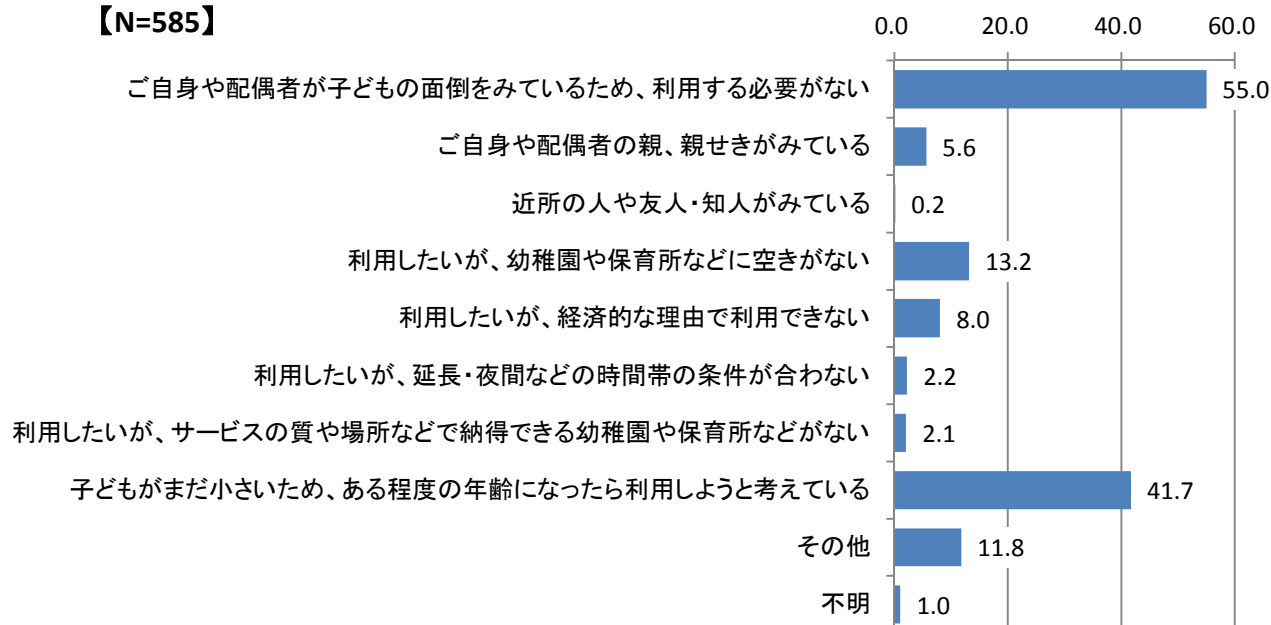


図 2-4 (2) 平日の定期的な幼稚園や保育園などを利用しない理由【複数回答】

また、平日の定期的な幼稚園や保育園などを利用しない理由で、「子どもがまだ小さいため、ある程度の年齢になったら利用しようと考えている」と回答した人に、何歳くらいになったら利用しようと考えているかについて聞いたところ、「3歳」が最も多く47.1%、次いで「4歳」が25.0%、「1歳」が14.3%と続いており、平均は2.9歳となっている。

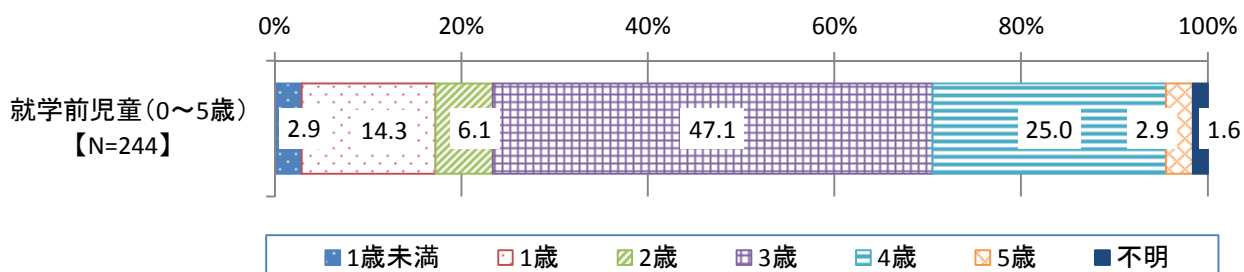


図 2-4 (3) 子どもが何歳くらいになったら利用しようと考えているか

3. 平日の定期的な幼稚園や保育園などの利用状況

平日の定期的な幼稚園や保育園などの利用状況について、現在では「認可保育所」が最も多く 41.6%、次いで「幼稚園」が 41.4%、「幼稚園+幼稚園の預かり保育」が 10.2%と続いている。また、希望では「幼稚園+幼稚園の預かり保育」が最も多く 49.7%、次いで「認可保育所」が 42.7%、「幼稚園」が 40.7%と続いている。

現在と希望を比較すると、現在より希望が増加しているものは、「幼稚園+幼稚園の預かり保育」が最も多く 39.5 ポイント、次いで「子育ての仲間が集まる場」が 22.7 ポイント、「認定こども園」が 16.9 ポイントと続いている。

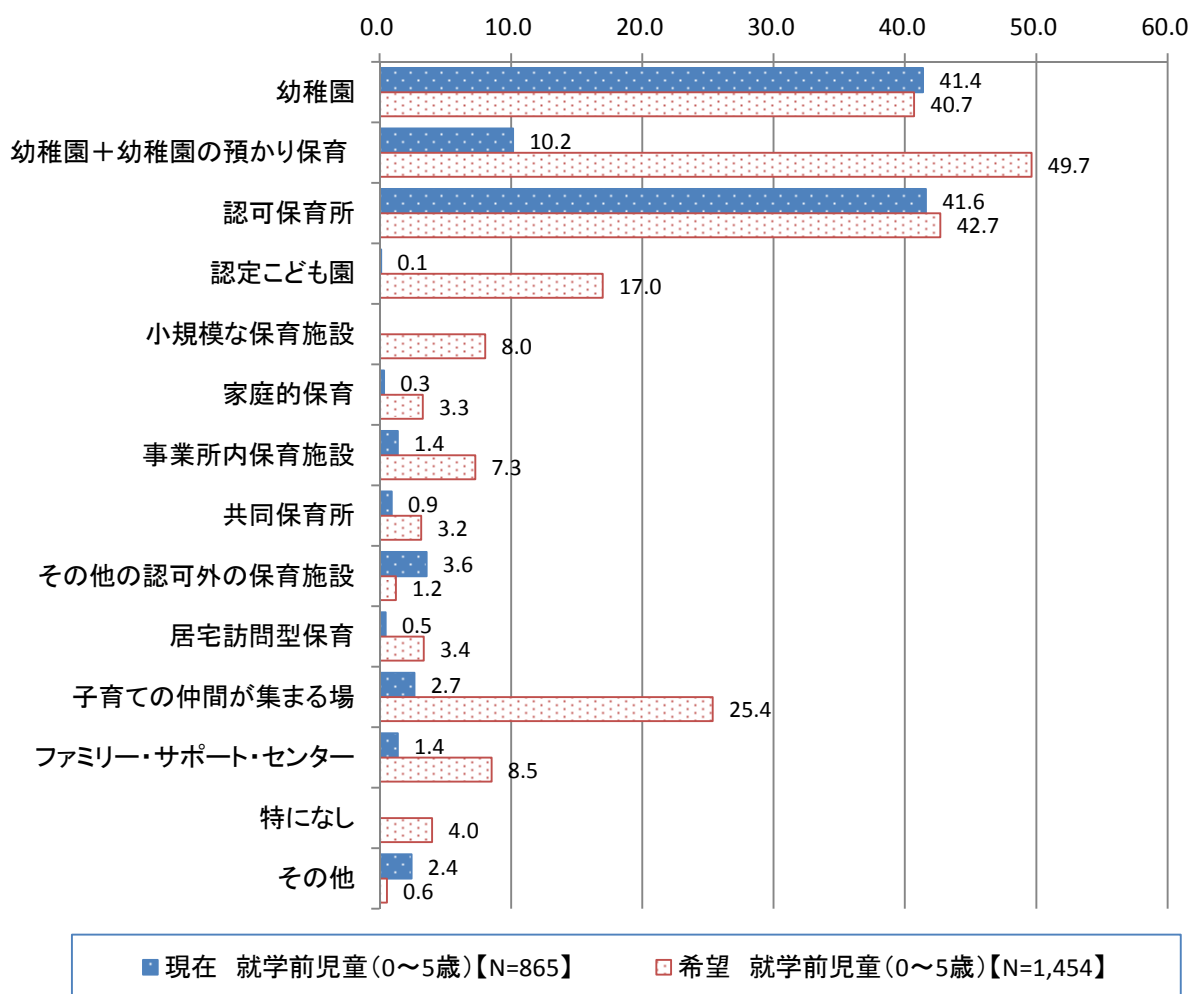


図 2-4 (4) 平日の定期的な幼稚園や保育園などの利用状況【複数回答】

表 2-4 (1) 平日の定期的な幼稚園や保育園など施設やサービスの内容

分野	施設・サービス名	追加説明
教育・保育	幼稚園	通常の就園時間だけ利用している
	幼稚園+幼稚園の預かり保育	通常の就園時間に利用し、さらに時間を延長して、定期的に預かるサービスを利用
	認可保育所	市役所に申し込んで入る公立保育所や私立保育所
	認定こども園	施設の中に幼稚園と保育所がある施設
	家庭的保育	保育士などがその自宅などで子どもを預かるサービス
	事業所内保育施設	会社や病院が主に従業員のために子どもを預かる施設
	共同保育所	市役所が定める基準を満たした認可外の保育施設
	その他の認可外の保育施設	認可外の保育施設
支援 子育て	居宅訪問型保育	ベビーシッターなどが自宅を訪問して子どもをみてるサービス
	子育ての仲間が集まる場	地域子育て支援センター（保育所）や子育て広場など
	ファミリー・サポート・センター	センターに登録している近所の人が子どもをみてるサービス

4. 平日の定期的な幼稚園や保育園などの利用日数と利用時間数

平日の定期的な幼稚園や保育園などの1週当たりの利用日数について、現在では「5日」が最も多く84.3%で、平均は4.8日となっている。また、希望では「5日」が最も多く54.8%で、平均は5.0日となっている。

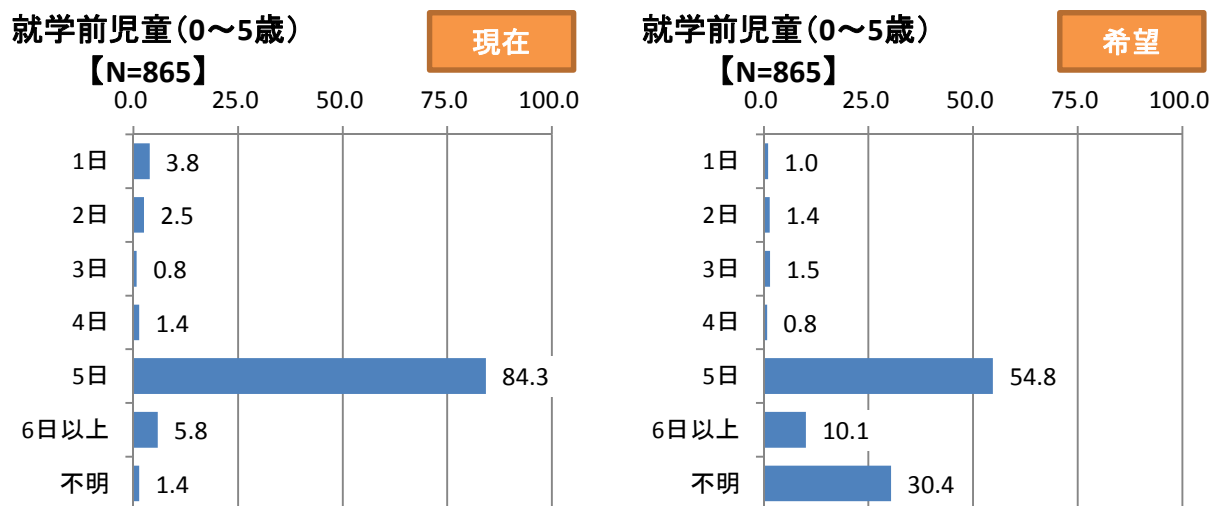


図 2-4 (5) 平日の定期的な幼稚園や保育園などの1週当たりの利用日数

平日の定期的な幼稚園や保育園などの1日当たりの利用時間数について、現在では「3時間以上6時間未満」が最も多く34.8%で、平均は7.1時間となっている。また、希望では「6時間以上9時間未満」が最も多く32.9%で、平均は7.8時間となっている。

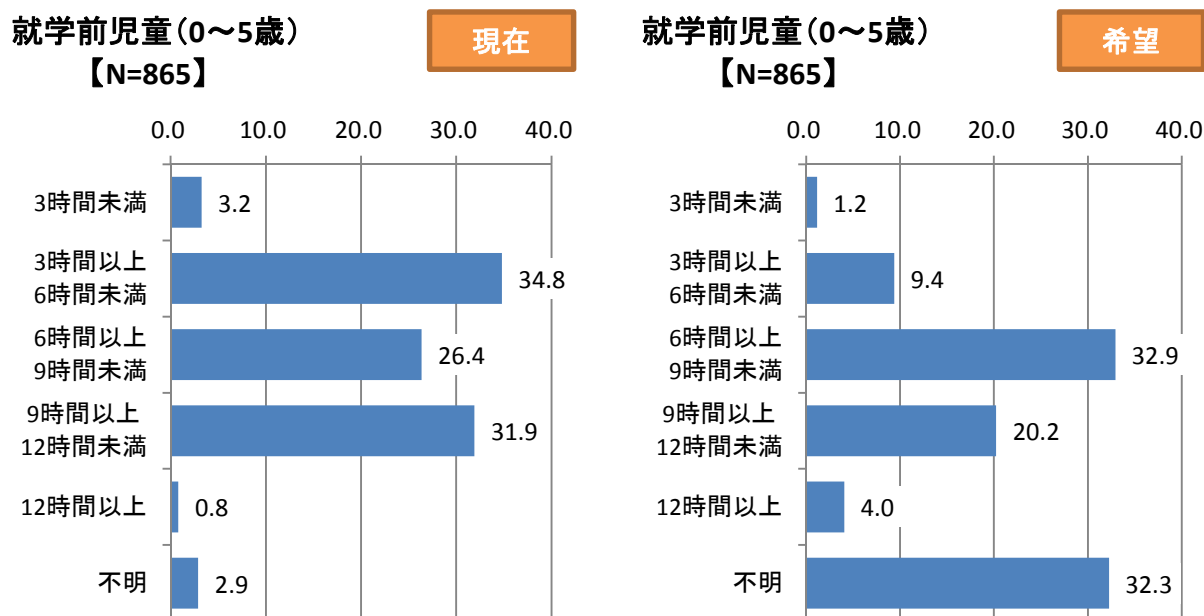


図 2-4 (6) 平日の定期的な幼稚園や保育園などの1日当たりの利用時間数

平日の定期的な幼稚園や保育園などの利用開始時間について、現在では「9時台」が最も多く46.0%、次いで「8時台」が34.2%、「8時以前」が8.2%と続いている。また、希望では「9時台」が最も多く31.7%、次いで「8時台」が24.3%、「8時以前」が7.3%と続いている。

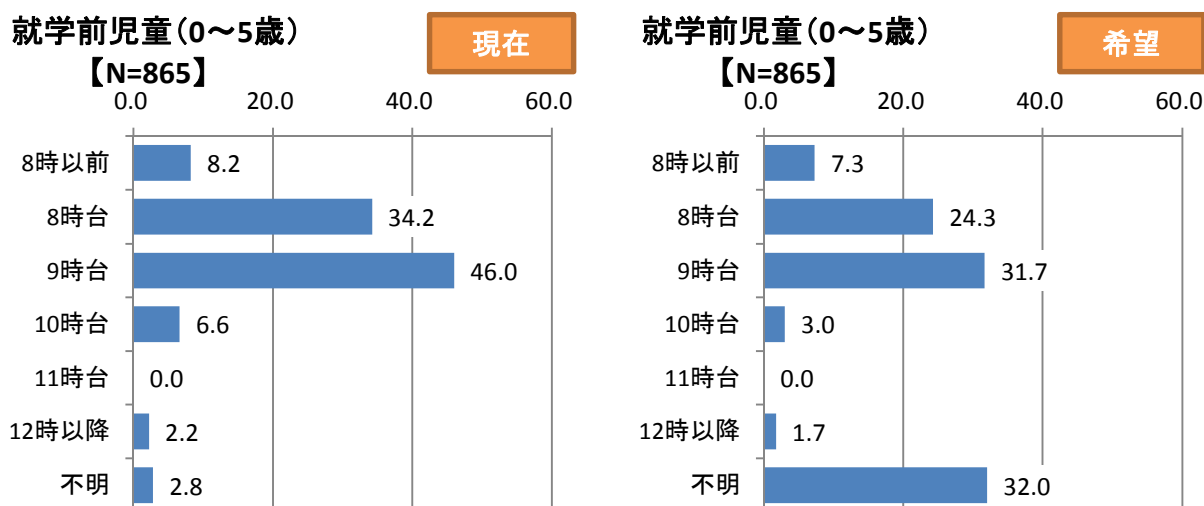


図 2-4 (7) 平日の定期的な幼稚園や保育園などの利用開始時間

平日の定期的な幼稚園や保育園などの利用終了時間について、現在では「14 時台」が最も多く 37.0%、次いで「17 時台」が 20.5%、「18 時台」が 20.3%と続いている。また、希望では「15 時台」が最も多く 14.7%、次いで「17 時台」が 12.3%、「18 時台」が 12.1%と続いている。

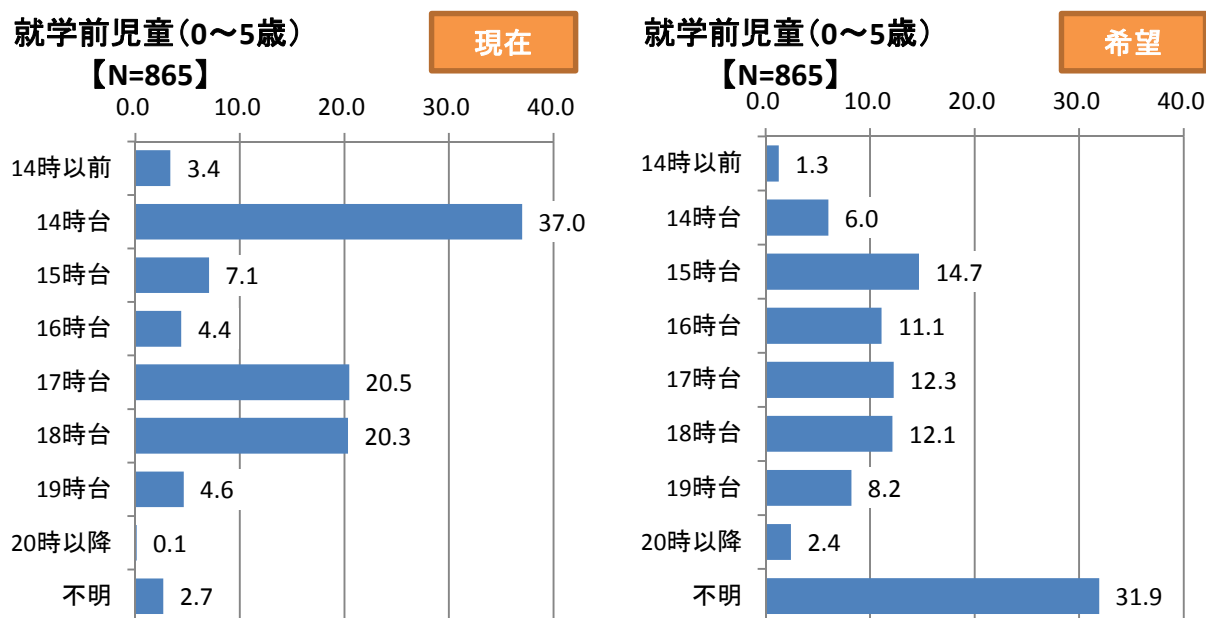


図 2-4 (8) 平日の定期的な幼稚園や保育園などの利用終了時間

5. 幼稚園や保育園などの所在地

現在、利用されている施設などの所在地について、「吹田市内（自宅を訪問するサービスも含む）」が 86.8%、「他の市区町村」が 9.1%で、「吹田市内」の方が 77.7 ポイント高くなっている。

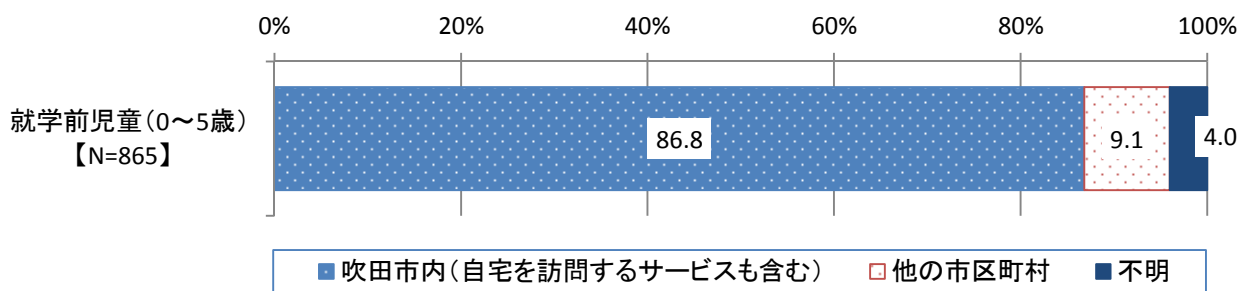


図 2-4 (9) 幼稚園や保育所などの所在地

6. 幼稚園や保育園などを利用する理由

幼稚園や保育所などを利用する理由について、「子どもの教育や発達のため」が最も多く 64.4%、次いで「保護者が働いている」が 49.5%と続いている。

就学前児童(0～5歳) 【N=865】

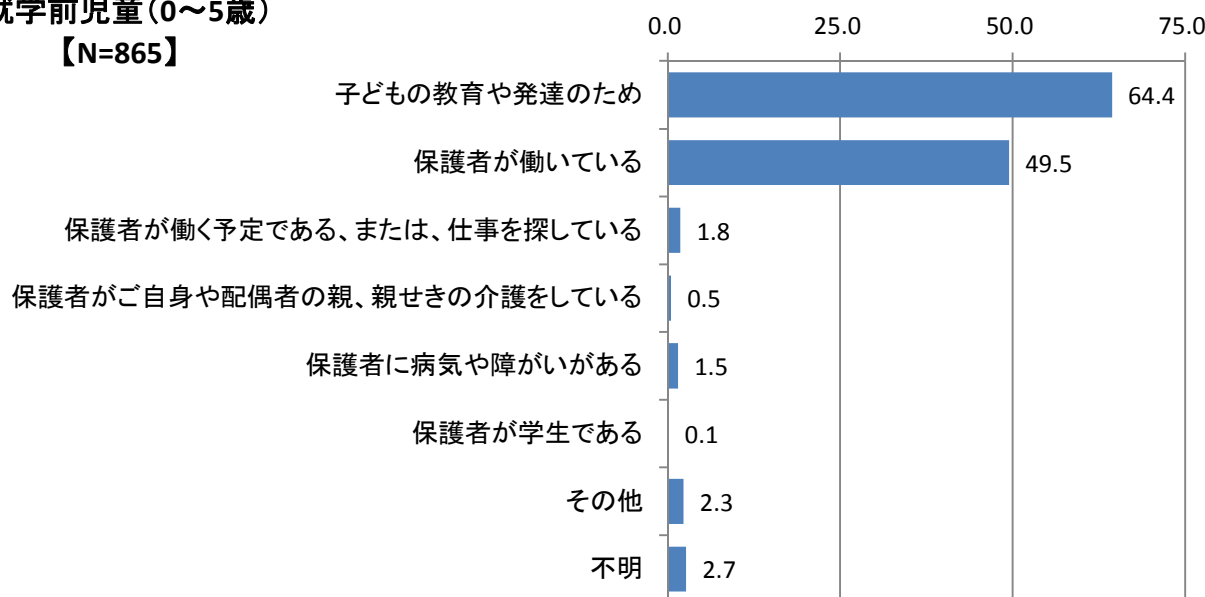


図 2-4 (10) 幼稚園や保育園などを利用する理由【複数回答】

7. 土曜日、日曜日・祝日の幼稚園や保育所などの利用希望

土曜日、日曜日・祝日の幼稚園や保育所などの利用希望について、土曜日では「利用する必要はない」が最も多く 68.2%、次いで「月に 1～2 回は利用したい」が 22.4%、「ほぼ毎週利用したい」が 7.8%となっている。また、日曜日・祝日では、「利用する必要はない」が最も多く 81.8%、次いで「月に 1～2 回は利用したい」が 12.3%、「ほぼ毎週利用したい」が 2.4%となっている。

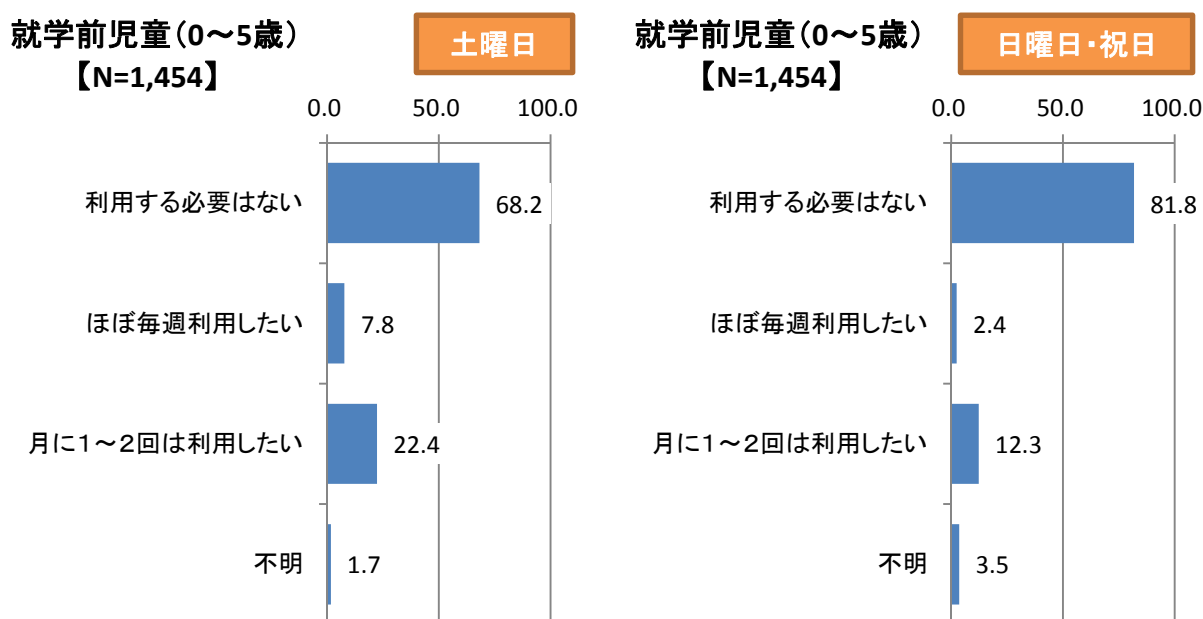


図 2-4 (11) 土曜日、日曜日・祝日の幼稚園や保育所などの利用希望

土曜日、日曜日・祝日の幼稚園や保育所などの利用希望で、ほぼ毎週利用したいと回答した人に、利用したい時間帯を聞いたところ、利用希望開始時間は、土曜日で「8時台」が最も多く39.8%、日曜日・祝日で「9時台」が最も多く40.0%となっている。また、利用希望終了時間は、土曜日で「17時台」「18時台」が最も多く、それぞれ29.2%、日曜日・祝日で「17時台」「18時台」が最も多く、それぞれ28.6%となっている。

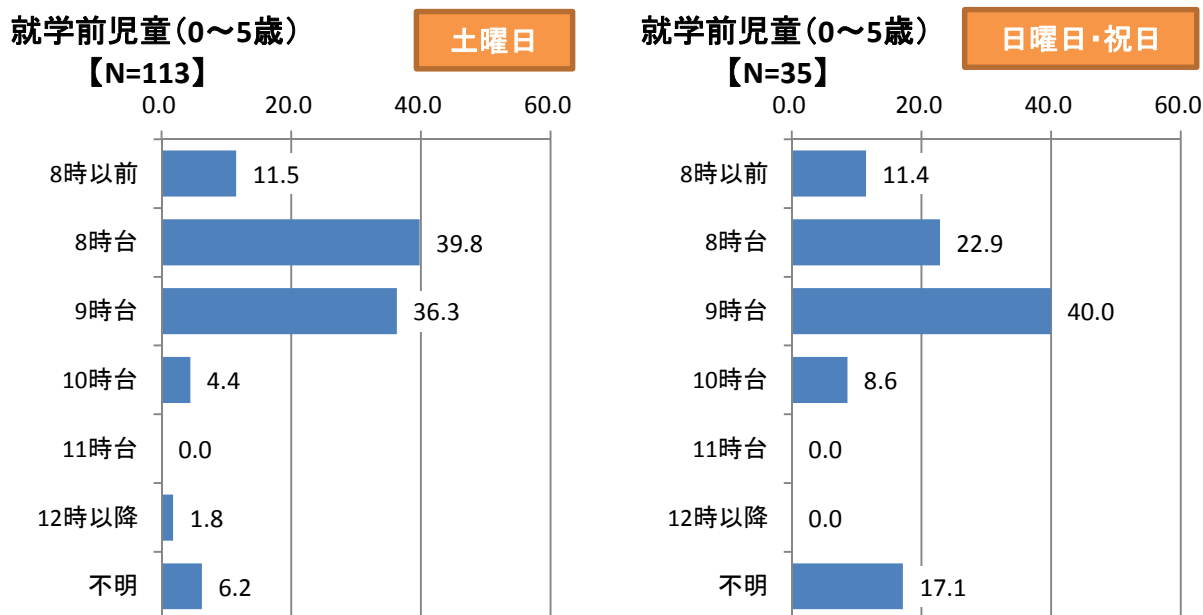


図 2-4 (12) ほぼ毎週利用したい場合の利用希望開始時間

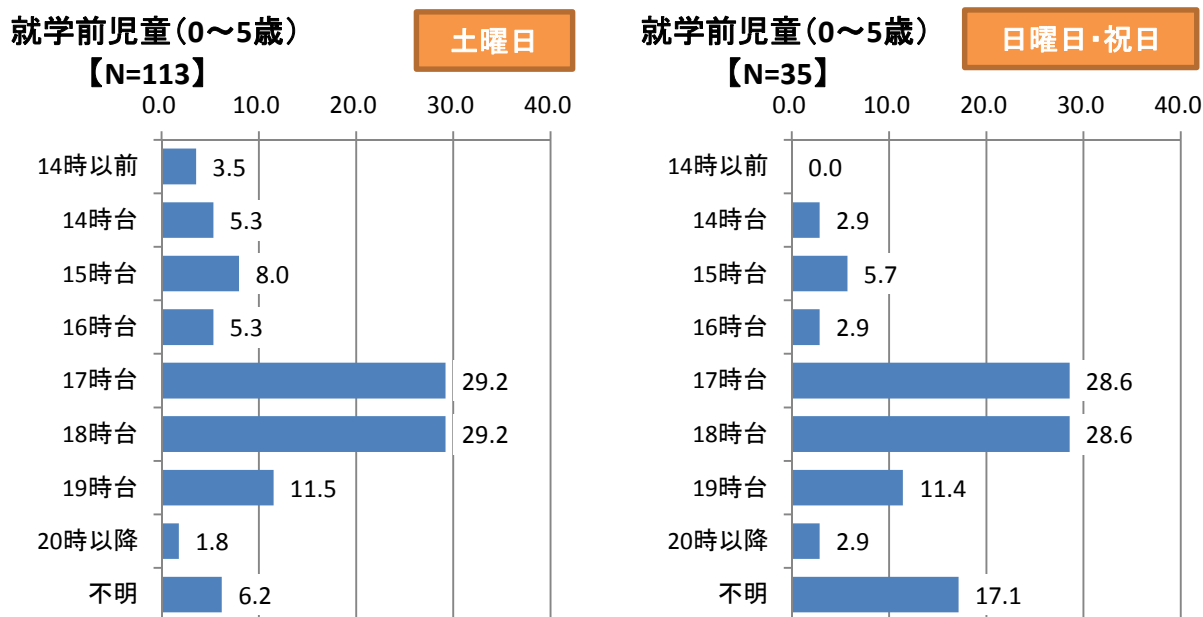


図 2-4 (13) ほぼ毎週利用したい場合の利用希望終了時間

土曜日、日曜日・祝日の幼稚園や保育所などの利用希望で、「月に1～2回は利用したい」と回答した人に、利用したい時間帯を聞いたところ、利用希望開始時間は、土曜日で「9時台」が最も多く45.8%、日曜日・祝日で「9時台」が最も多く40.8%となっている。また、利用希望終了時間は、土曜日で「17時台」が最も多く27.1%、日曜日・祝日で「17時台」が最も多く32.4%となっている。

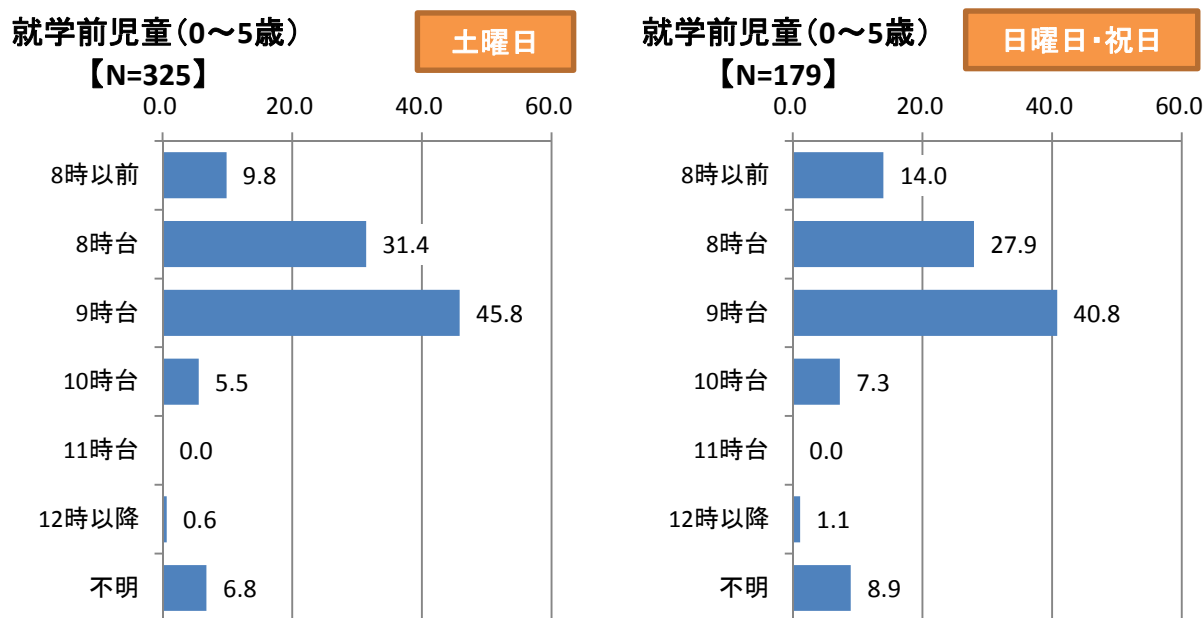


図 2-4 (14) 月に1～2回は利用したい場合の利用希望開始時間

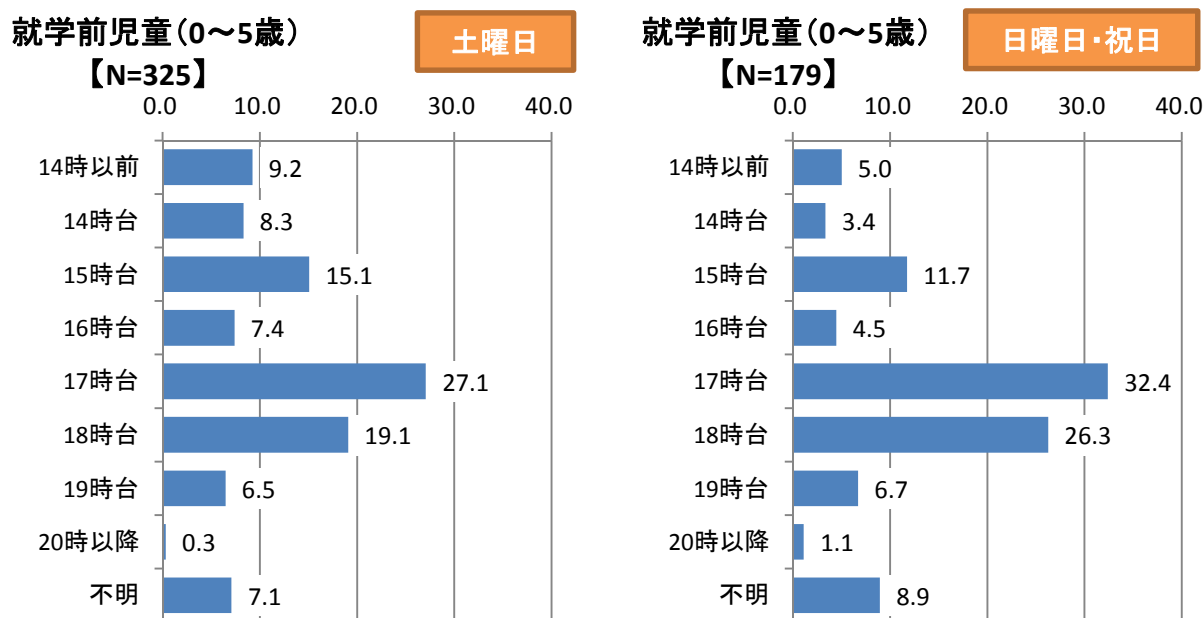


図 2-4 (15) 月に1～2回は利用したい場合の利用希望終了時間

8. 長期休暇中の幼稚園の利用希望

夏休み・冬休みなどの長期休暇中に幼稚園を利用したいかについて、「利用する必要はない」が最も多く49.2%、次いで「休みの期間中、週に数日利用したい」が27.7%、「休みの期間中、ほぼ毎日使いたい」が19.2%となっている。

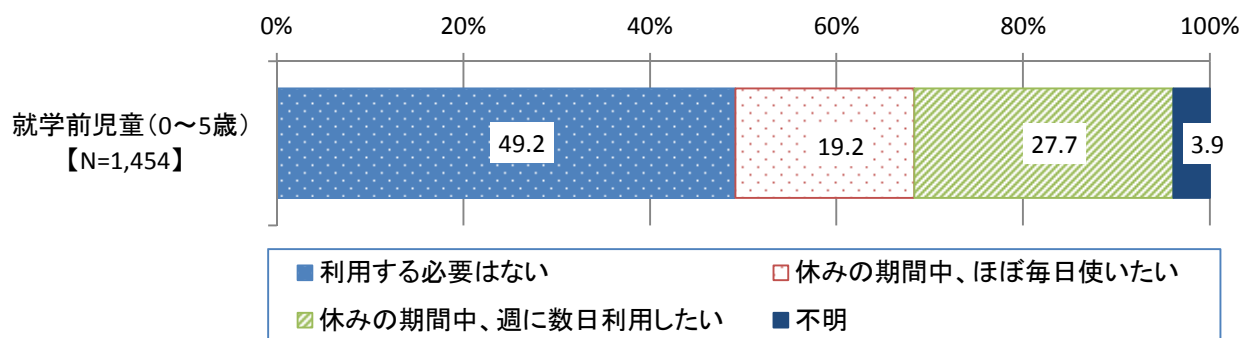


図 2-4 (16) 長期休暇中の幼稚園の利用希望

夏休み・冬休みなどの長期休暇中に幼稚園の利用希望がある人に、利用したい時間帯を聞いたところ、休みの期間中、ほぼ毎日使いたい場合は、希望開始時間は「8時台」が最も多く42.3%、希望終了時間は「18時台」が最も多く38.0%となっている。また、休みの期間中、週に数日利用したい場合は、希望開始時間は「9時台」が最も多く63.0%、希望終了時間は「15時台」が最も多く25.1%となっている。

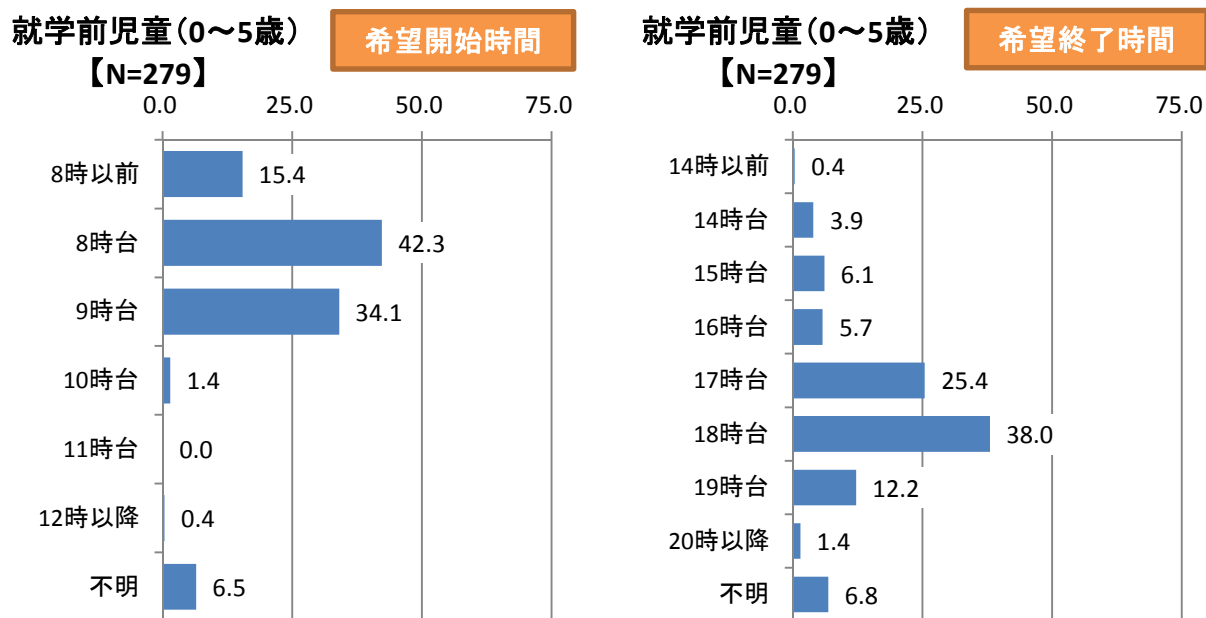


図 2-4 (17) 休みの期間中、ほぼ毎日使いたい場合の利用希望時間帯

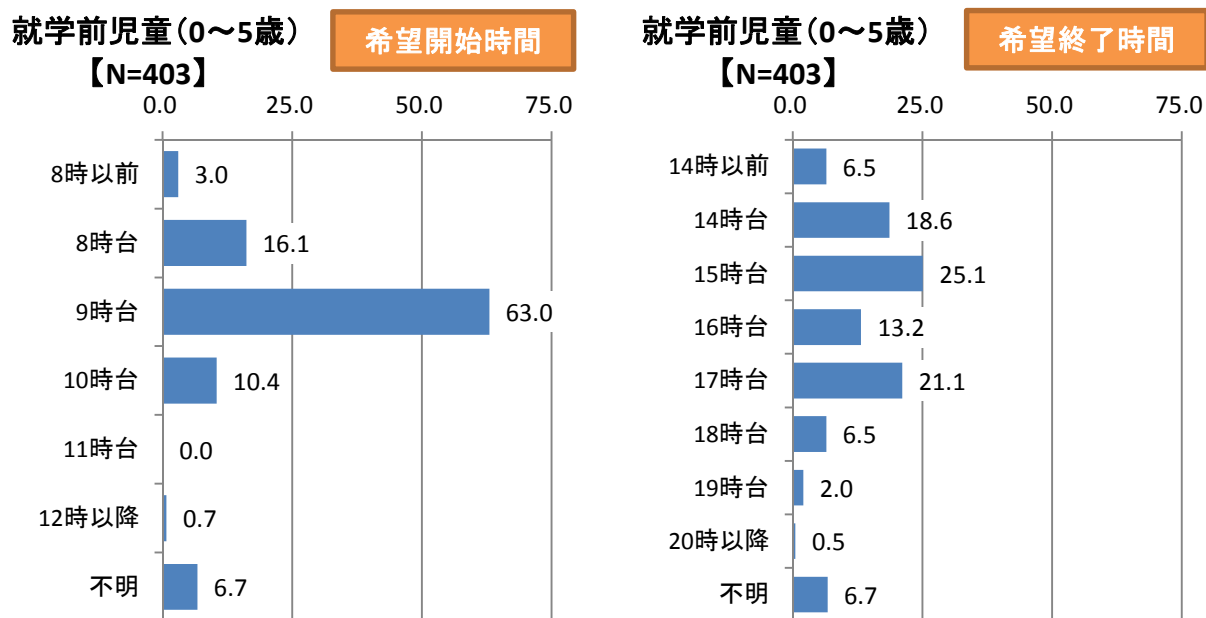


図 2-4 (18) 休みの期間中、週に数日利用したい場合の利用希望時間帯

第5節 小学校終了後の放課後の過ごし方

1. 留守家庭児童育成室の利用の有無（小学1年～小学3年）

留守家庭児童育成室の利用の有無について、「利用している」が22.6%、「利用していない」が76.2%で、「利用していない」の方が53.6ポイント高くなっている。

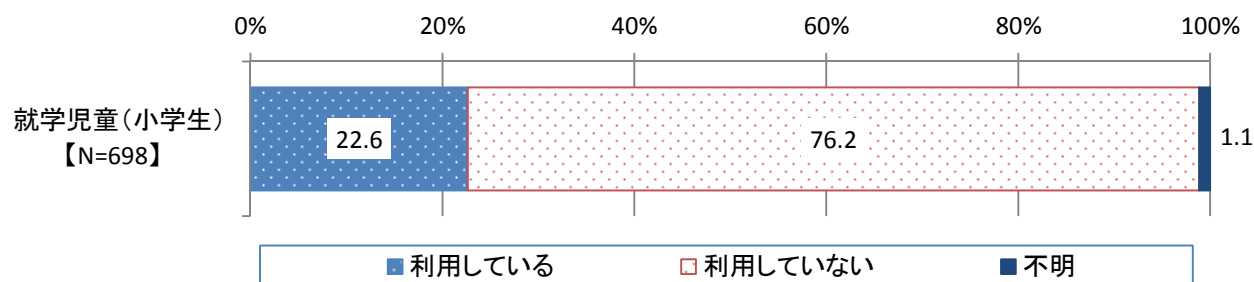


図 2-5 (1) 留守家庭児童育成室の利用の有無

2. 留守家庭児童育成室の利用日数と利用時間数（小学1年～小学3年）

留守家庭児童育成室を利用している人に、留守家庭児童育成室の1週当たりの利用日数について聞いたところ、現在では「5日」が最も多く84.8%で、平均は4.9日となっている。また、希望では「5日」が最も多く55.1%で、平均は5.1日となっている。

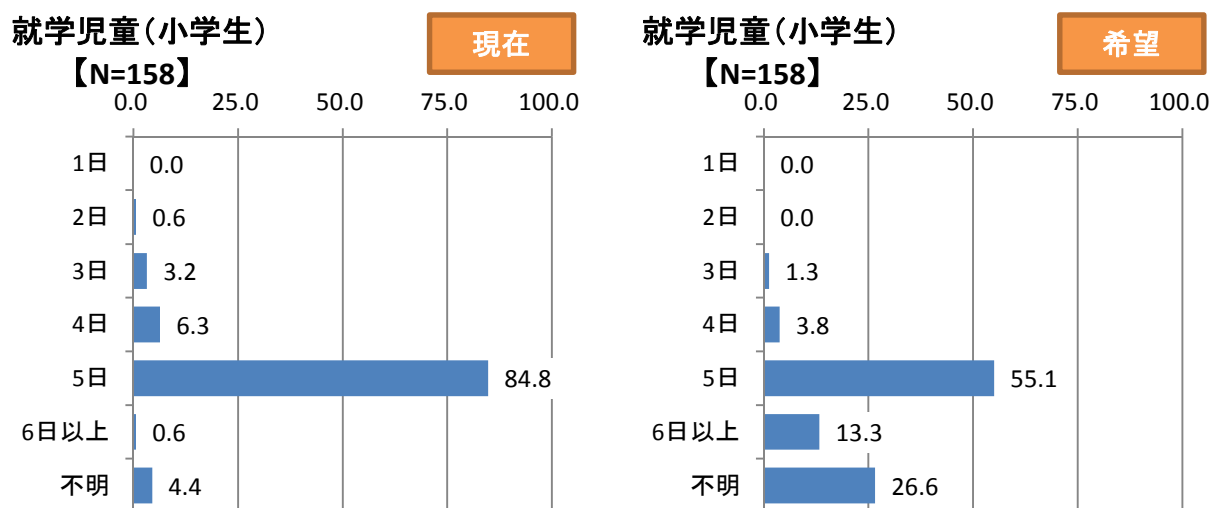


図 2-5 (2) 留守家庭児童育成室の1週当たりの利用日数

留守家庭児童育成室の1日当たりの利用時間数について、現在では「3時間未満」が最も多く37.3%で、平均は2.7時間となっている。また、希望では「3時間以上6時間未満」が最も多く36.1%で、平均は3.4時間となっている。

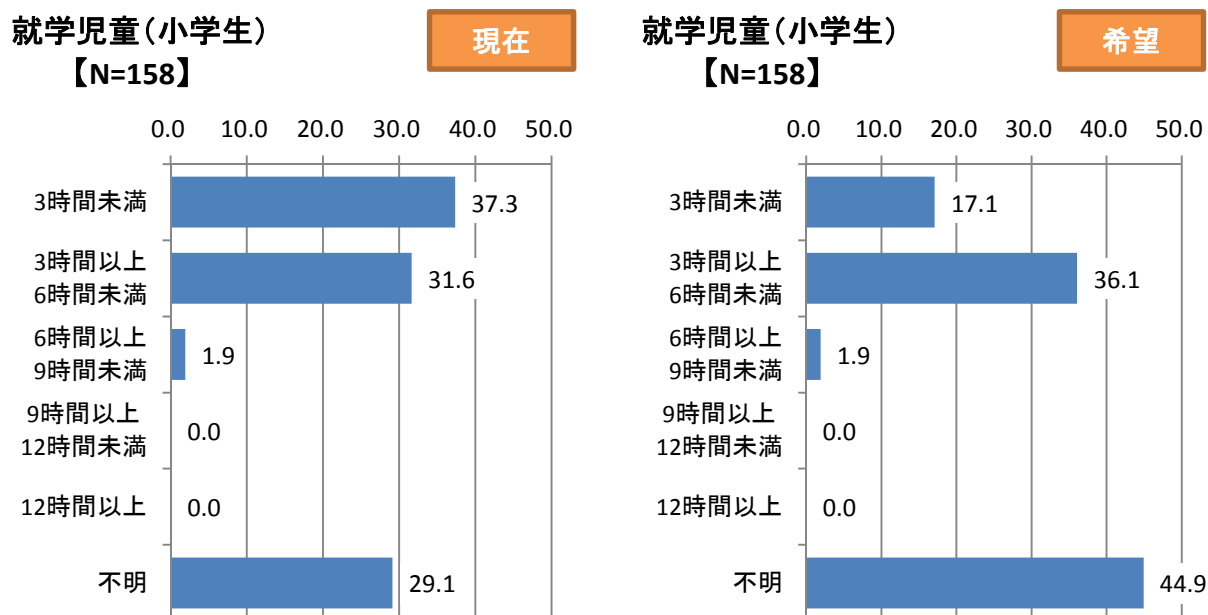


図 2-5 (3) 留守家庭児童育成室の1日当たりの利用時間数

留守家庭児童育成室の利用終了時間について、現在では「17時台」が最も多く75.3%、次いで「18時台」が16.5%となっている。また、希望では「17時台」が最も多く36.7%、次いで「19時台」が22.8%となっている。

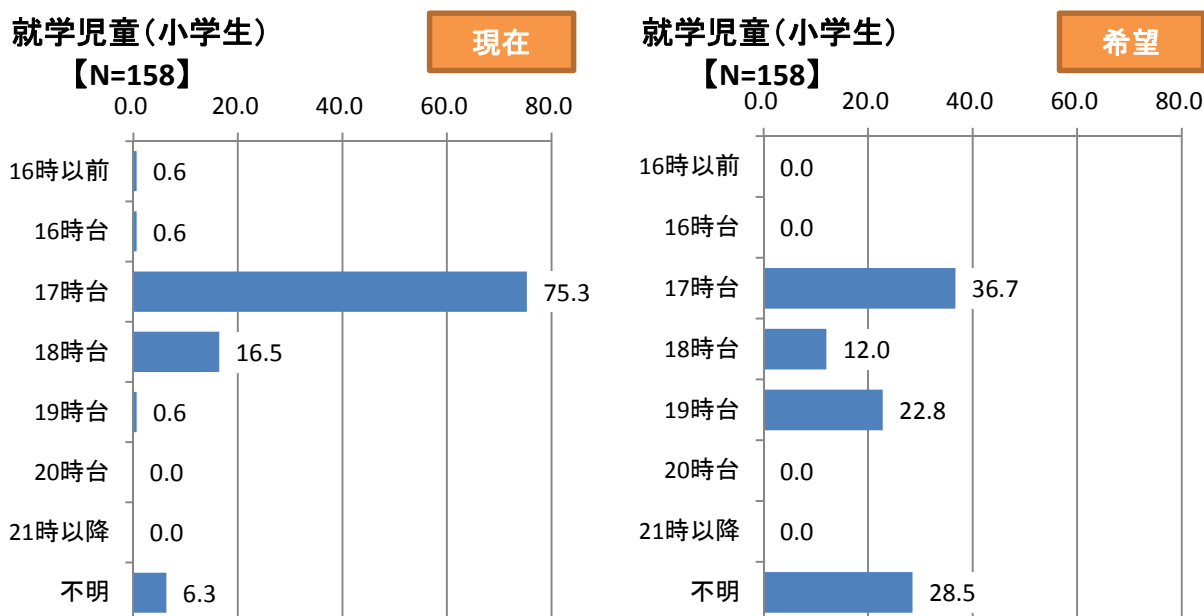


図 2-5 (4) 留守家庭児童育成室の利用終了時間

3. 留守家庭児童育成室の利用理由（小学1年～小学3年）

留守家庭児童育成室の利用理由について、「保護者が働いている」が最も多く 97.5%となっている。

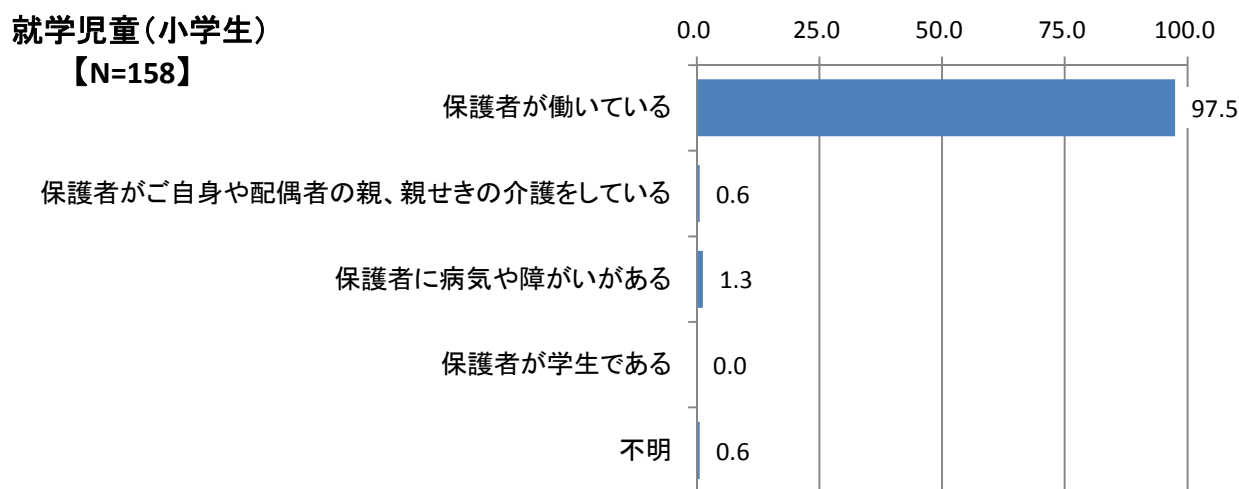


図 2-5 (5) 留守家庭児童育成室の利用理由

4. 土曜日、日曜日・祝日の留守家庭児童育成室の利用希望（小学1年～小学3年）

土曜日、日曜日・祝日の留守家庭児童育成室の利用希望について、土曜日では「利用する必要はない」が最も多く 59.5%、次いで「月に1～2回は利用したい」が 20.9%、「ほぼ毎週利用したい」が 17.1%となっている。また、日曜日・祝日では「利用する必要はない」が最も多く 72.8%、次いで「月に1～2回は利用したい」が 17.7%、「ほぼ毎週利用したい」が 1.3%となっている。

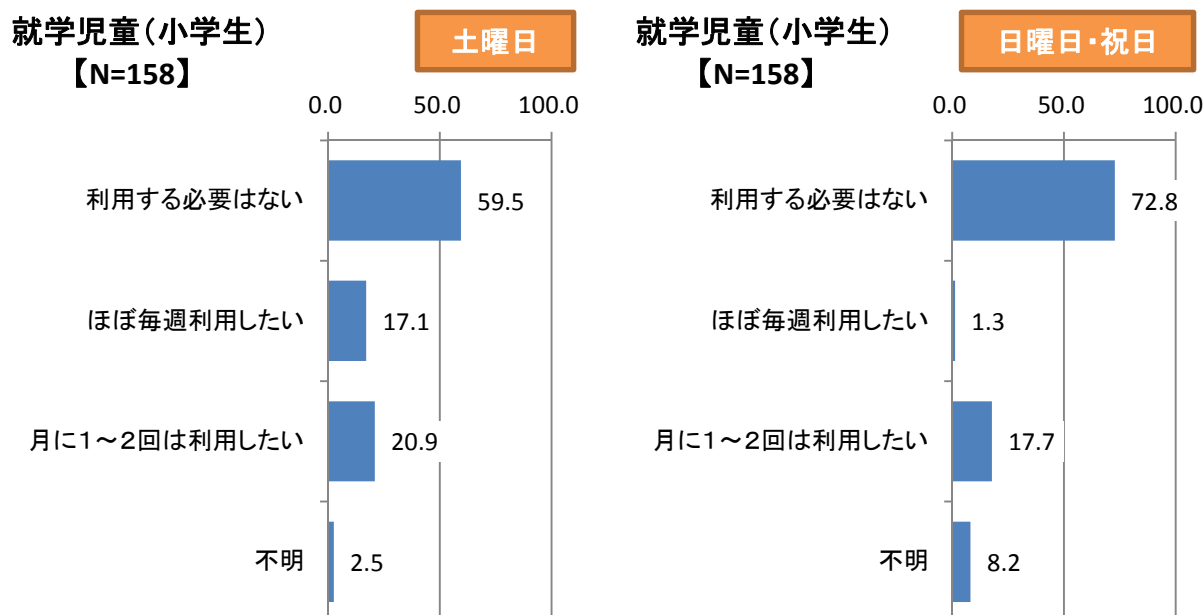


図 2-5 (6) 土曜日、日曜日・祝日の留守家庭児童育成室の利用希望

土曜日、日曜日・祝日の留守家庭児童育成室の利用希望で、「月に1～2回は利用したい」と回答した人に、毎週ではなく、たまに利用したい理由を聞いたところ、「月に数回仕事が入るため」が最も多く88.6%となっている。

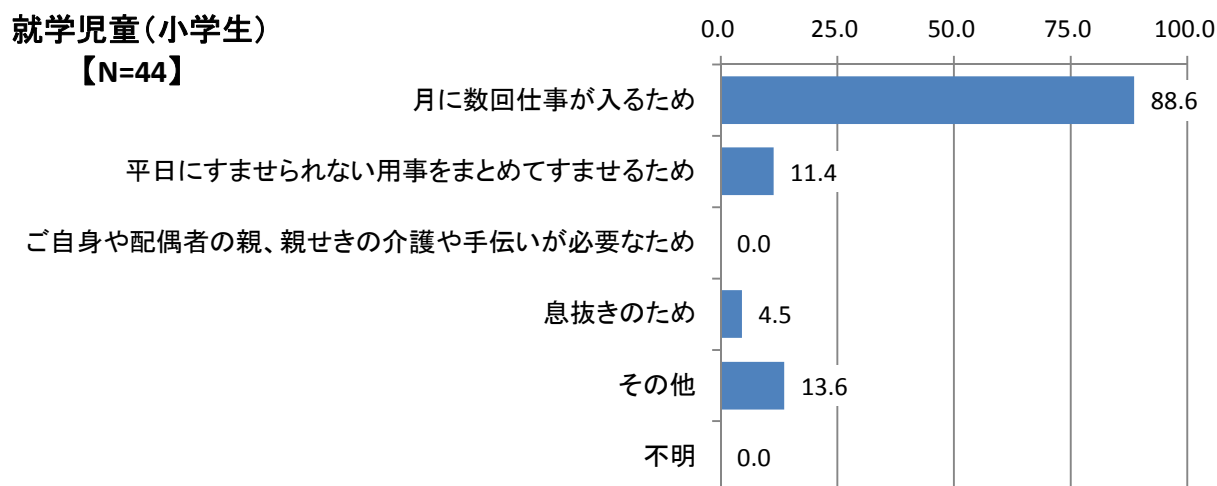


図 2-5 (7) 土曜日、日曜日・祝日の留守家庭児童育成室をたまに利用したい理由【複数回答】

5. 留守家庭児童育成室への要望（小学1年～小学3年）

留守家庭児童育成室への要望について、「施設や設備を改善する」が最も多く54.4%、次いで「その他」が43.7%、「夕方の利用時間を延長する」が30.4%と続いている。また、その他の主な内容として「小学4年生以降の期間延長」「指導員の人数を増やしてほしい」などがある。

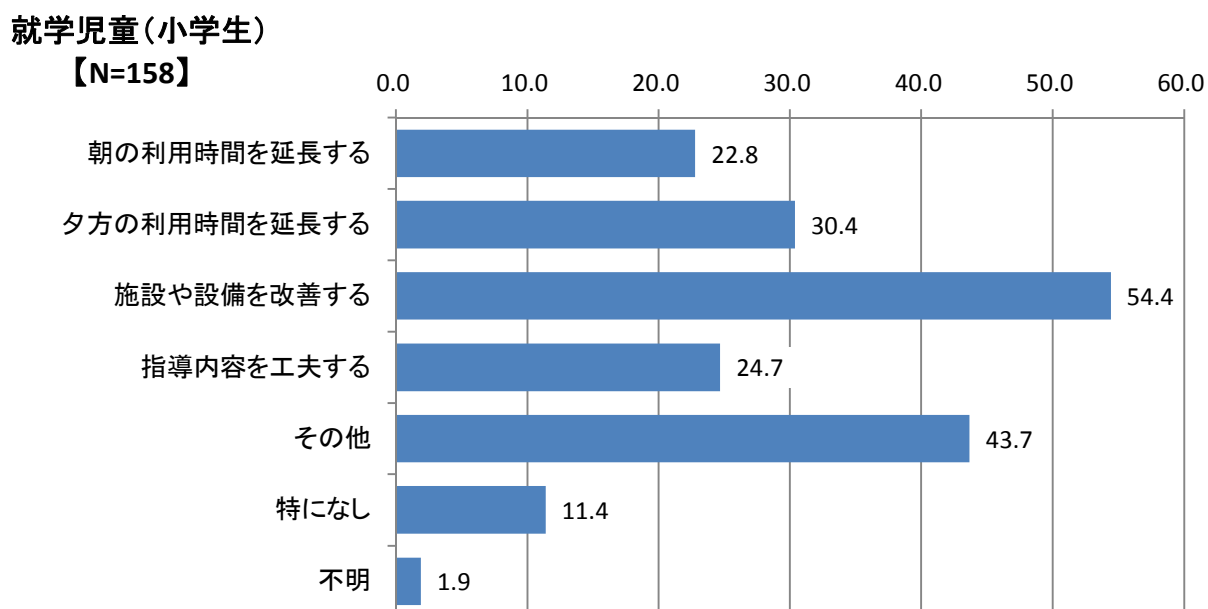


図 2-5 (8) 留守家庭児童育成室への要望【複数回答】

6. 小学4年生以降の放課後の過ごし方（小学1年～小学3年）

小学4年生以降の放課後の過ごし方について、「留守家庭児童育成室を利用したい」が最も多く69.0%、次いで「スポーツクラブや学習塾などの習い事をさせたい」が12.7%、「子どもに自宅の留守番をしてもらおう」が7.0%と続いている。

就学児童(小学生)

【N=158】

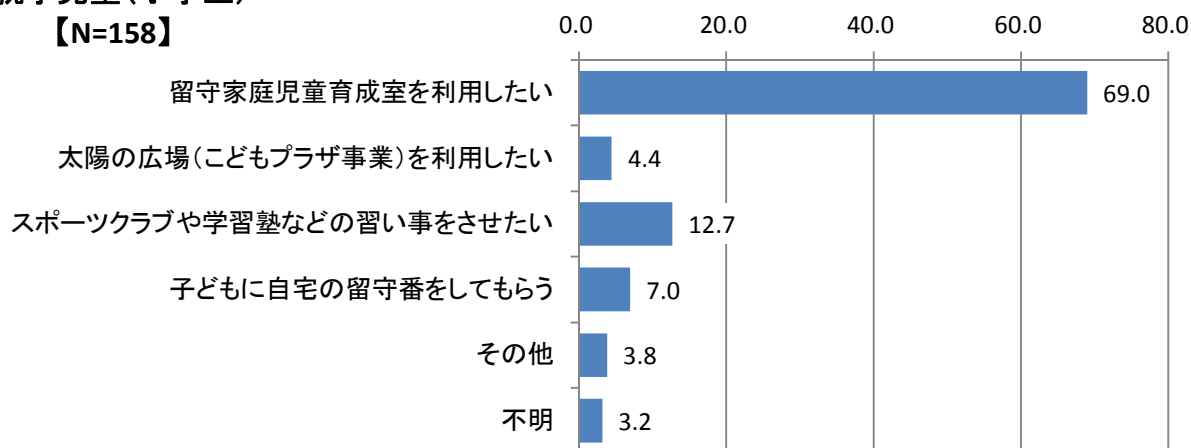


図 2-5 (9) 小学4年生以降の放課後の過ごし方

また、小学4年生以降の放課後の過ごし方で、「留守家庭児童育成室を利用したい」と回答した人に、小学何年生まで利用したいかについて聞いたところ、「6年生」が最も多く75.2%、次いで「4年生」が15.6%、「5年生」が4.6%となっている。

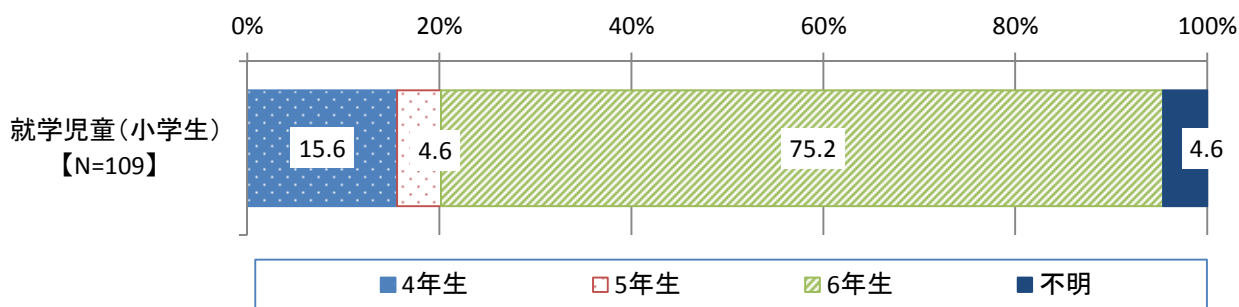


図 2-5 (10) 留守家庭児童育成室を小学何年生まで利用したいか

7. 留守家庭児童育成室を利用していない理由（小学1年～小学3年）

留守家庭児童育成室を利用していない人に、その理由について聞いたところ、「ご自身や配偶者が子どもの面倒をみているため、利用する必要がない」が最も多く62.8%、次いで「その他」が13.3%、「父母とも働いているが、放課後の短時間なら子どもだけでも大丈夫だと思うから」が8.5%と続いている。また、その他の主な内容として「行事や役員の仕事が多すぎるため」「子どもが利用するのを嫌がるから」「子どもだけで大丈夫だと思うから」などがある。

就学児童(小学生)

【N=532】

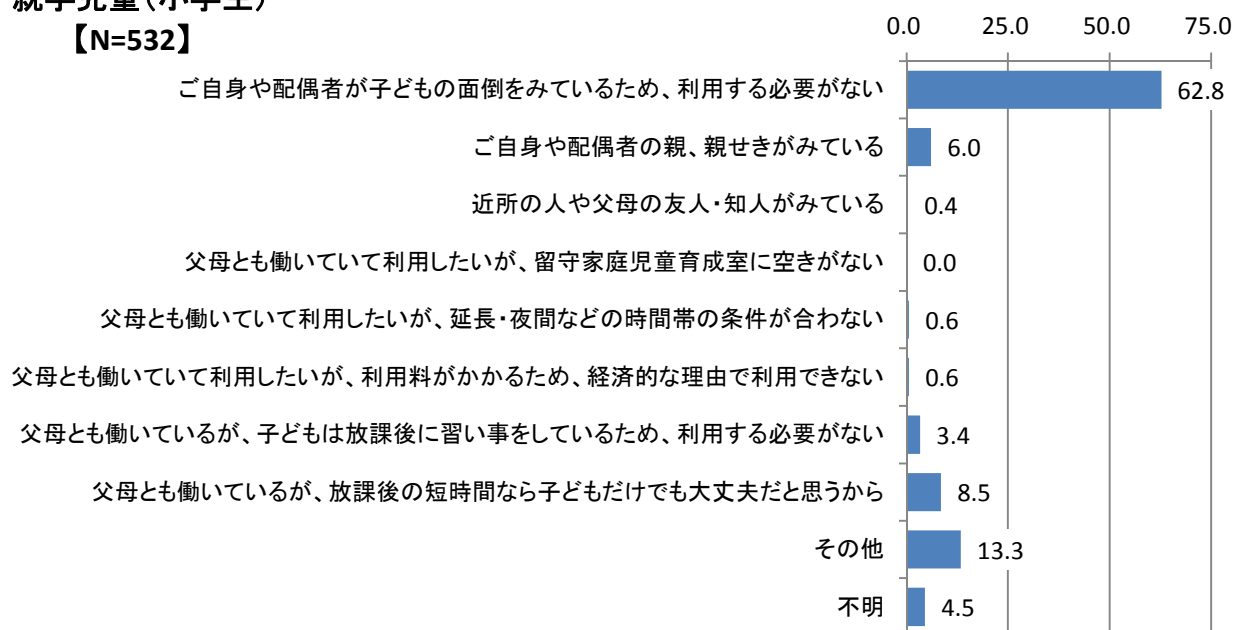


図 2-5 (11) 留守家庭児童育成室を利用していない理由

今後、父母ともに働くなどの予定があるなどの理由で、留守家庭児童育成室を利用したいかについて、「利用したい」が7.5%、「今後も利用しない」が87.4%で、「今後も利用しない」の方が79.9ポイント高くなっている。

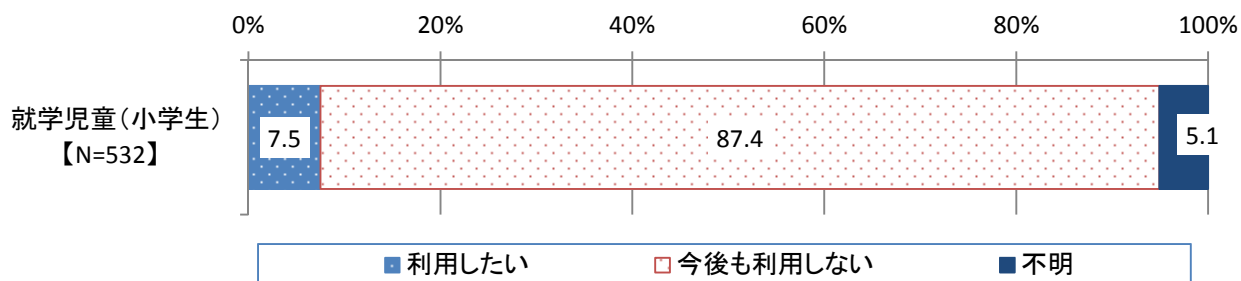


図 2-5 (12) 今後、父母ともに働くなどの予定がある場合の留守家庭児童育成室を利用意向

今後、父母ともに働くなどの予定があるなどの理由で、留守家庭児童育成室を利用したい人に、1週当たりの利用希望日数を聞いたところ、「3日」「5日」が最も多く、それぞれ37.5%で、平均は3.8日となっている。また、1日当たりの利用希望時間数は、「3時間未満」が最も多く35.0%、次いで「3時間以上6時間未満」が32.5%で、平均は3.3時間となっている。

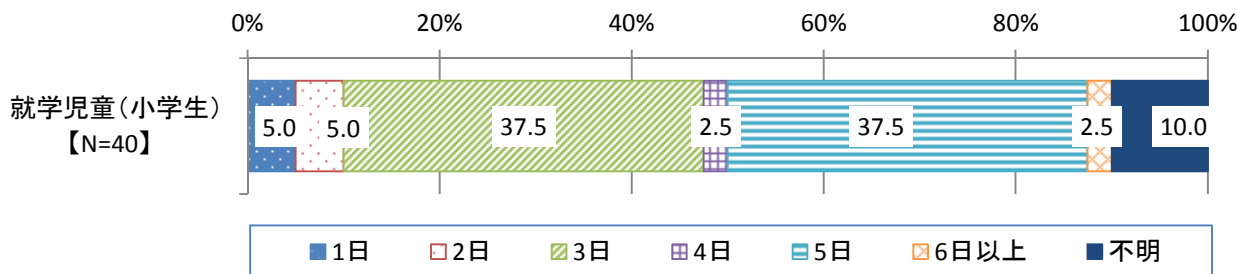


図 2-5 (13) 留守家庭児童育成室を利用したい場合の1週当たりの利用希望日数

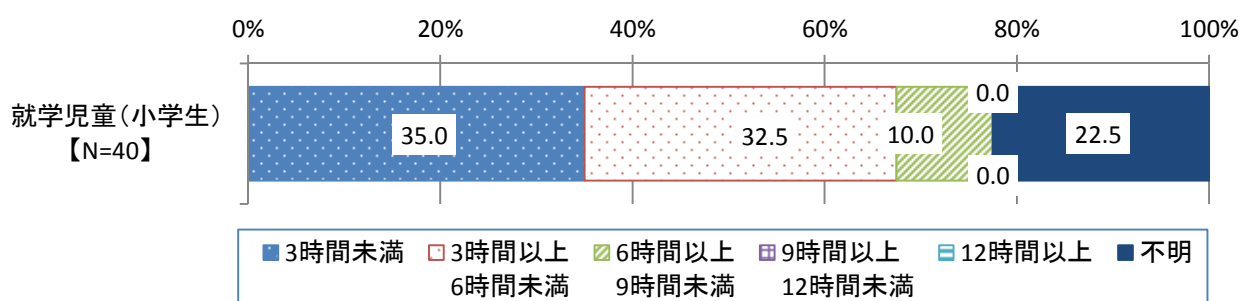


図 2-5 (14) 留守家庭児童育成室を利用したい場合の1日当たりの利用希望時間数

今後、父母ともに働くなどの予定があるなどの理由で、留守家庭児童育成室を利用したい人に、土曜日、日曜日・祝日の利用希望を聞いたところ、土曜日では「利用希望はある」が25.0%、「利用希望はない」が50.0%、日曜日・祝日では「利用希望はある」が10.0%、「利用希望はない」が60.0%となっている。

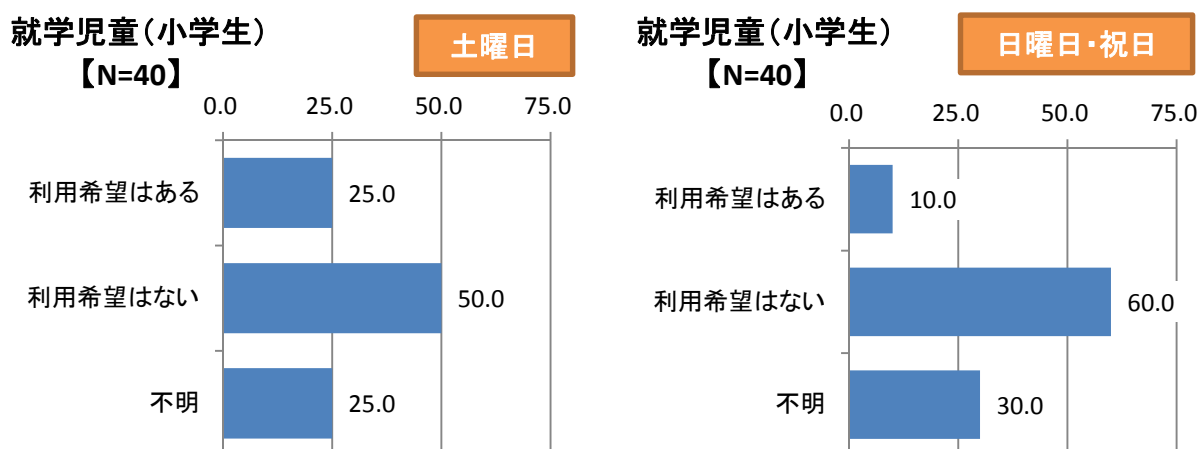


図 2-5 (15) 留守家庭児童育成室を利用したい場合の土曜日、日曜日・祝日の利用希望

8. 小学校終了後の放課後の過ごし方（5歳以上の子ども）

小学生になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思うかについて、小学校低学年（1～3年）では「習い事（ピアノ教室、スポーツクラブ、学習塾など）」が最も多く 58.2%、次いで「自宅」が 56.6%、「留守家庭児童育成室」が 31.1%と続いている。また、小学校高学年（4～6年）では「習い事（ピアノ教室、スポーツクラブ、学習塾など）」が最も多く 68.4%、次いで「自宅」が 57.7%、「その他（公民館、公園など）」が 28.1%と続いている。

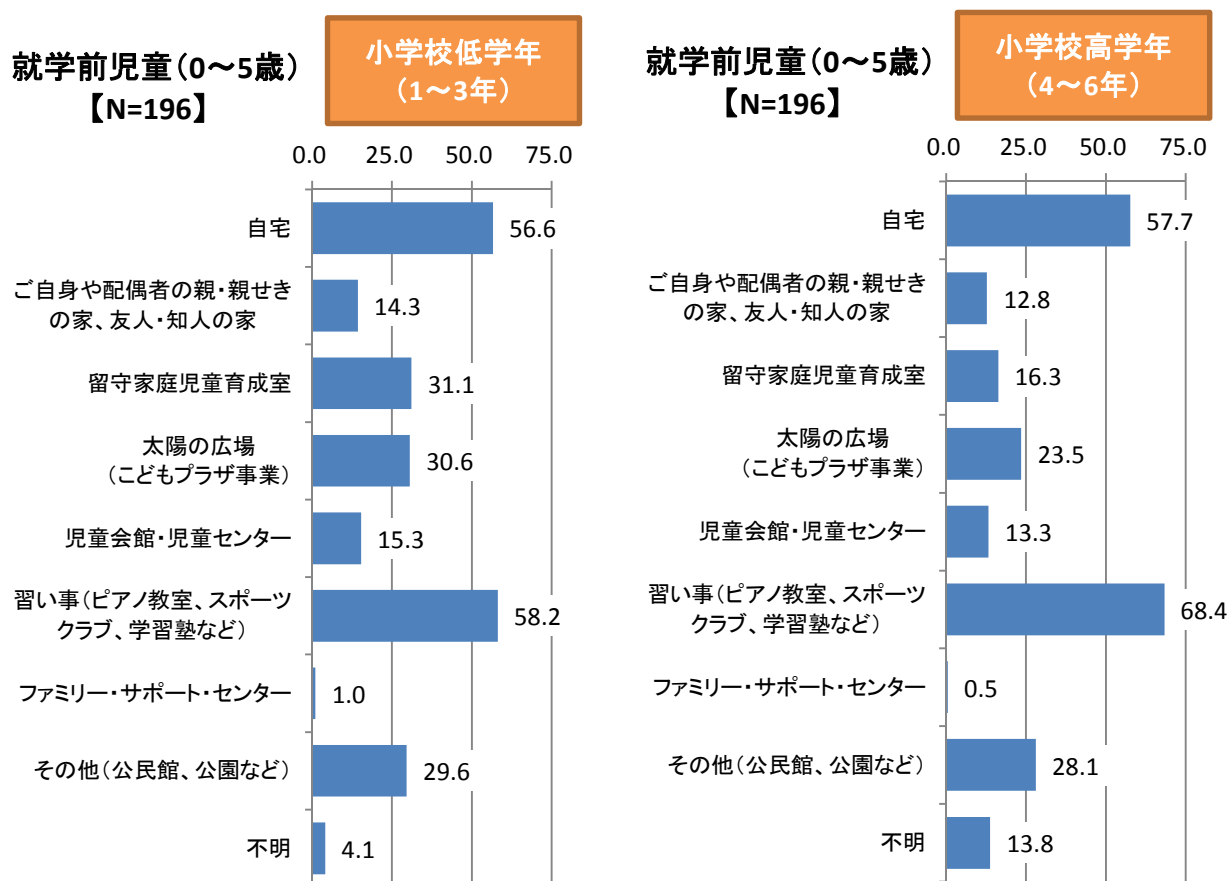


図 2-5 (16) 平日の小学校就学後の希望する過ごし方【複数回答】

9. 土曜日、日曜日・祝日の留守家庭児童育成室の利用希望（5歳以上の子ども）

小学生になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間を留守家庭児童育成室で過ごさせたいと回答した人に、土曜日、日曜日・祝日に、留守家庭児童育成室の利用希望があるかについて聞いたところ、土曜日では「利用する必要はない」が最も多く 58.7%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が 20.6%、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が 19.0%となっている。また、日曜日・祝日では「利用する必要はない」が最も多く 76.2%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が 14.3%、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が 6.3%となっている。

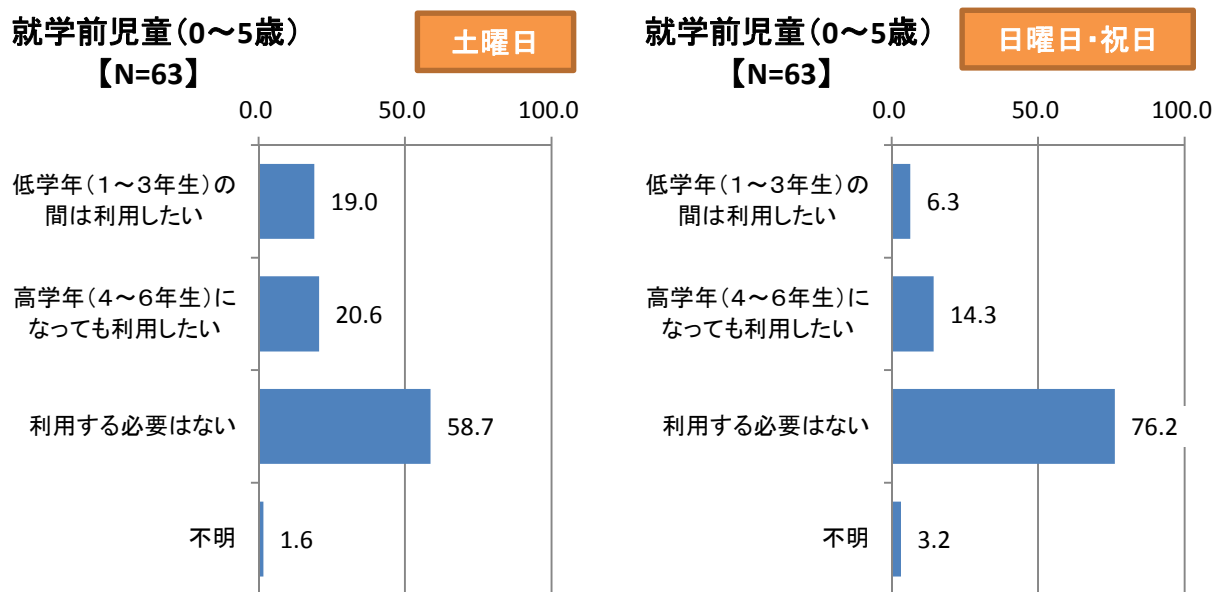


図 2-5 (17) 土曜日、日曜日・祝日の留守家庭児童育成室の利用希望

10. 長期休暇期間中の留守家庭児童育成室の利用希望（5歳以上の子ども）

夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中の留守家庭児童育成室の利用希望について、「利用する必要はない」が最も多く 50.0%、次いで「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が 28.1%、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が 16.3%となっている。

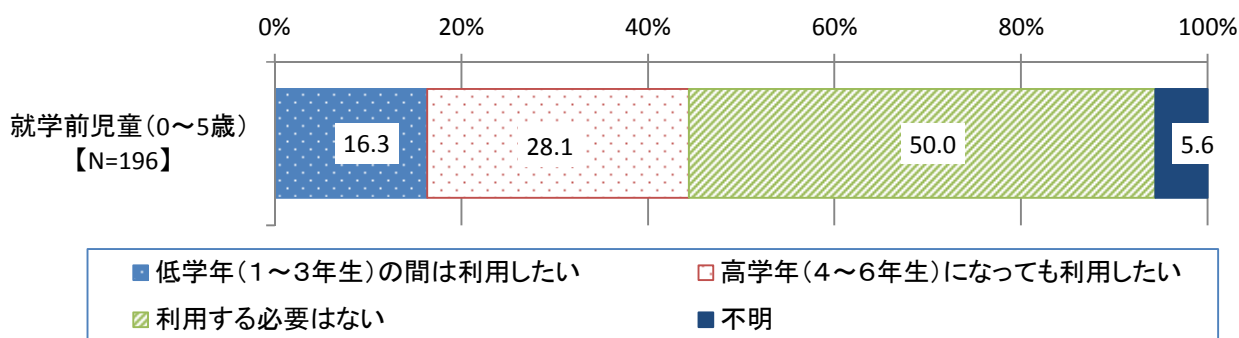


図 2-5 (18) 長期休暇期間中の留守家庭児童育成室の利用希望

夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中の留守家庭育成室の利用希望がある人に、利用したい時間帯を聞いたところ、低学年（1～3年生）の間は利用したい場合で、希望開始時間は「8時台」「9時台」が最も多く、それぞれ46.9%、希望終了時間は「17時台」が最も多く50.0%となっている。また、高学年（4～6年生）になっても利用したい場合で、希望開始時間は「8時台」が最も多く47.3%、希望終了時間は「17時台」が最も多く58.2%となっている。

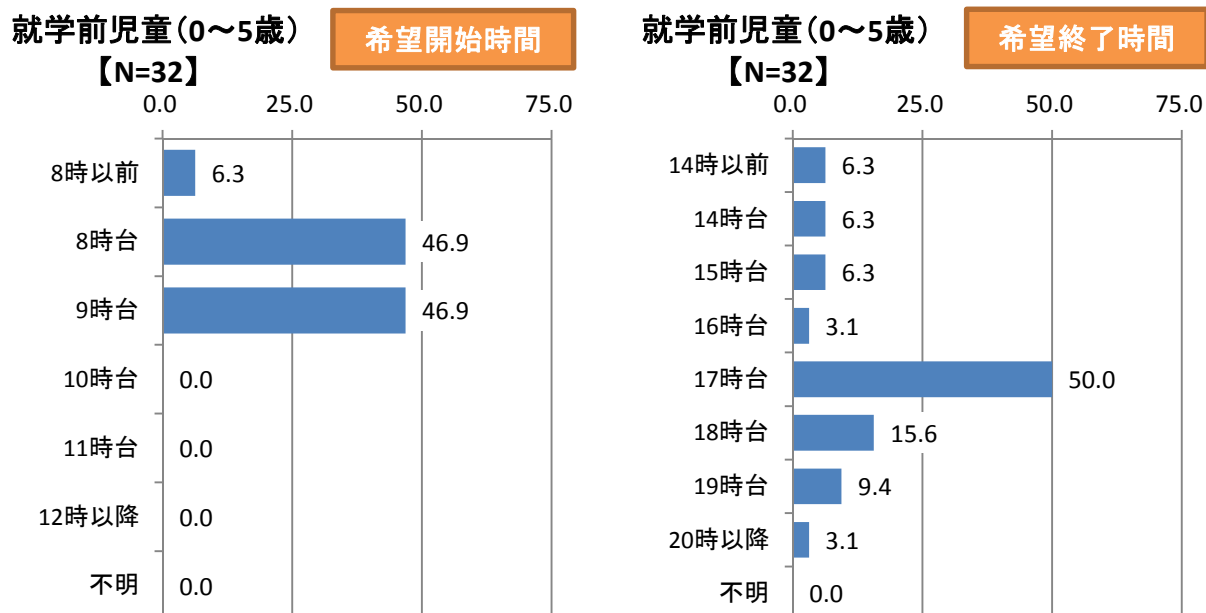


図 2-5 (19) 低学年（1～3年生）の間は利用したい場合の留守家庭児童育成室の利用希望時間帯

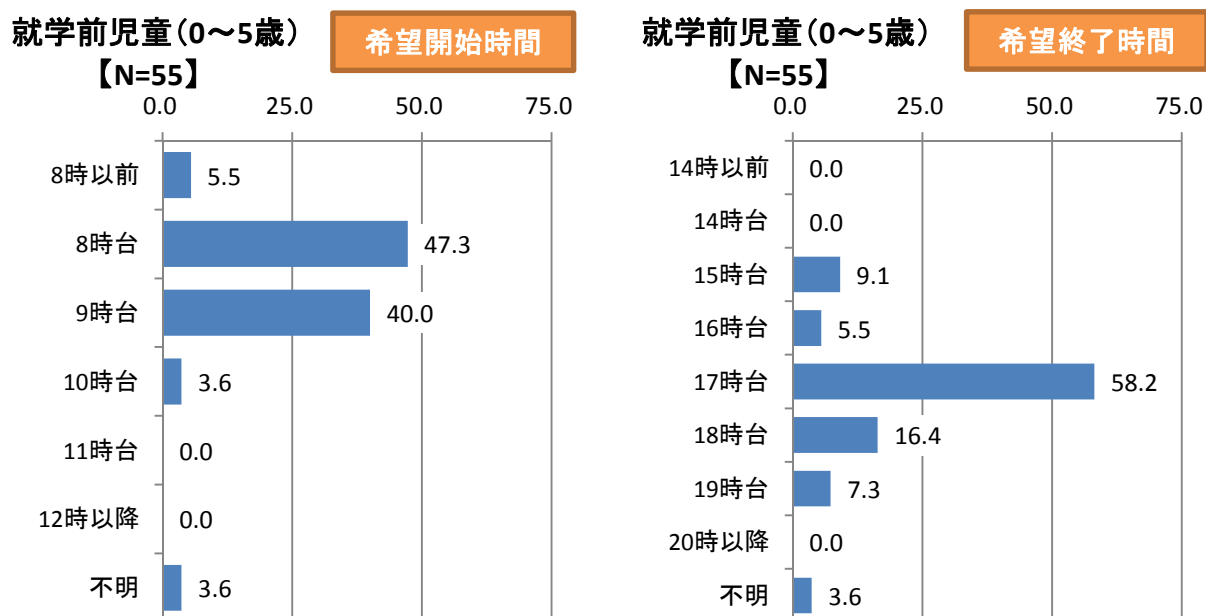


図 2-5 (20) 高学年（4～6年生）になっても利用したい場合の留守家庭児童育成室の利用希望時間帯

第6節 病気になった時の対応

1. 子どもが病気になった時の対応

子どもが病気になった時に、幼稚園や保育所などの施設やサービスを利用できなかったことがあるかについて、就学前児童では「あった」が77.8%、「なかった」が20.9%となっている。また、小学校を休まなければならなかったことがあるかについて、就学児童では「あった」が72.2%、「なかった」が26.5%となっている。

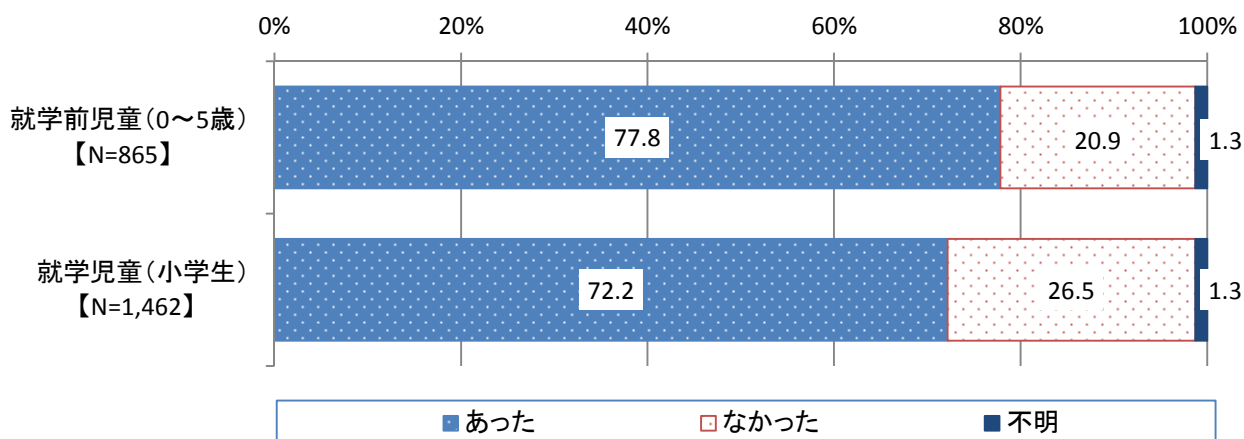


図 2-6 (1) 子どもが病気になった時に幼稚園や保育所、小学校を休んだことがあるか

子どもが病気になった時に、幼稚園や保育所などの施設やサービスを利用できなかったことがある人に、その対処方法について聞いたところ、就学前児童では「母親が仕事を休んだ」が最も多く 55.1%、次いで「ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった（同居している場合も含む）」が 38.3%、「働いていない父親か母親が子どもをみた」が 32.7%と続いている。また、就学児童では「母親が仕事を休んだ」が最も多く 45.1%、次いで「働いていない父親か母親が子どもをみた」が 30.9%、「ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった（同居している場合も含む）」が 24.0%と続いている。

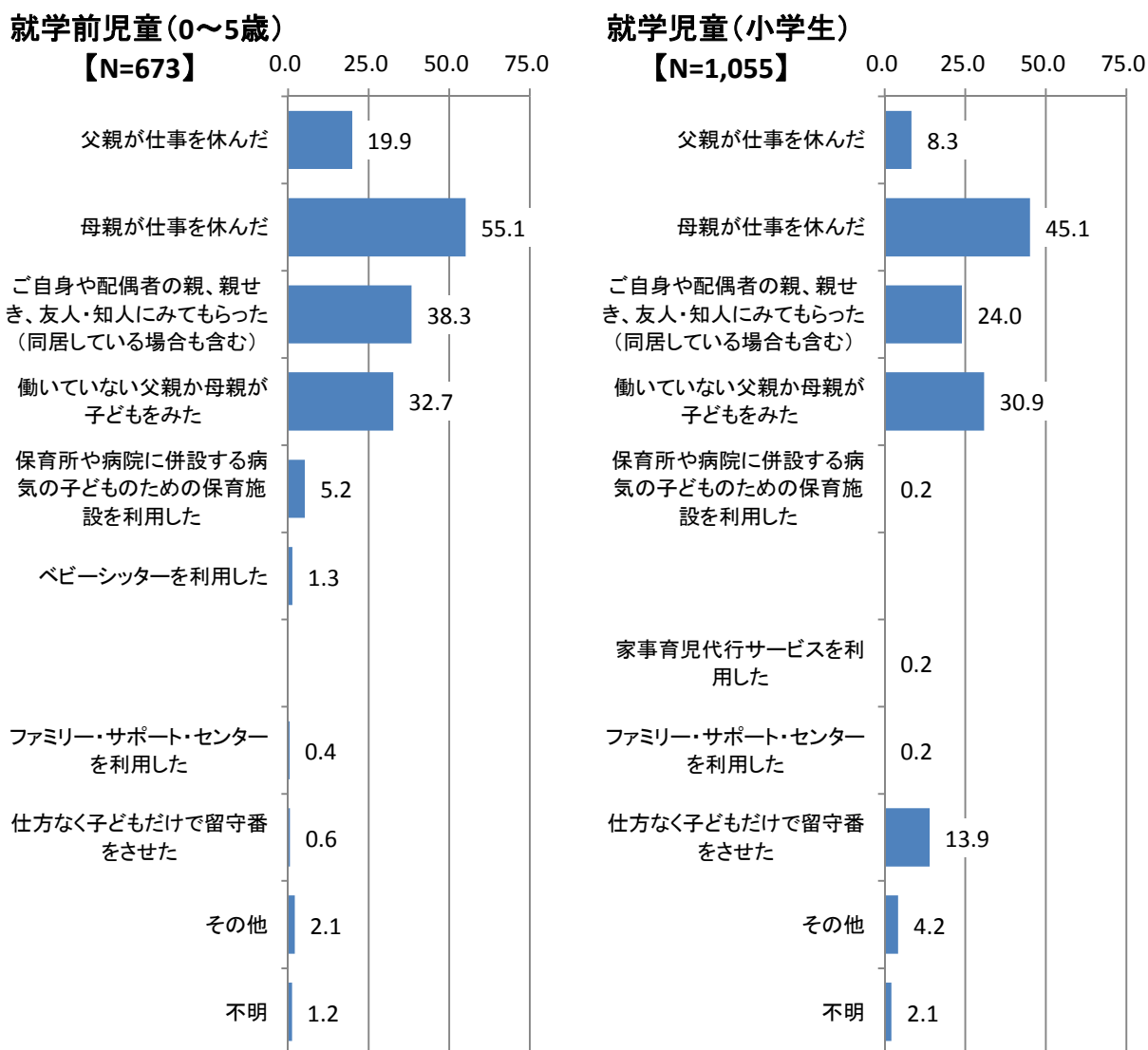


図 2-6 (2) 幼稚園や保育所、小学校を休んだ時の対処方法【複数回答】

2. 病気の子どものための保育施設

子どもが病気になった時に幼稚園や保育所、小学校を休んだときの対処方法で、父親または母親が仕事を休んだと回答した人に、できれば病気の子どものための保育施設などを利用したいかについて聞いたところ、就学前児童では「できれば病気の子どものための保育施設などを利用したい」が44.4%、「利用したいと思わない」が51.9%、就学児童では「できれば病気の子どものための保育施設などを利用したい」が20.0%、「利用したいと思わない」が77.0%となっており、就学前児童の方が「できれば病気の子どものための保育施設などを利用したい」で24.4ポイント高くなっている。

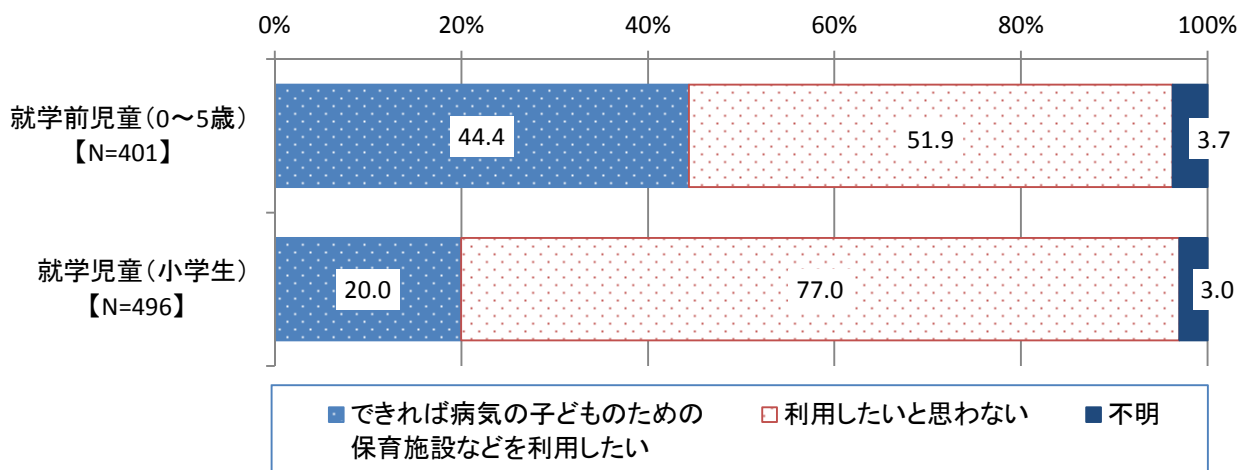


図 2-6 (3) 病気の子どものための保育施設の利用意向

できれば病気の子どものための保育施設などを利用したいと回答した人に、利用希望日数について聞いたところ、就学前児童では「4～10日」が最も多く36.0%で、平均は7.0日となっている。また、就学児童では「1～3日」が最も多く57.6%で、平均は3.4日となっている。

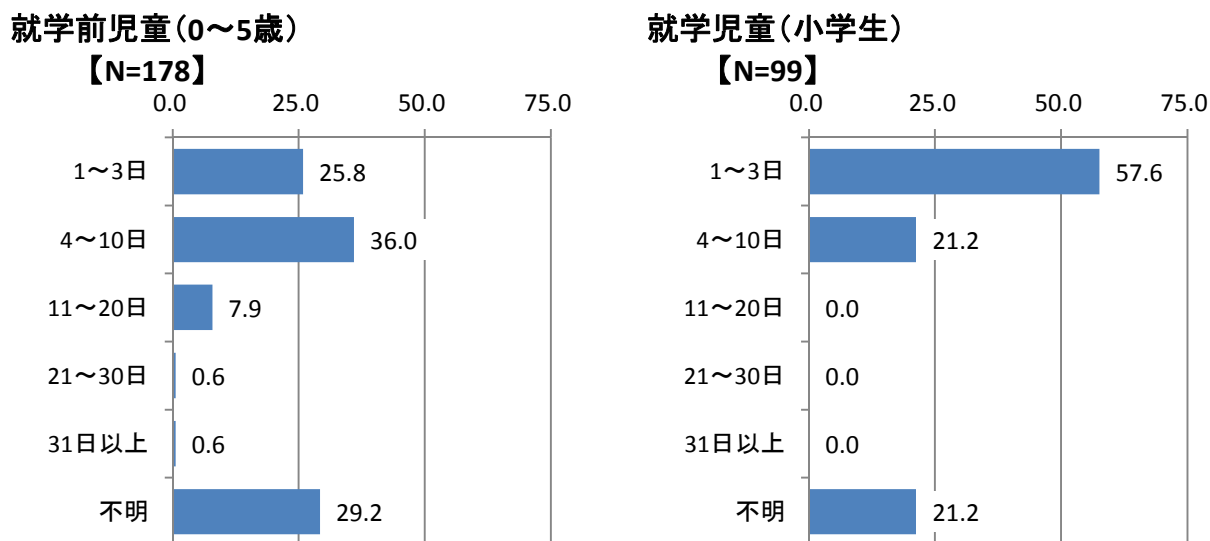


図 2-6 (4) 病気の子どものための保育施設の利用希望日数

できれば病気の子どものための保育施設などを利用したいと回答した人に、利用する場合に希望するサービスを聞いたところ、「幼稚園・保育所などに併設した施設で子どもをみてるサービス」が最も多く 80.3%、次いで「小児科に併設した施設で子どもをみてるサービス」が 79.8%、「民間事業者などが自宅を訪問し、子どもをみてるサービス」が 11.8%と続いている。

就学前児童(0～5歳) 【N=178】

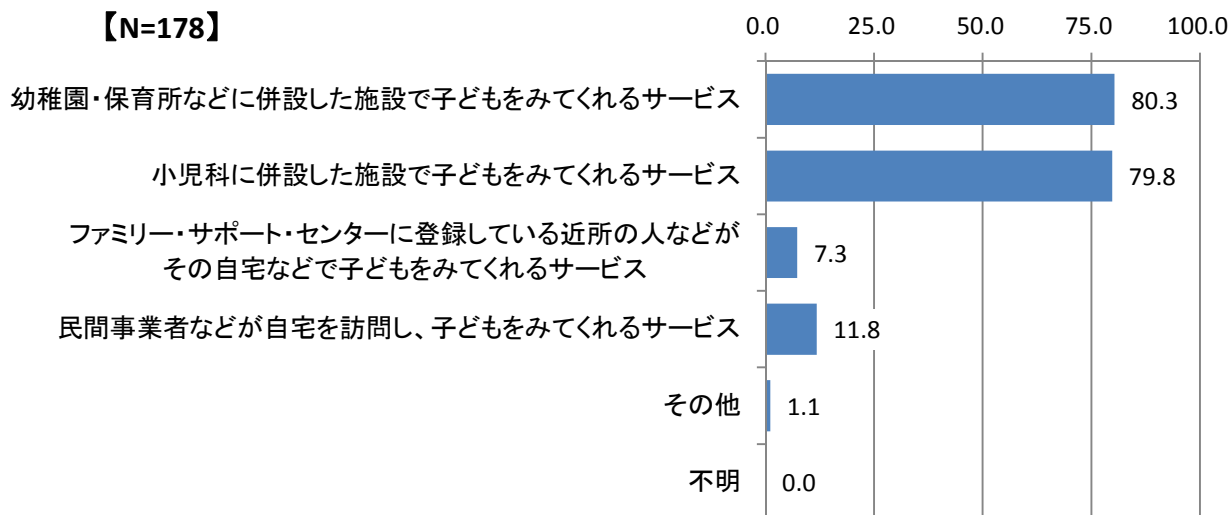


図 2-6 (5) 病気の子どものための保育施設を利用する場合に希望するサービス【複数回答】

できれば病気の子どものための保育施設などを利用したいと思わないと回答した人に、その理由を聞いたところ、「病気の子どもを家族以外の人にみてもらうのは不安である」が最も多く 53.8%、次いで「病気の子どもは家族がみるべきである」が 37.0%、「施設のある場所や利用できる時間・日数など、サービスの使い勝手がよくない」が 36.5%と続いている。

就学前児童(0～5歳) 【N=208】

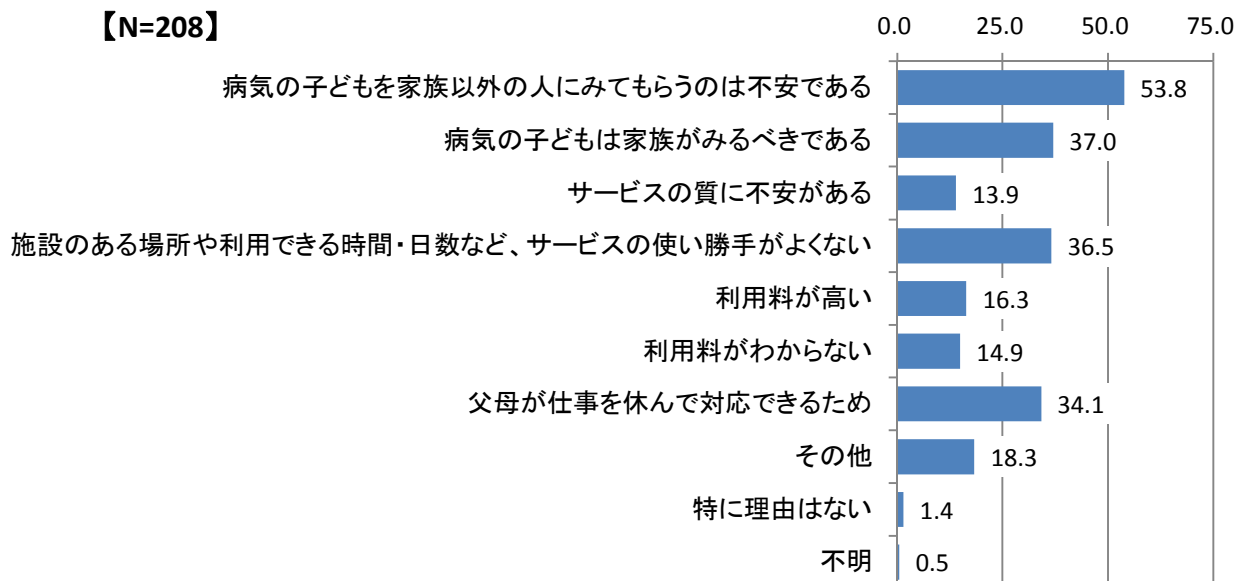


図 2-6 (6) 病気の子どものための保育施設を利用したいと思わない理由【複数回答】

第7節 不規則な一時預かり

1. 不規則な一時預かりの利用状況

ご自身や配偶者の親の通院、不規則な仕事などを理由として、子どもを預かるサービスの利用、または、子どもを家族以外の誰かに一時的に預けたことはあるかについて、就学前児童では「利用していない」が最も多く76.3%、次いで「幼稚園の預かり保育」が10.1%、「一時預かり」が9.6%と続いている。また、就学児童では「預けるようなことはなかった」が最も多く57.5%、次いで「ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった（同居している場合も含む）」が36.1%と続いている。

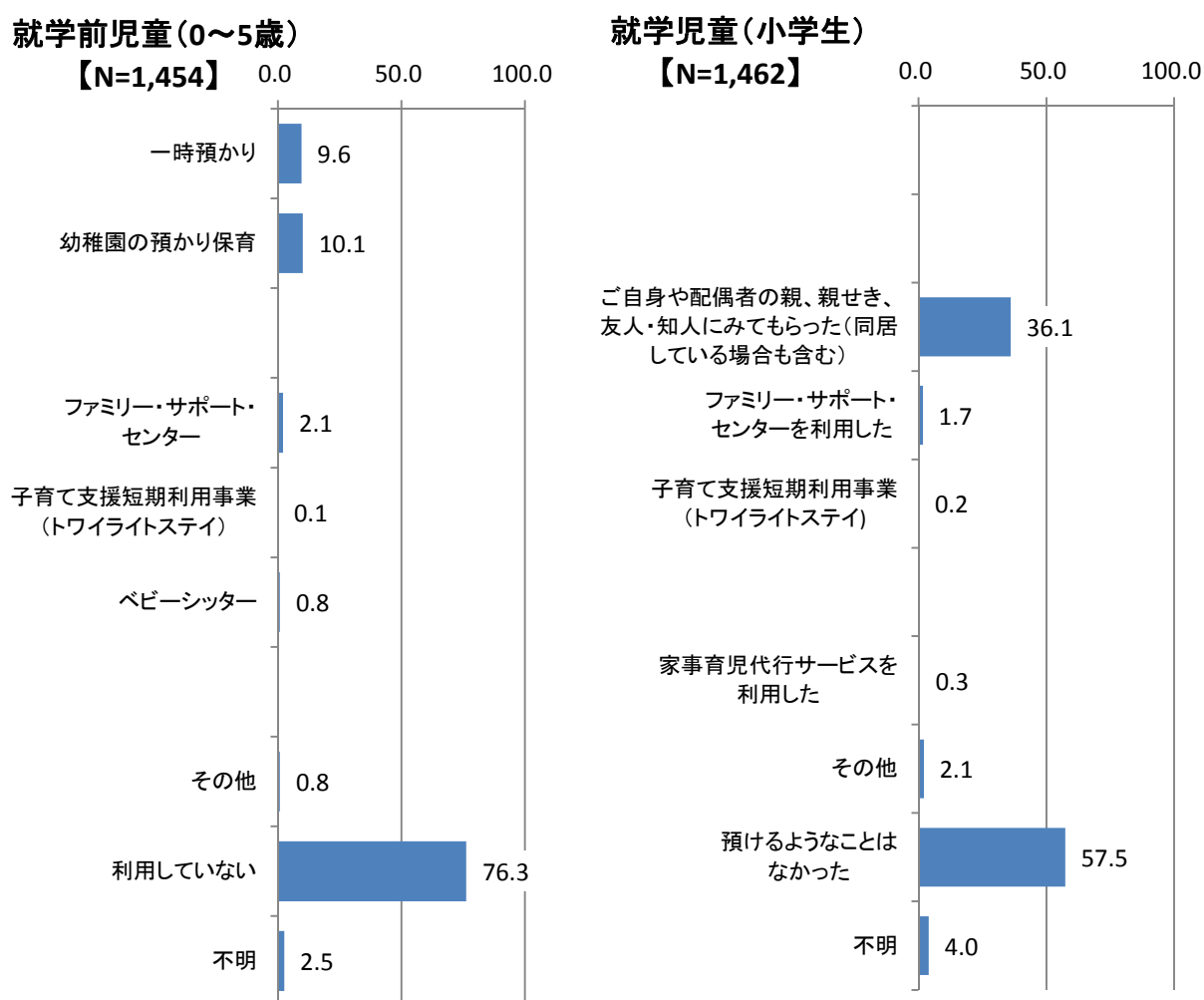


図 2-7 (1) 不規則な一時預かりの利用状況【複数回答】

表 2-7 (1) 一時預かりなどのサービス

No	サービス名	内容
1	一時預かり	私用などの理由で、保育所などで一時的に子どもを保育するサービス
2	幼稚園の預かり保育	幼稚園に通う子どもを対象にして、通常の就園時間を延長して預かるサービスを不定期に利用している場合
3	ファミリー・サポート・センター	センターに登録している近所の人が子どもをみてるサービス
4	子育て支援短期利用事業 (トワイライトステイ)	仕事などの理由により、児童養護施設などで休日や夜間に子どもを一時的に預かるもの

2. 不定期な一時預かりの利用意向

私用、ご自身や配偶者の親の通院、不定期な仕事などを理由として、保育所などで実施されている一時預かりを利用したいかについて、「利用したい」が54.5%、「利用する必要はない」が43.5%で、「利用したい」の方が11.0ポイント高くなっている。

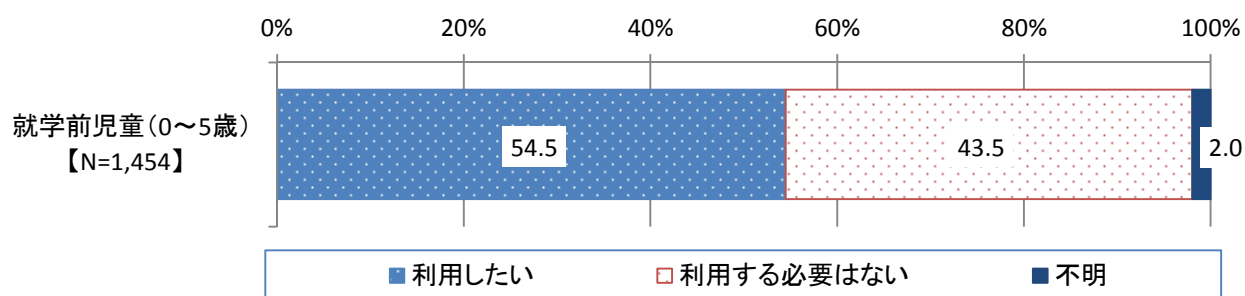


図 2-7 (2) 不定期な一時預かりの利用意向

保育所などで実施されている一時預かりを利用したい人に、利用したい目的について聞いたところ、「買物、子どもたちやご自身の習い事、リフレッシュ」が最も多く68.9%、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子どもたちや親の通院など」が54.3%、「不定期な仕事」が28.2%と続いている。

就学前児童(0～5歳)

【N=792】

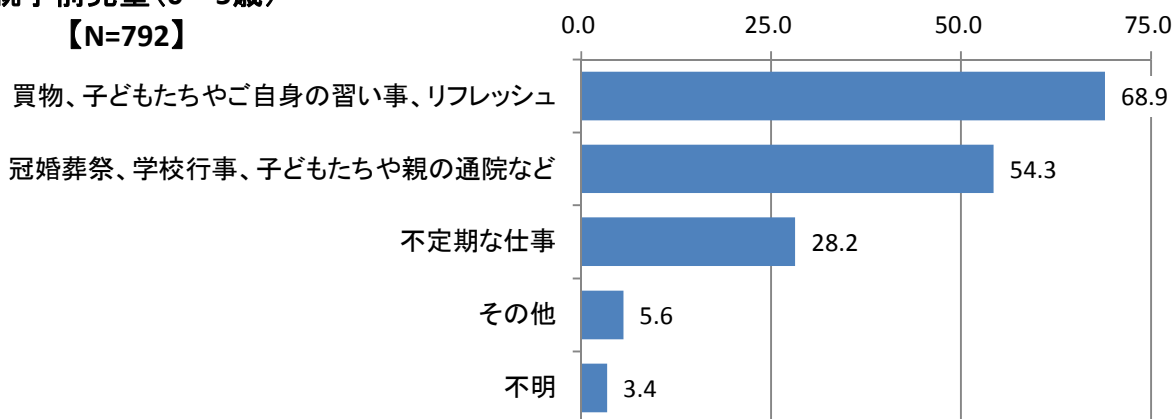


図 2-7 (3) 不定期な一時預かりを利用したい内容【複数回答】

保育所などで実施されている一時預かりを利用したい人に、利用したい年間日数について聞いたところ、合計で「4～10日」が最も多く28.3%で、平均は21.7日となっている。また、年間日数の平均は、「買物、子どもたちやご自身の習い事、リフレッシュ」が13.9日、「冠婚葬祭、学校行事、子どもたちや親の通院など」が7.7日、「不定期な仕事」が20.2日、「その他」が16.1日となっている。

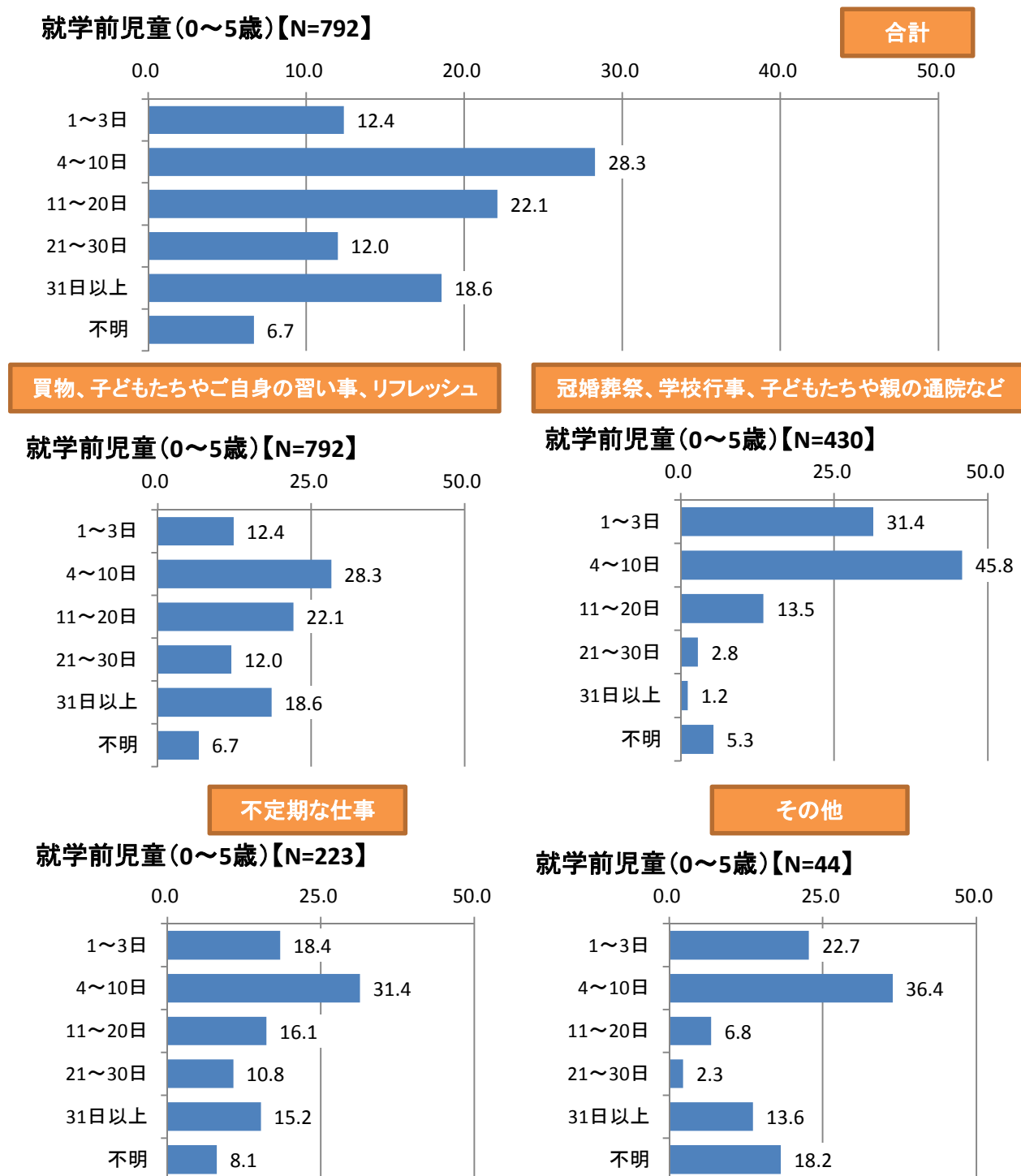


図 2-7 (4) 不定期な一時預かりを利用したい年間日数

保育所などで実施されている一時預かりを利用したい人に、希望する子育て支援サービスについて聞いたところ、「幼稚園・保育所などの施設で子どもをみてるサービス」が最も多く 90.8%、次いで「地域子育て支援センター（保育所）や子育て広場などの小規模な施設で子どもをみてるサービス」が 47.7%、「ファミリー・サポート・センターに登録している近所の人などがその自宅などで子どもをみてるサービス」が 10.0%と続いている。

就学前児童(0～5歳)

【N=792】

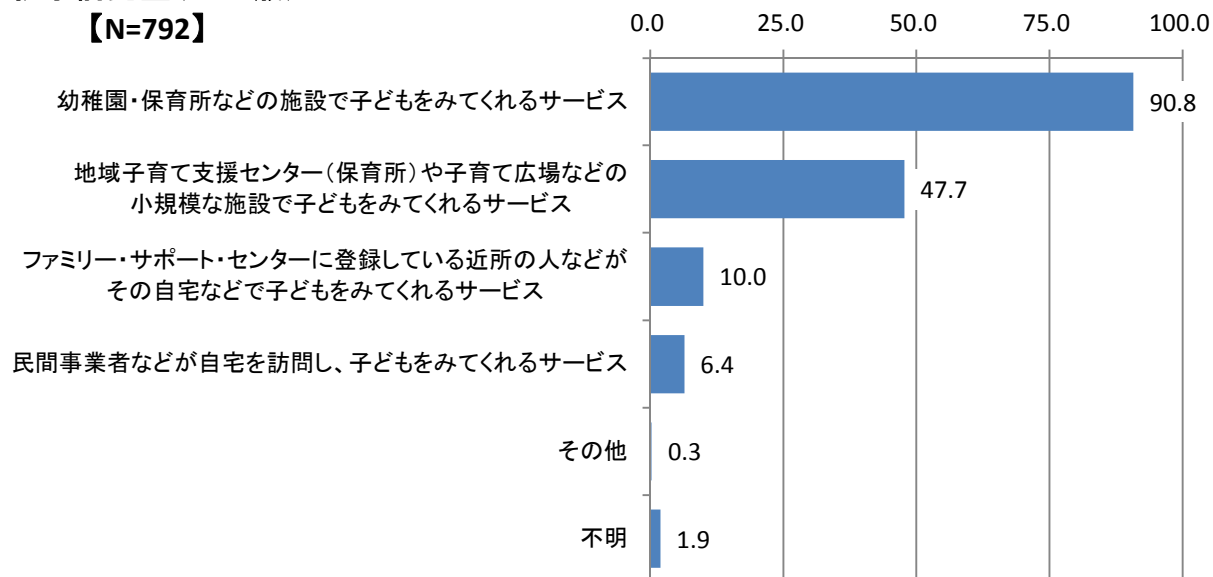


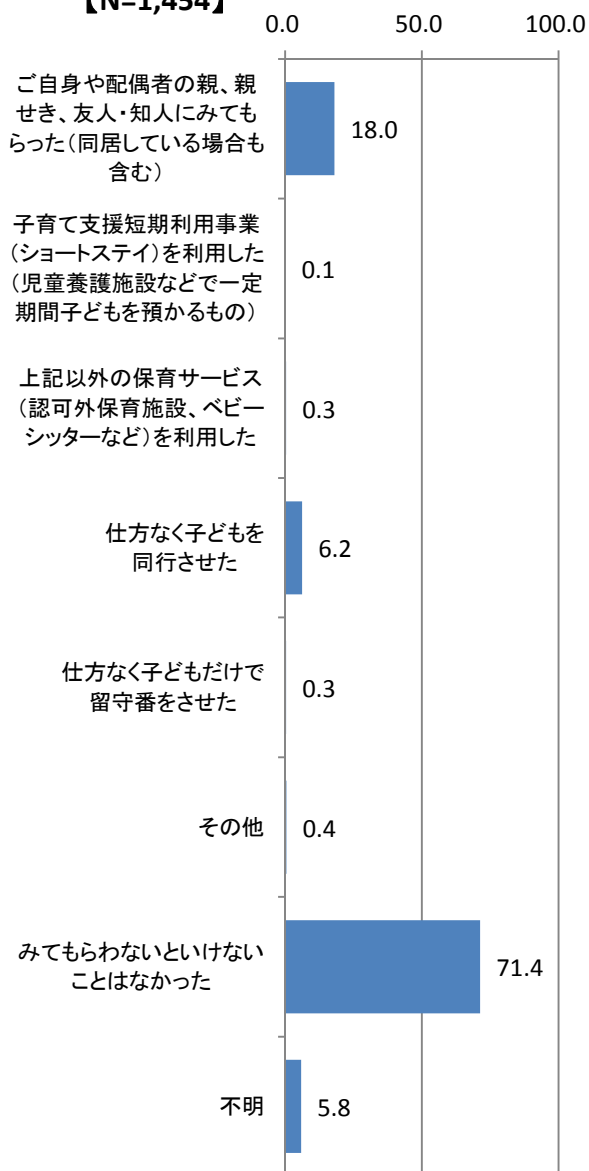
図 2-7 (5) 不定期な一時預かりを利用する場合の希望する子育て支援サービス【複数回答】

3. 保護者の用事で子どもを家族以外に泊りがけで預けた状況

この1年間に、冠婚葬祭、家族の病気などの保護者の用事により、子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわないといけないことで対処した方法について、就学前児童では「みてもらわないといけないことはなかった」が最も多く 71.4%、次いで「ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった（同居している場合も含む）」が 18.0%と続いている。また、就学児童では「みてもらうことはなかった」が最も多く 81.3%、次いで「ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった（同居している場合も含む）」が 11.4%と続いている。

就学前児童(0～5歳)

【N=1,454】



就学児童(小学生)

【N=1,462】

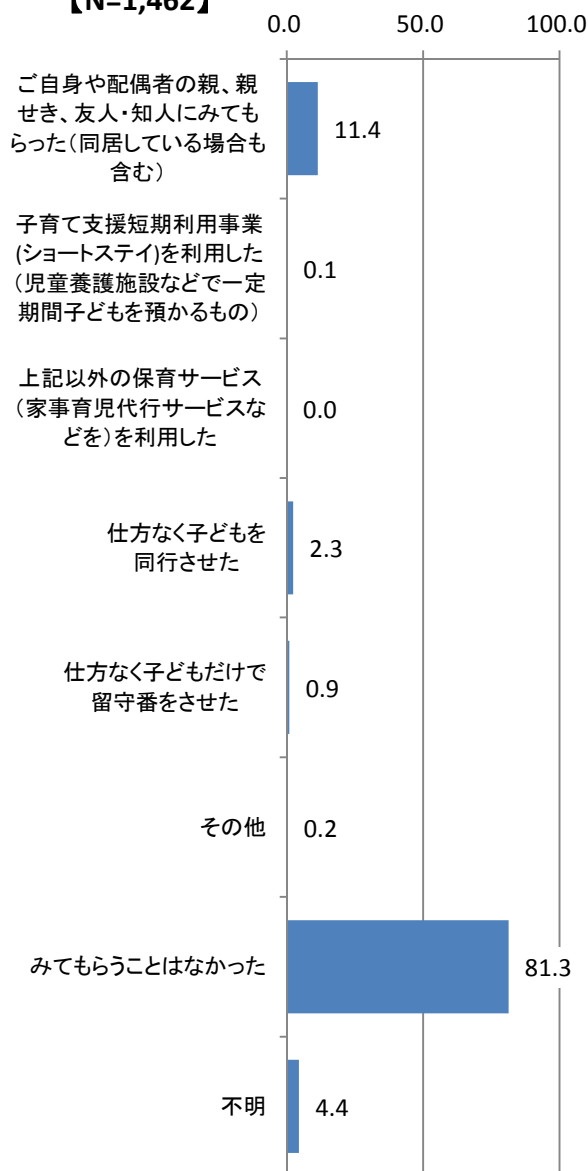


図 2-7 (6) 保護者の用事で子どもを家族以外に泊りがけで預けた状況【複数回答】

第8節 子育て支援事業

1. 子育て支援事業の利用状況

子育て支援事業の利用状況について、「利用していない」が最も多く75.0%、次いで「子育て支援事業を利用している」が22.5%、「その他市が実施している類似の事業を利用している」が1.3%となっている。

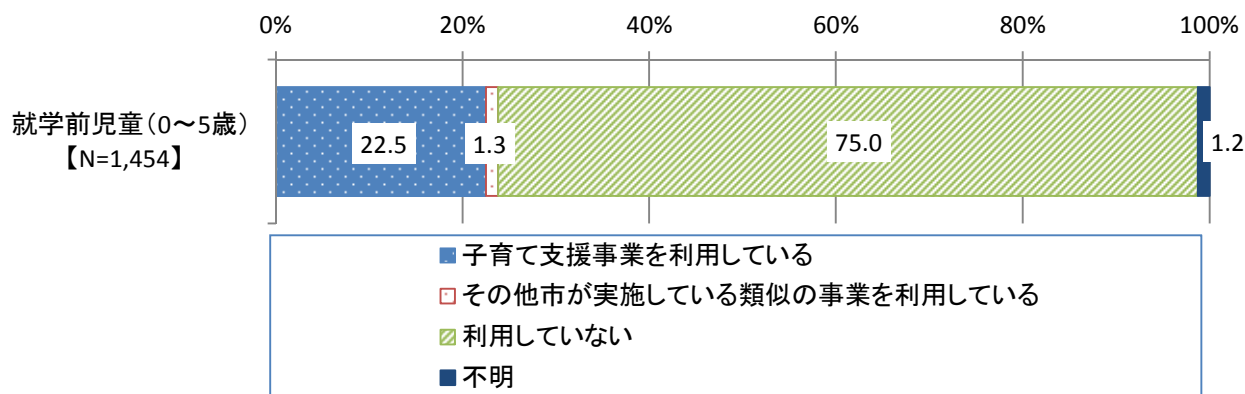


図 2-8 (1) 子育て支援事業の利用状況

「子育て支援事業」…親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、「地域子育て支援センター（保育所）」「子育て広場」などと呼ばれている。

2. 子育て支援事業の利用意向

子育て支援事業について、今は利用していないができれば利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思うかについて、「新たに利用したり、利用日数を増やしたりしたいとは思わない」が最も多く60.7%、「利用していないが、今後利用したい」が24.3%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が12.4%となっている。

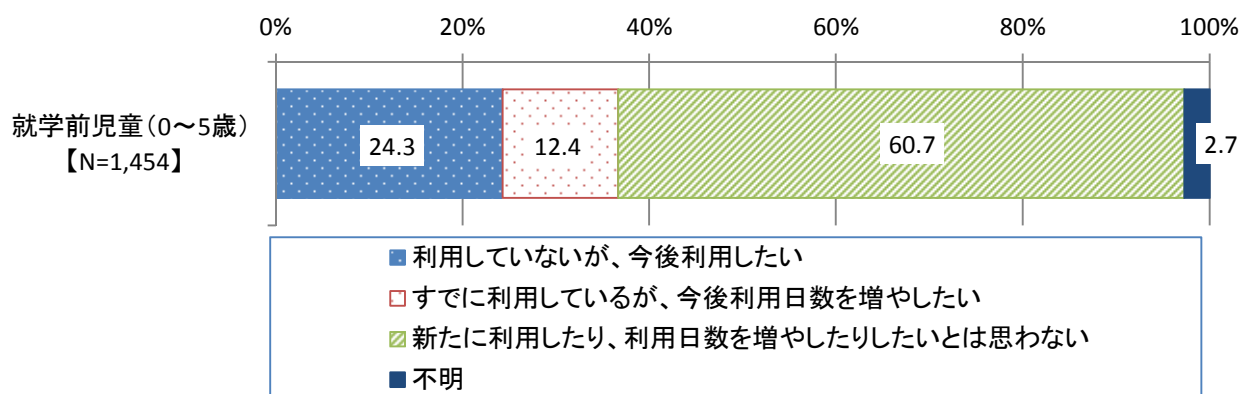


図 2-8 (2) 子育て支援事業の利用意向

子育て支援事業を利用するにあたって、どのようなサービスを利用したいかについて、「常設の子育て親子の交流の場・遊びの場の提供」が最も多く 85.2%、次いで「子育てに関する相談・援助」が 45.6%、「地域の子育て関連情報の提供」が 41.5%と続いている。

就学前児童(0～5歳)

【N=533】

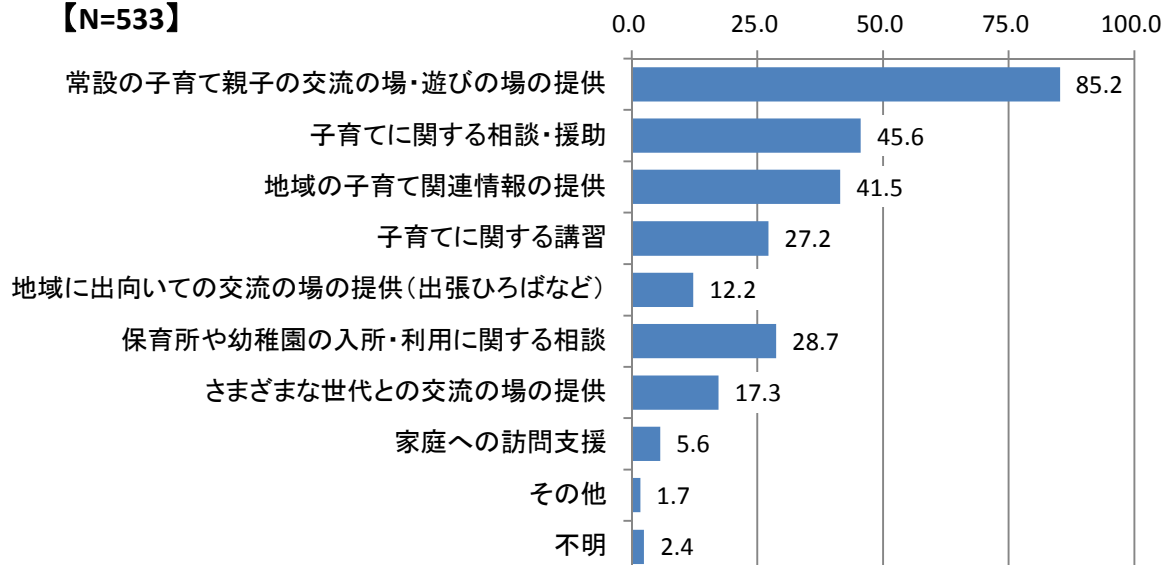


図 2-8 (3) 子育て支援事業を利用するにあたって希望するサービス【複数回答】

3. 子育て支援事業の認知度・利用度

子育て支援事業の認知度について、「保育所や幼稚園の園庭などの開放」が最も高く 89.8%、次いで「児童会館・児童センター」が 87.7%、「母親・父親学級、両親学級、育児学級」が 78.6%と続いている。

就学前児童 (0～5歳) 【N=1,454】

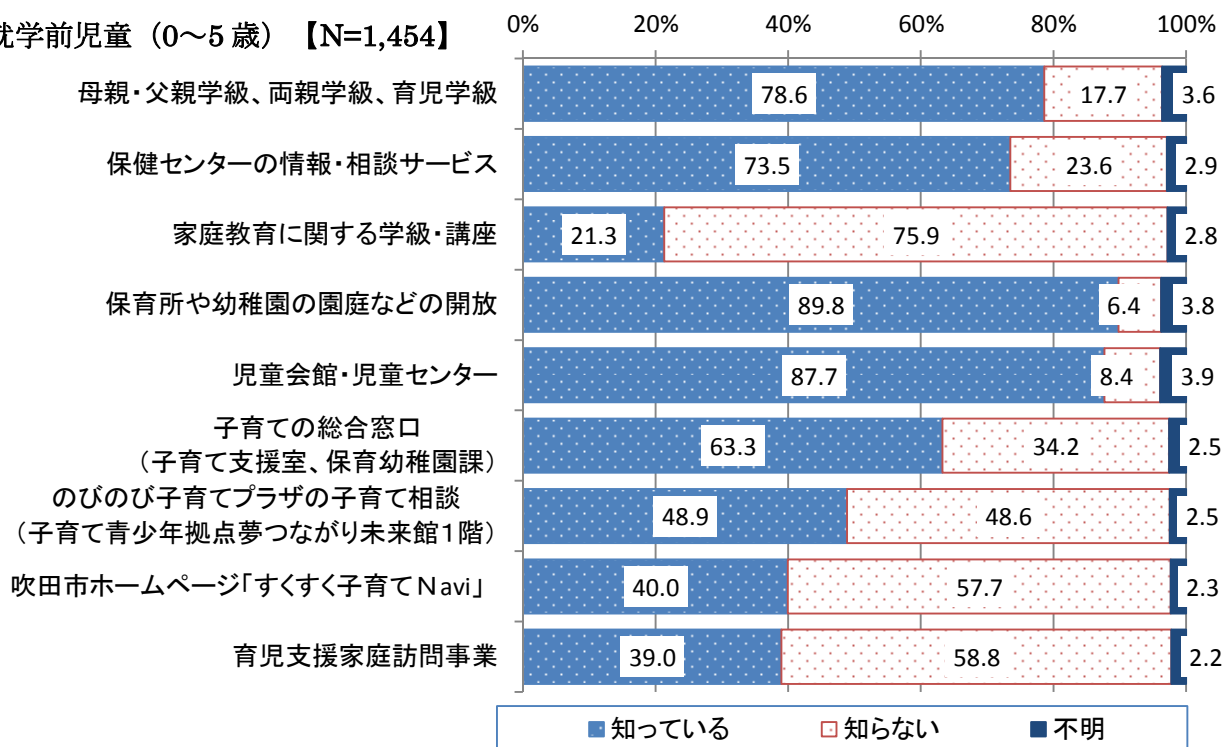


図 2-8 (4) 子育て支援事業の認知度

子育て支援事業の利用度について、利用度が高いものは、「児童会館・児童センター」が最も高く 62.7%、次いで「保育所や幼稚園の園庭などの開放」が 60.6%、「母親・父親学級、両親学級、育児学級」が 51.2%と続いている。また、利用度が低いものは、「家庭教育に関する学級・講座」が最も高く 83.2%、次いで「育児支援家庭訪問事業」が 80.8%、「のびのび子育てプラザの子育て相談（子育て青少年拠点夢つながり未来館1階）」が 75.4%と続いている。

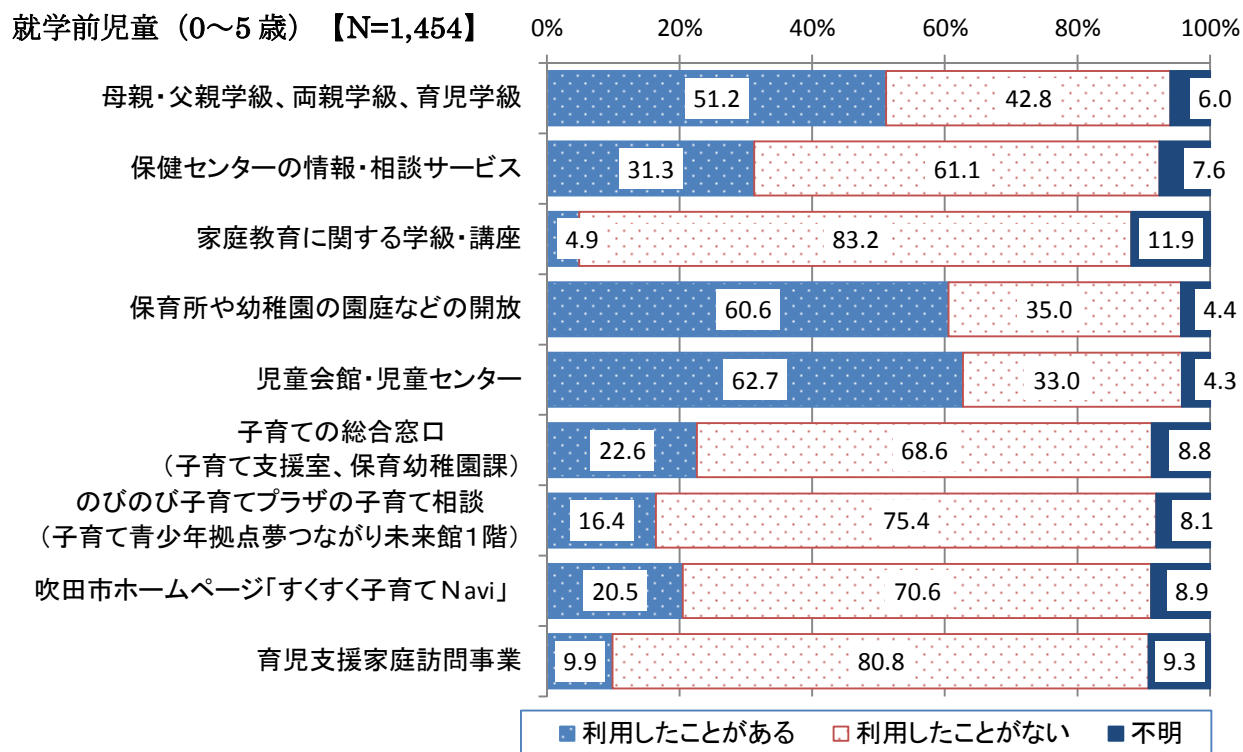


図 2-8 (5) 子育て支援事業の利用度

「育児支援家庭訪問事業」…さまざまな原因で子育ての支援が必要な家庭に子育て経験者による子育ての援助、保健師による訪問指導などを実施している。

子育て支援事業の利用意向について、「児童会館・児童センター」が最も高く71.7%、次いで「保育所や幼稚園の園庭などの開放」が60.2%、「吹田市ホームページ『すくすく子育てNavi』」が49.7%と続いている。

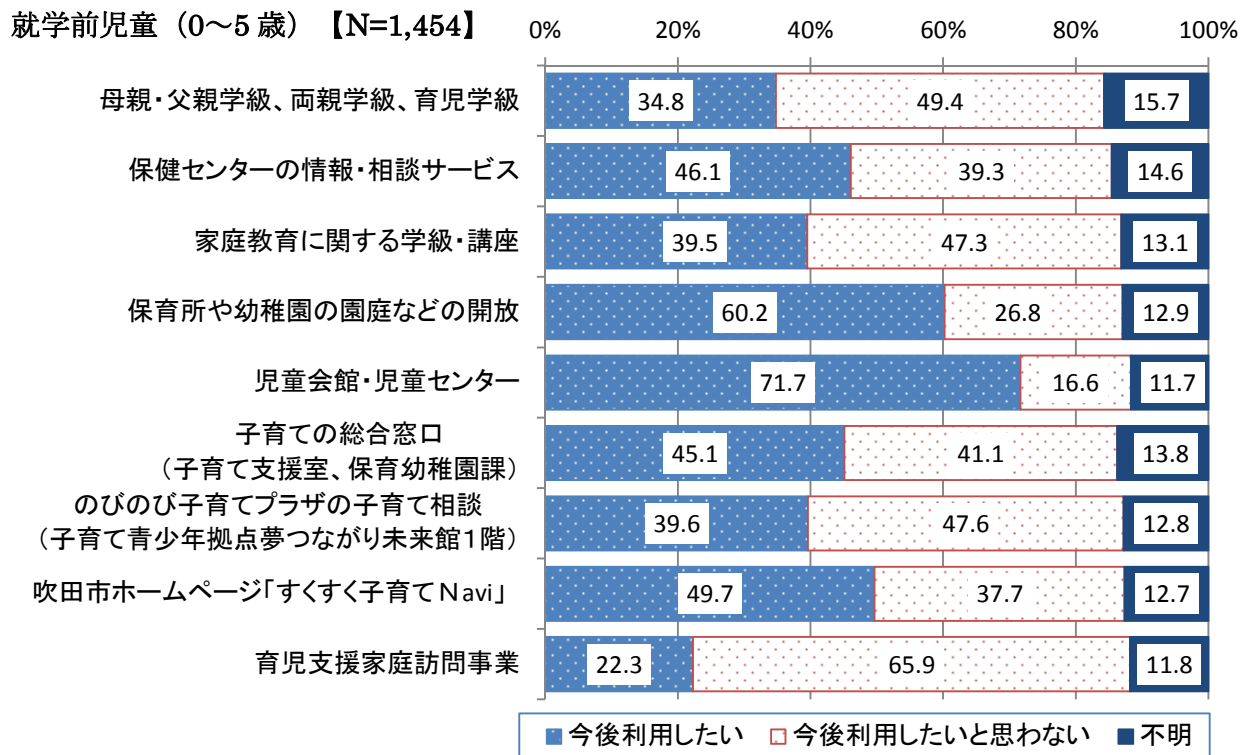


図 2-8 (6) 子育て支援事業の利用意向

3. 子育て支援事業に対する要望

市役所などに対して、どのような子育て支援事業を充実してほしいかについて、就学前児童では「小児救急など安心して子どもが医療機関を利用できる体制を整備する」が最も多く 71.0%、次いで「育児休業給付、児童手当、扶養控除の拡充などの子育て世帯への経済的援助の拡充」が 64.9%、「親子が安心して集まれる公園などの屋外の施設を整備する」が 63.8%と続いている。

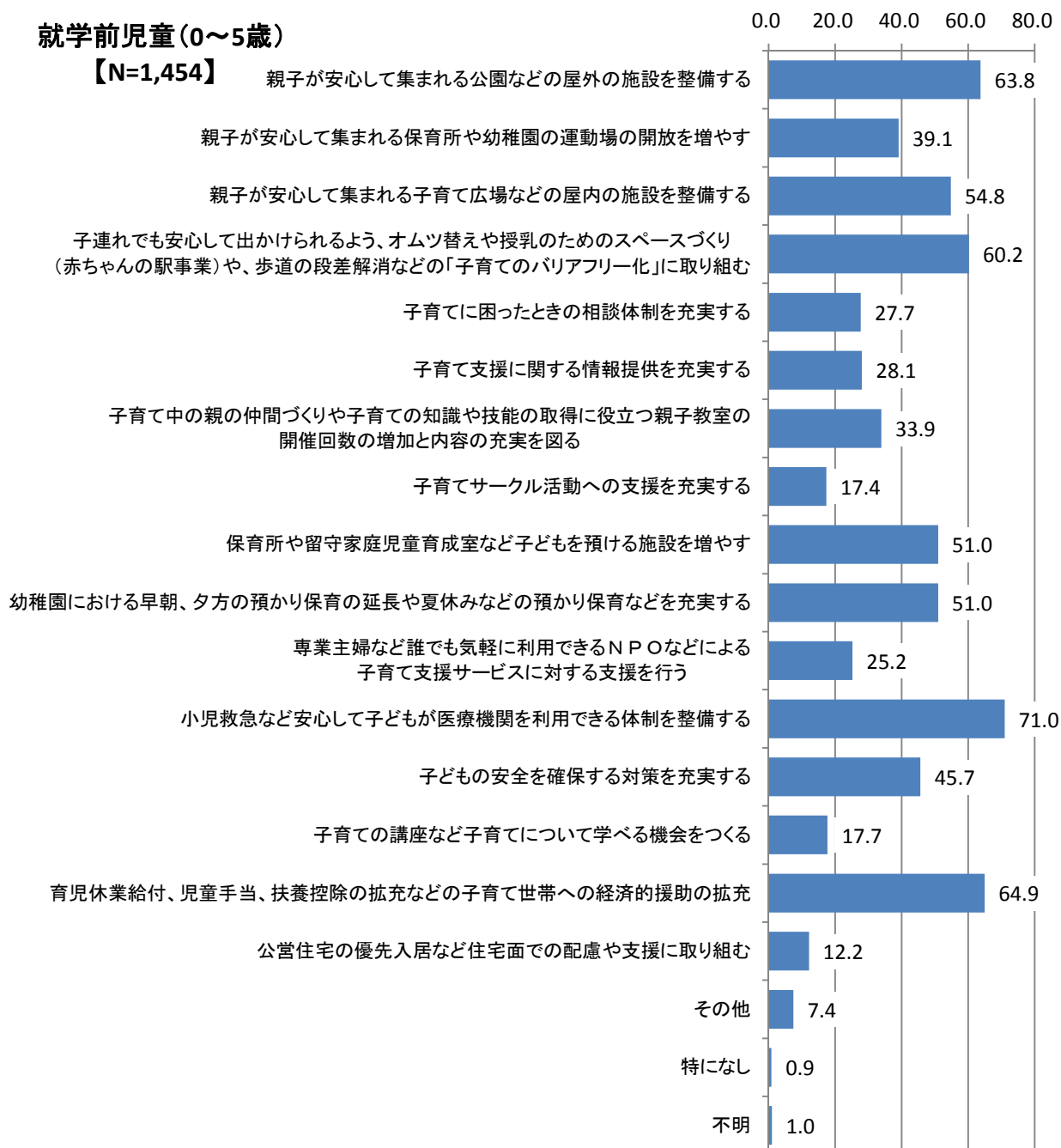


図 2-8 (7) 子育て支援事業に対する要望《就学前児童》【複数回答】

また、就学児童では「小児救急など安心して子どもが医療機関を利用できる体制を整備する」が最も多く 58.4%、次いで「育児休業給付、児童手当、扶養控除の拡充などの子育て世帯への経済的援助の拡充」が 54.7%、「子どもの安全を確保する対策を実施する」が 43.4%と続いている。

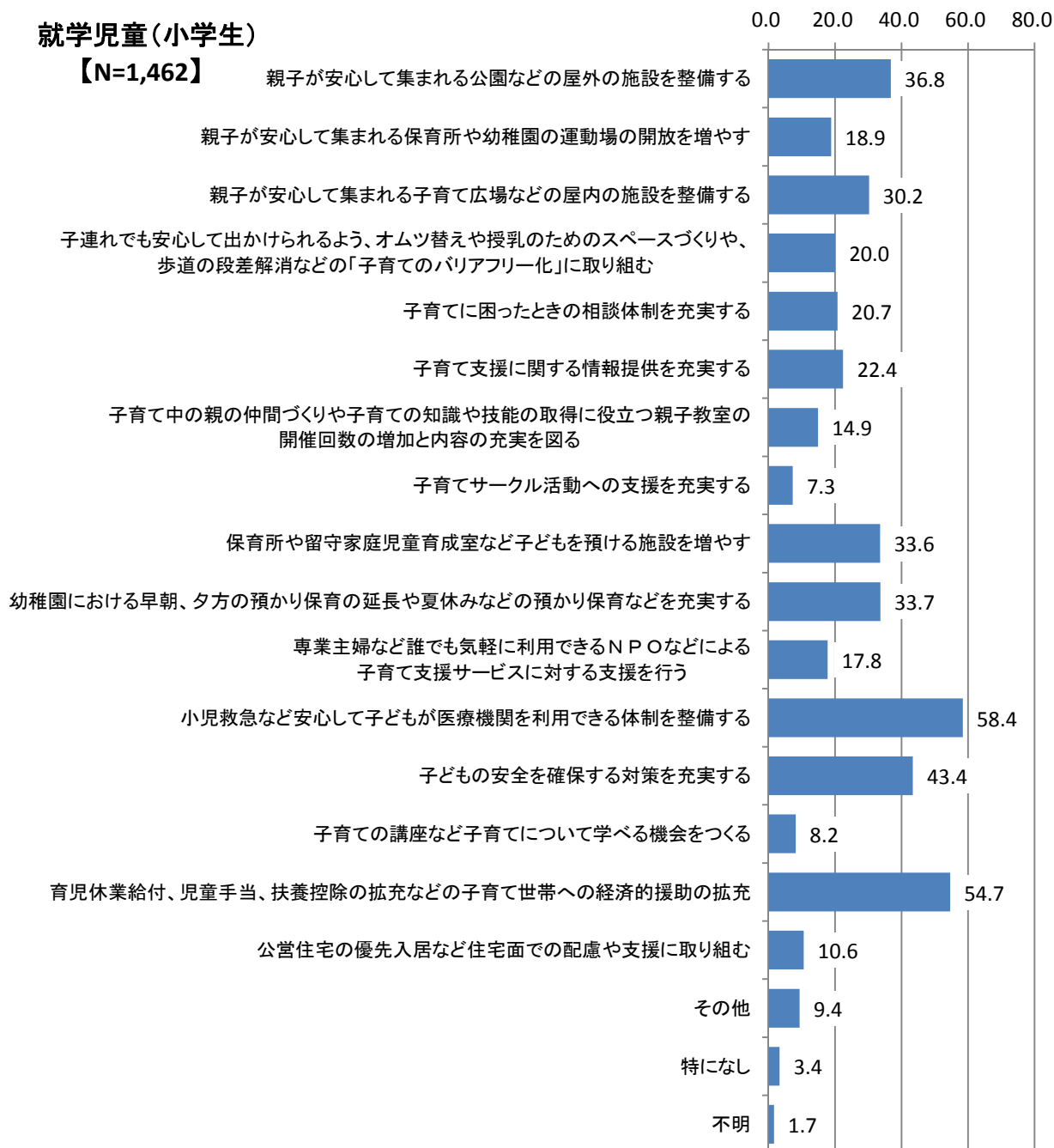


図 2-8 (8) 子育て支援事業に対する要望《就学児童》【複数回答】

第9節 仕事と育児の両立

1. 育児休業の取得状況

子どもが生まれたとき、母親、父親は育児休業を取ったかについて、母親では「働いていなかった」が最も多く53.2%、次いで「育児休業を取った、あるいは、今取っている」が26.9%、「育児休業を取らずに離職した」が16.5%と続いている。また、父親では「育児休業を取らずに働いた」が最も多く84.6%、次いで「育児休業を取った、あるいは、今取っている」が2.9%で、育児休業の平均取得予定日数は18.2日となっている。

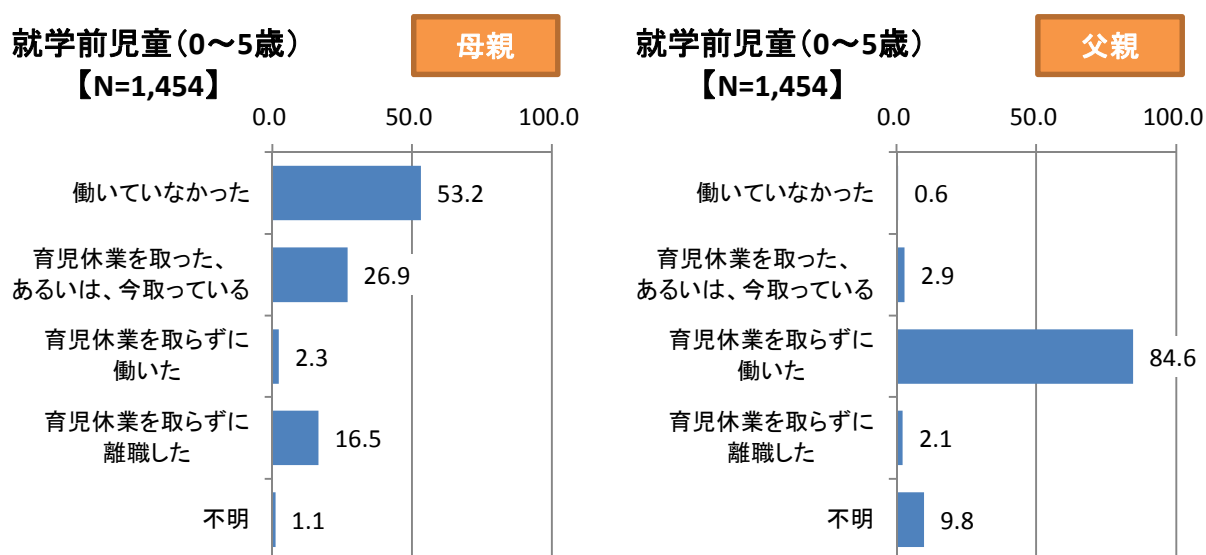


図 2-9 (1) 育児休業の取得状況

子どもが生まれたとき、育児休業を取らずに働いた人に、その理由を聞いたところ、母親では「仕事が忙しかった」が最も多く26.5%、次いで「収入減となり、経済的に苦しくなる」「職場に育児休業の制度がなかった」がそれぞれ20.6%と続いている。また、父親では「仕事が忙しかった」が最も多く37.4%、次いで「配偶者が無職である、ご自身や配偶者の親などにみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が33.8%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が31.0%と続いている。

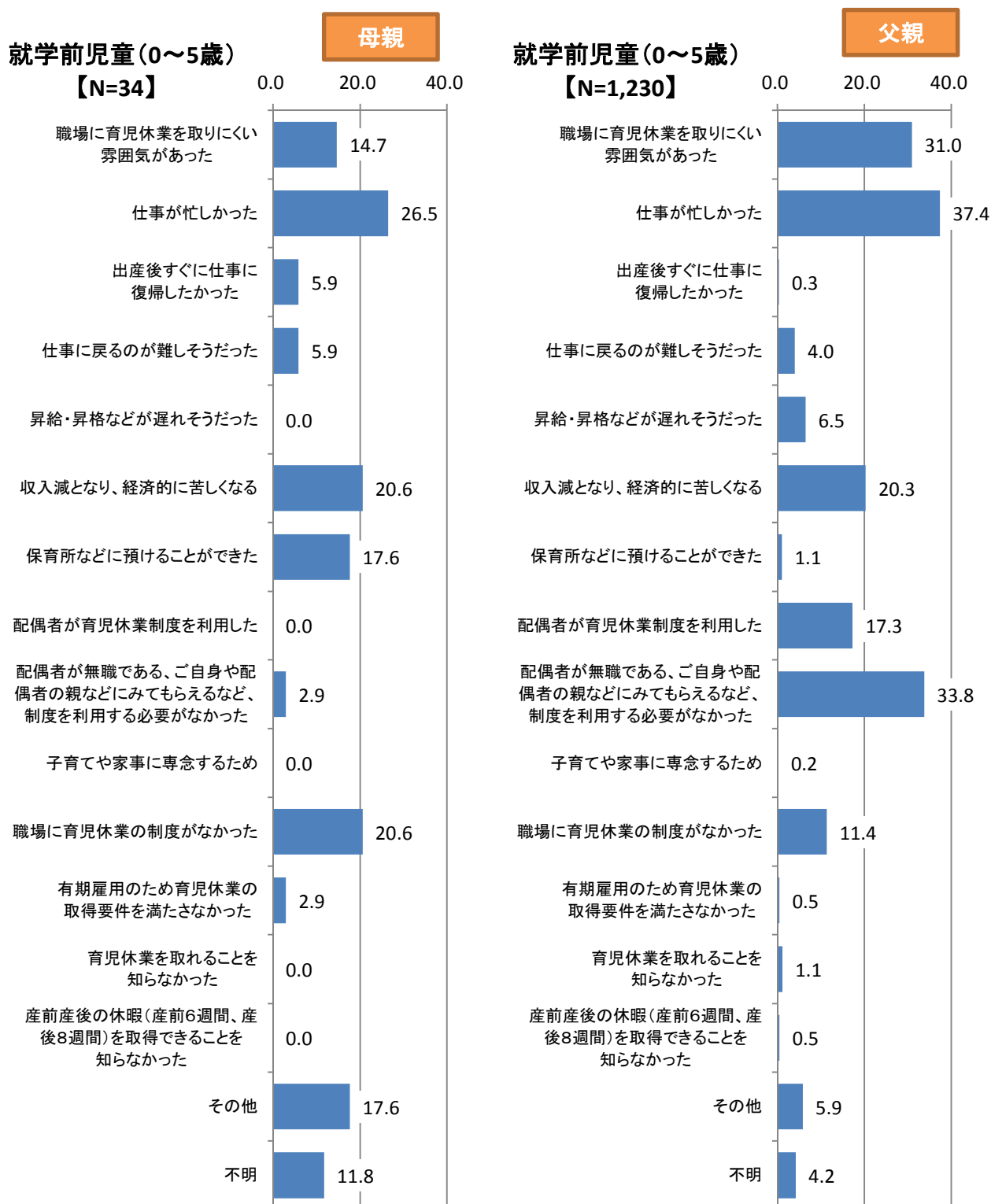


図 2-9 (2) 育児休業を取らずに働いた理由【複数回答】

子どもが生まれたとき、育児休業を取らずに離職した人に、その理由を聞いたところ、母親では「子育てや家事に専念するため」が最も多く 41.7%、次いで「職場に育児休業の制度がなかった」が 21.7%、「仕事に戻るのが難しそうだった」が 20.0%と続いている。また、父親では「仕事が忙しかった」が最も多く 51.6%、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が 45.2%、「配偶者が無職である、ご自身や配偶者の親などにみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が 41.9%と続いている。

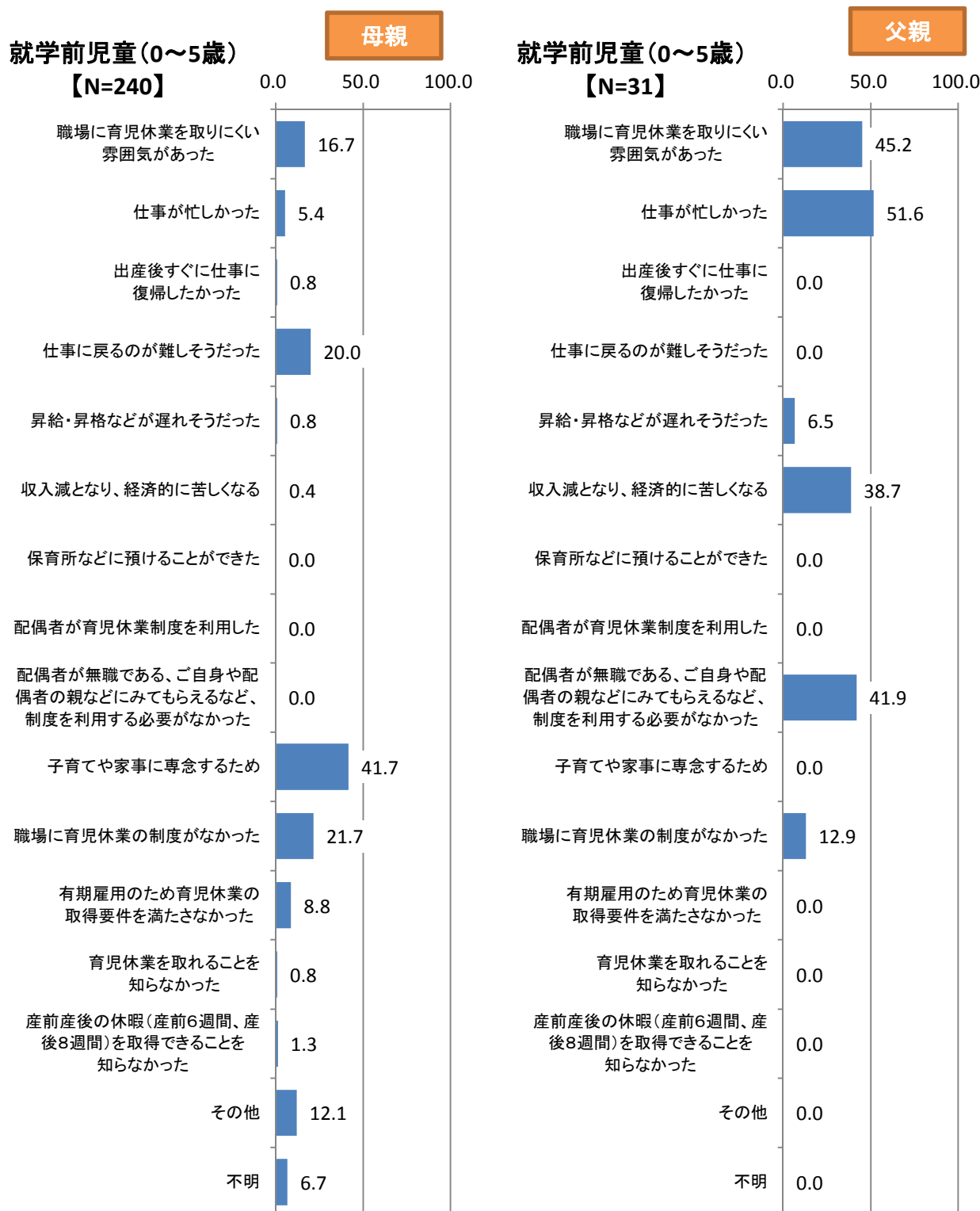


図 2-9 (3) 育児休業を取らずに離職した理由【複数回答】

育児休業を取った、あるいは、今取っている人に、育児休業を取った後、職場に復帰したかについて聞いたところ、母親では「育児休業を取ったあと、職場に復帰した」が最も多く 66.0%、父親では「育児休業を取ったあと、職場に復帰した」が最も多く 83.3%となっている。

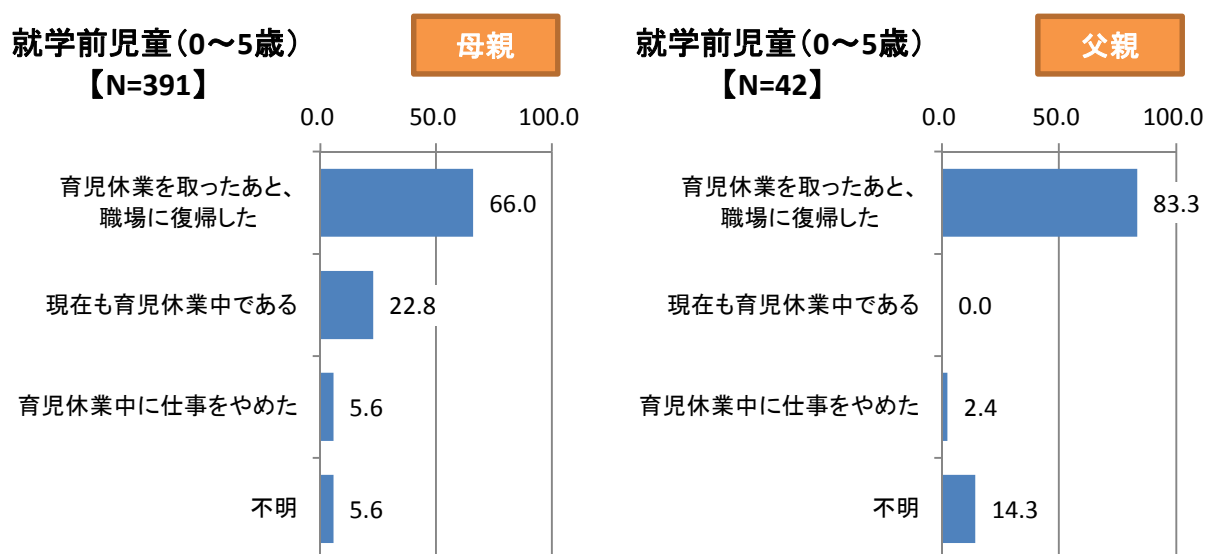


図 2-9 (4) 育児休業を取得後の状況

希望として、子どもが何歳何ヶ月のときまで育児休業を取りたかったかについて、母親では「出生後2度目の4月の一斉入所時」が最も多く 22.5%、次いで「満1歳まで」が 21.3%と続いている。また、父親では「その他」が最も多く 14.3%、次いで「満1歳まで」が 11.4%と続いている。

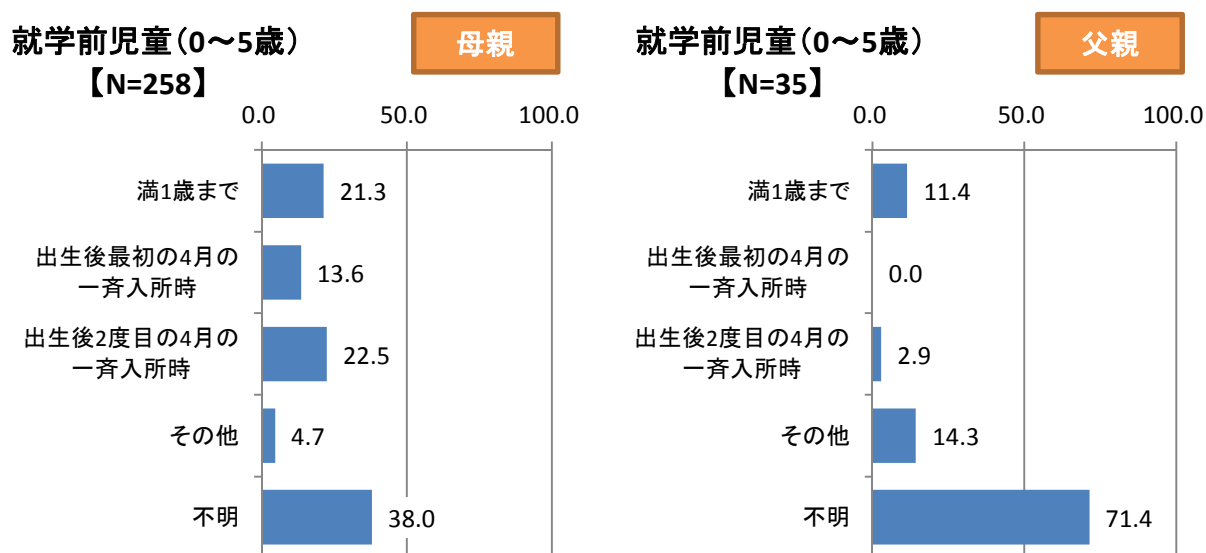


図 2-9 (5) 子どもが何歳何ヶ月のときまで育児休業を取りたかったか

職場に育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、希望として、子どもが何歳何ヶ月のときまで取りたいかについて、母親では「3歳以上」が最も多く35.3%、父親では「6ヶ月未満」が最も多く40.0%となっている。

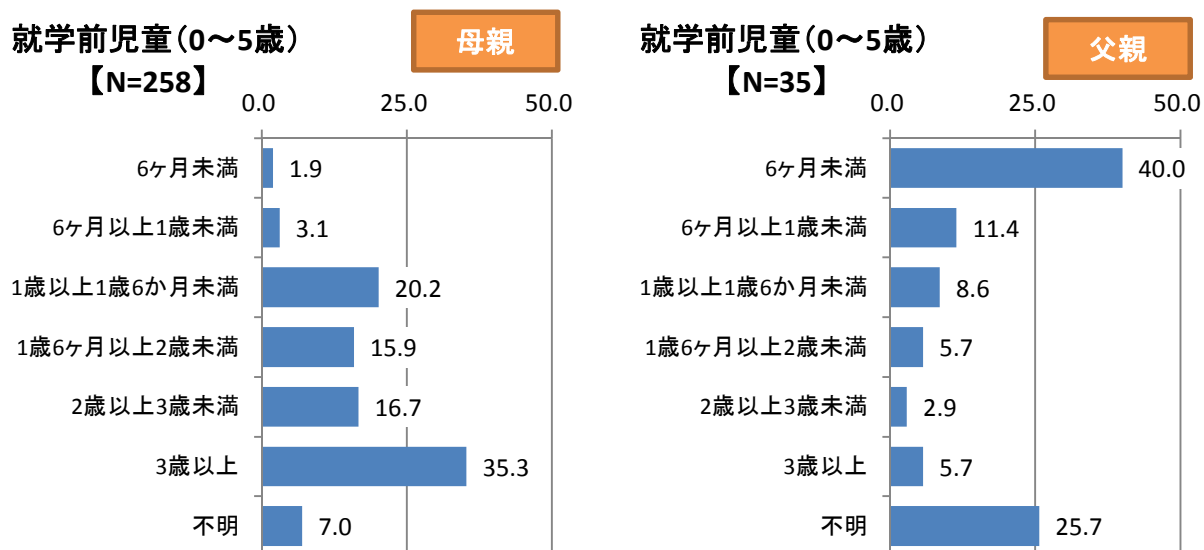


図 2-9 (6) 職場に育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合の利用希望

2. 子どもと一緒に過ごす時間

平日における1日当たりの就学前児童の子どもと一緒に過ごす平均的な時間について、母親では「15時間以上」が最も多く43.4%で、平均は13.8時間、父親では「3時間未満」が最も多く64.2%で、平均は2.4時間となっている。また、その時間は十分だと思うかについて、母親では「十分だと思う」が最も多く62.4%、父親では「不十分だと思う」が最も多く38.9%となっている。

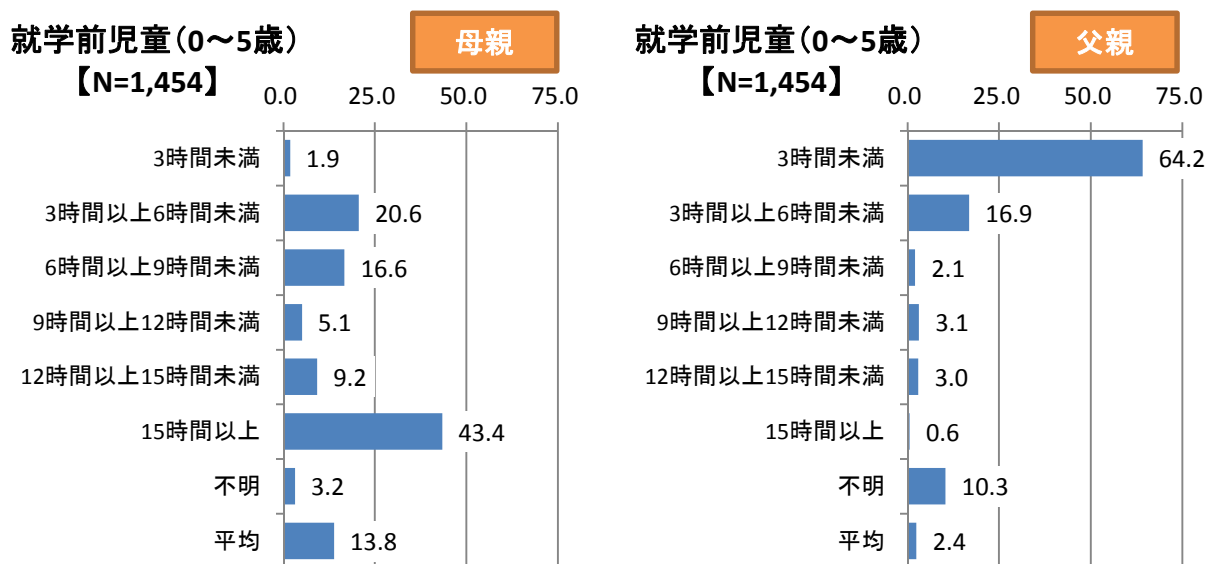


図 2-9 (7) 平日に就学前児童の子どもと一緒に過ごす1日当たりの平均的な時間

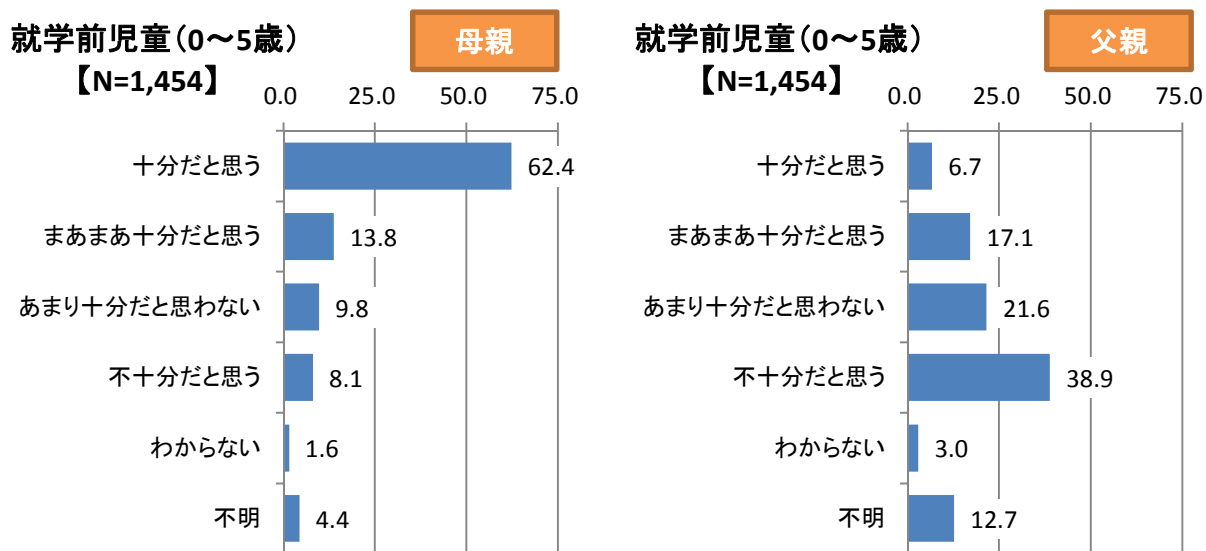


図 2-9 (8) 平日に就学前児童の子どもと一緒に過ごす時間に対する評価

休日における1日当たりの就学前児童の子どもと一緒に過ごす平均的な時間について、母親では「15時間以上」が最も多く57.8%で、平均は18.7時間、父親では「15時間以上」が最も多く36.9%で、平均は15.0時間となっている。また、その時間は十分だと思うかについて、母親では「十分だと思う」が最も多く81.3%、父親では「十分だと思う」が最も多く52.2%となっている。

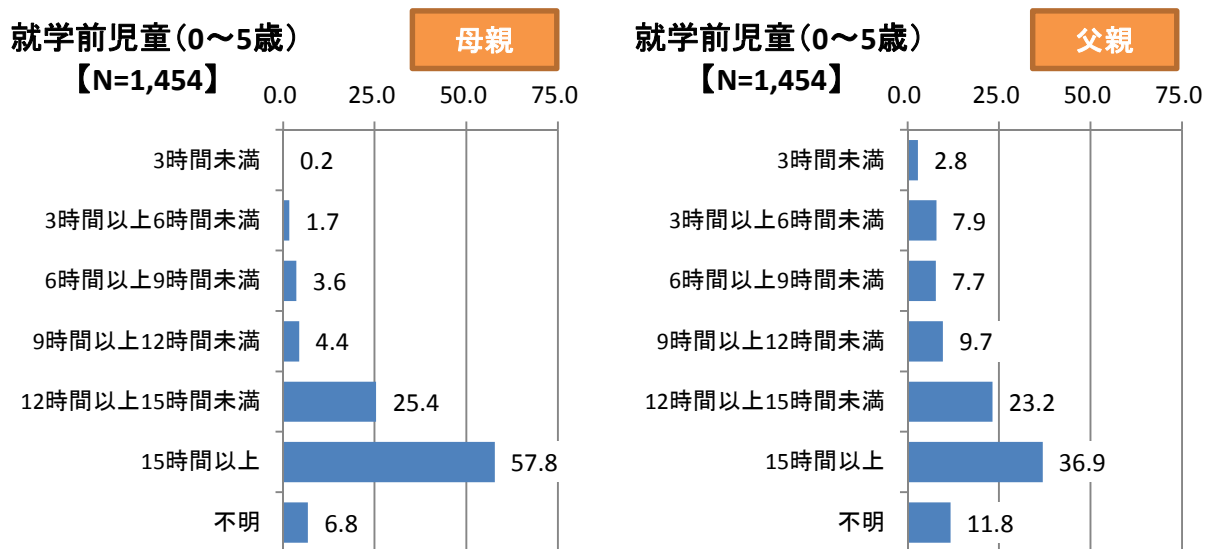


図 2-9 (9) 休日に就学前児童の子どもと一緒に過ごす1日当たりの平均的な時間

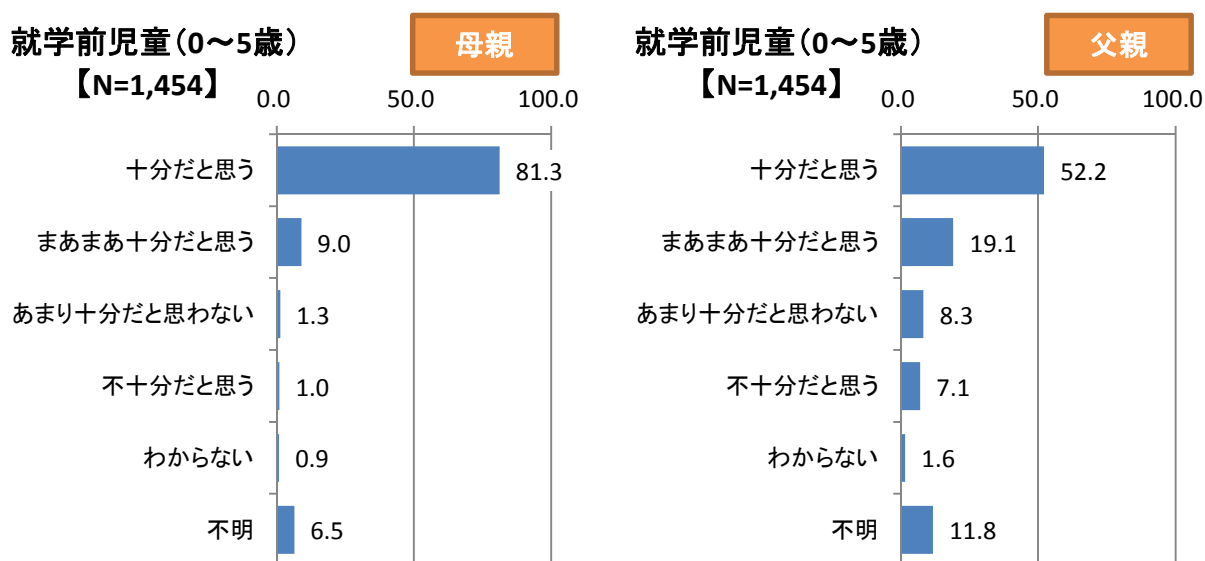


図 2-9 (10) 休日に就学前児童の子どもと一緒に過ごす時間に対する評価

1日当たりの就学児童の子どもと一緒に過ごす1週間の平均的な時間について、母親では「3時間以上6時間未満」が最も多く37.6%で、平均は6.9時間、父親では「3時間未満」が最も多く45.1%、平均は3.1時間となっている。また、その時間は十分だと思うかについて、母親では「十分だと思う」が最も多く39.3%、父親では「不十分だと思う」が最も多く26.8%となっている。

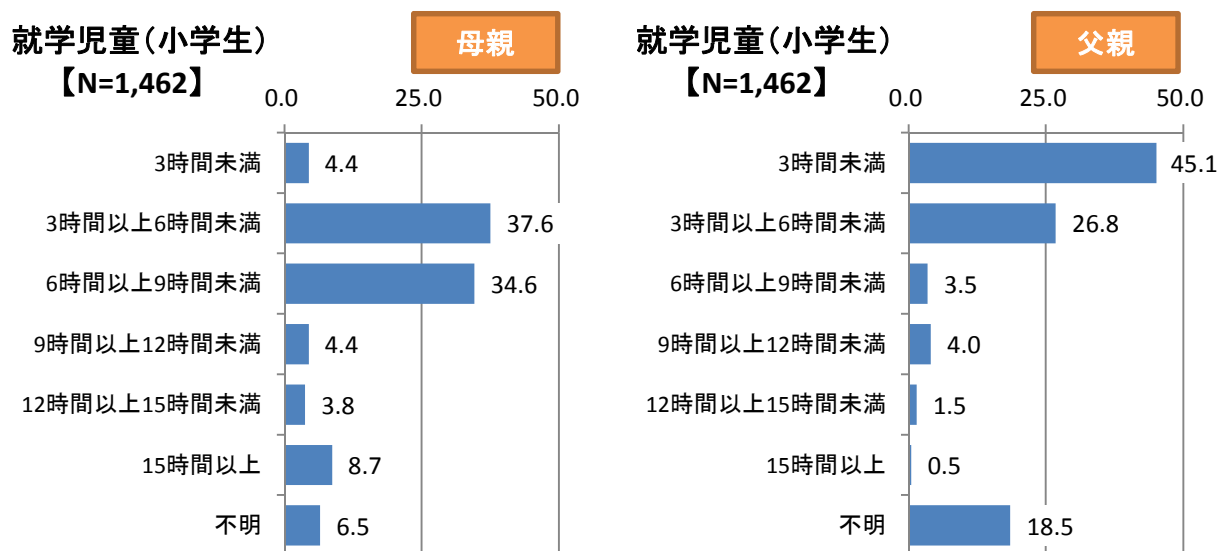


図 2-9 (11) 就学児童の子どもと一緒に過ごす1日当たりの1週間の平均的な時間

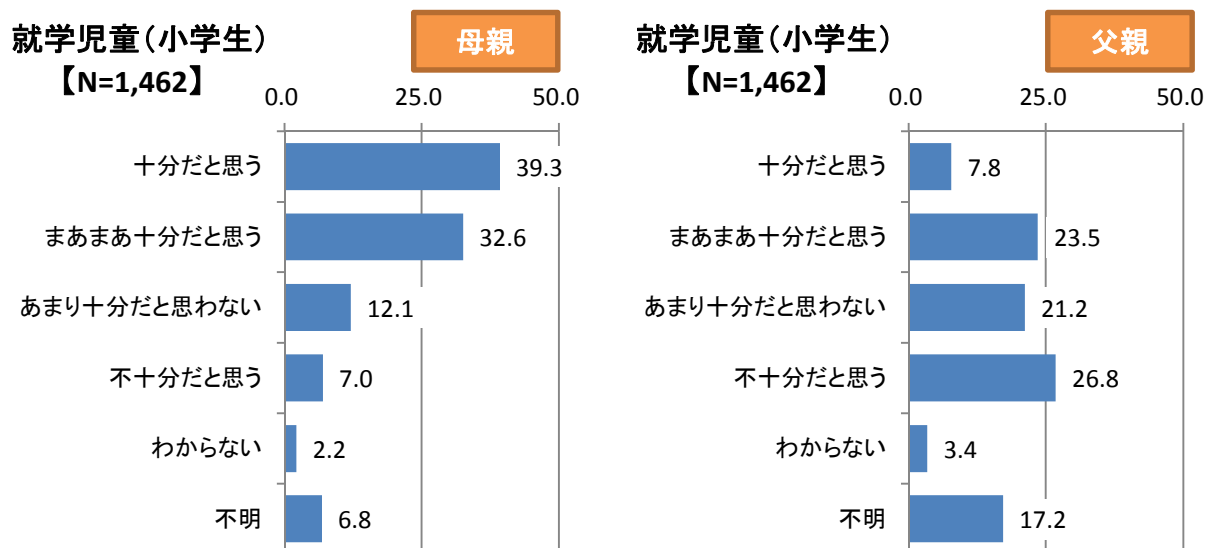


図 2-9 (12) 就学児童の子どもと一緒に過ごす時間に対する評価

3. 家事の分担

1日当たりの家事を何時間くらいするかについて、1週間の平均的な時間は、就学前児童の母親では「3時間以上6時間未満」が最も多く53.7%で、平均は5.3時間、父親では「3時間未満」が最も多く85.4%で、平均は0.8時間となっている。また、就学児童の母親では「3時間以上6時間未満」が最も多く54.3%で、平均は4.7時間、父親では「3時間未満」が最も多く79.3%で、平均は0.6時間となっている。

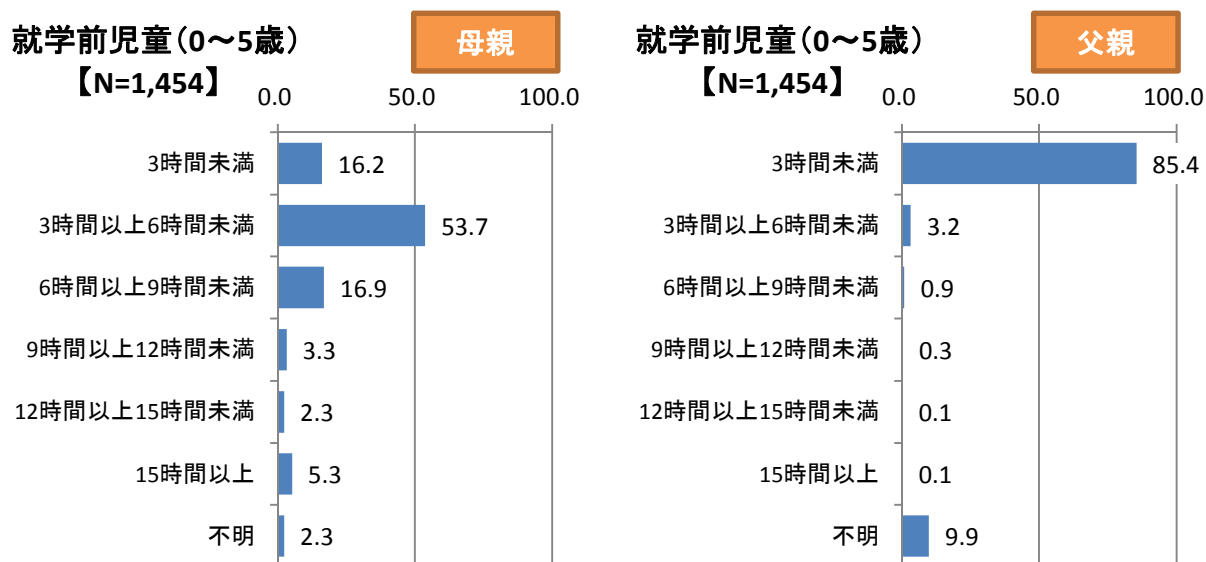


図 2-9 (13) 就学前児童を持つ保護者が家事をする1週間の平均的な時間

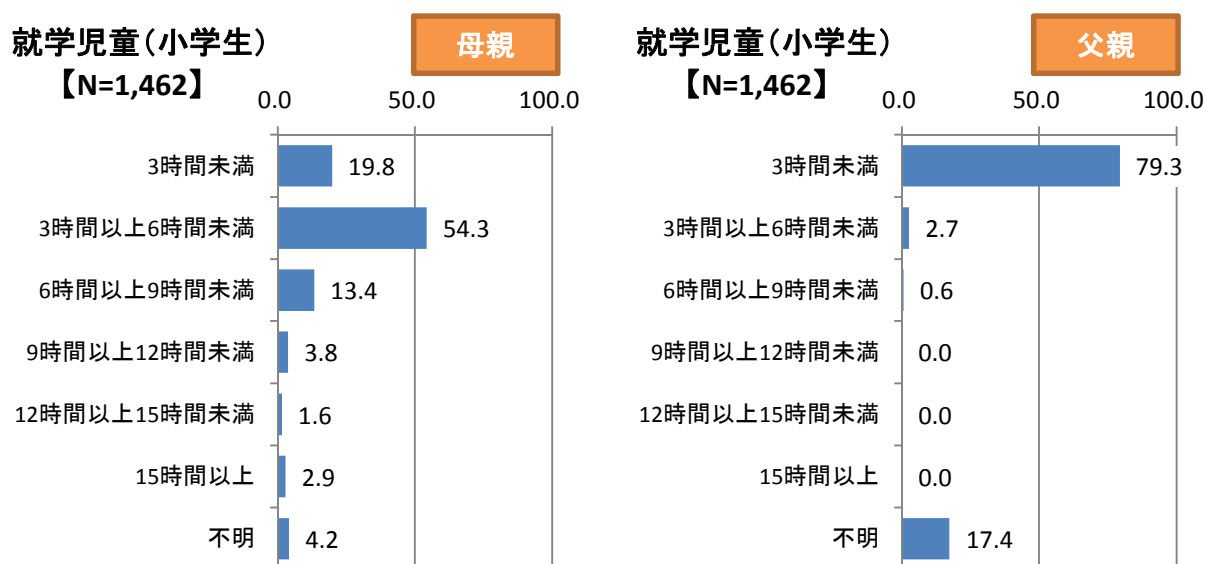


図 2-9 (14) 就学児童を持つ保護者が家事をする1週間の平均的な時間

4. 仕事と子育てを両立する上での課題

仕事と子育てを両立する上での課題について、就学前児童では「子どもや自分が病気やけがをしたときに代わりに子どもをみてくれる人がいないこと」が最も多く 66.4%、次いで「残業や出張が入ること」が 44.7%、「子どもと接する時間が少ないこと」が 37.3%と続いている。また、就学児童では「子どもや自分が病気やけがをしたときに代わりに子どもをみてくれる人がいないこと」が最も多く 51.5%、次いで「子どもと接する時間が少ないこと」が 36.4%、「残業や出張が入ること」が 33.6%と続いている。

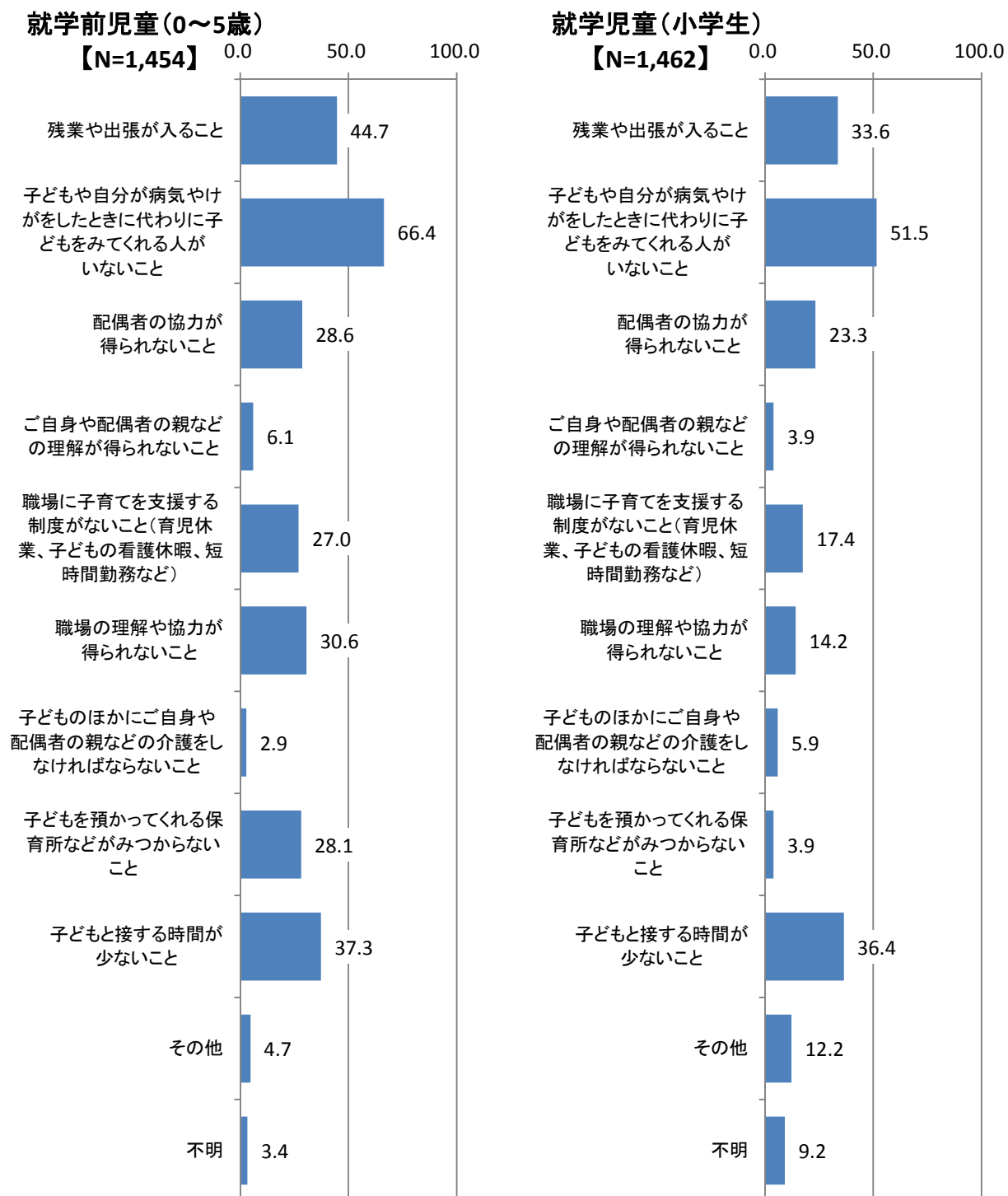


図 2-9 (15) 仕事と子育てを両立する上での課題【複数回答】

第10節 子どもの生活習慣や普段の過ごし方

1. 子どもの生活習慣

朝ごはんを食べるかについて、就学前児童では「毎日食べる」が最も多く 92.7%、就学児童では「毎日食べる」が最も多く 96.1%となっている。

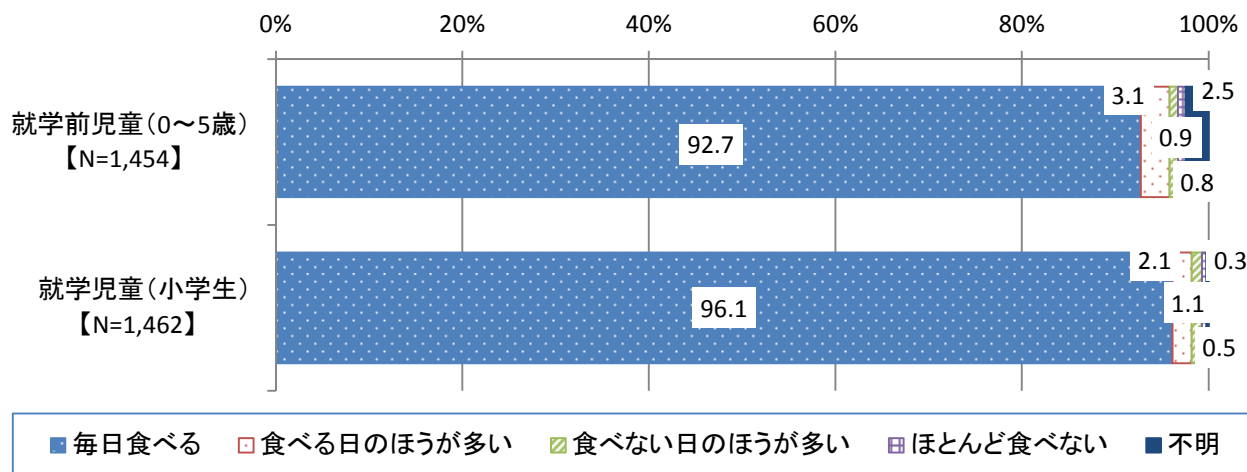


図 2-10 (1) 子どもの生活習慣 (朝ごはん)

1日1回は家族と一緒に食事をするかについて、就学前児童では「食事をする」が最も多く 94.7%、就学児童では「食事をする」が最も多く 97.6%となっている。

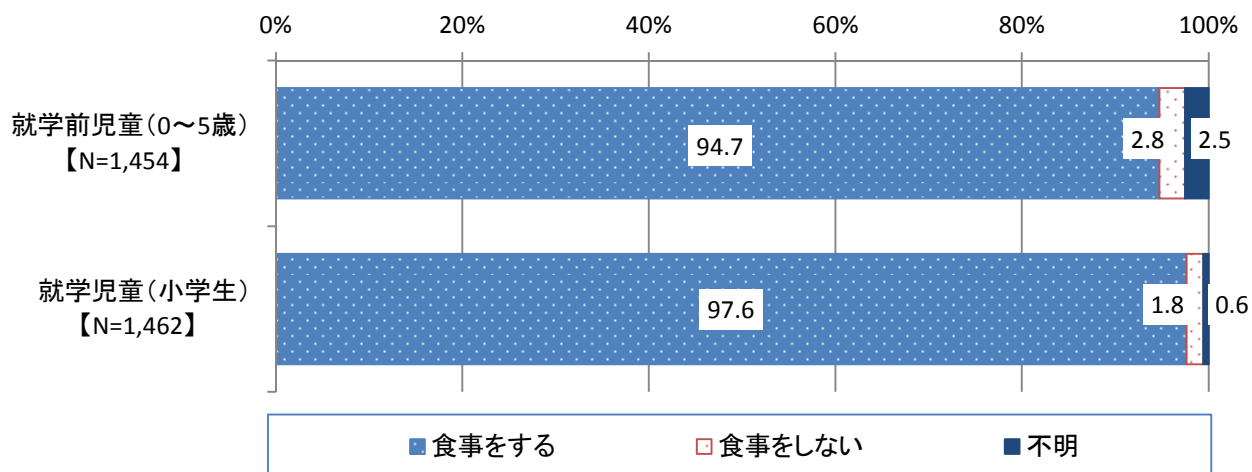


図 2-10 (2) 子どもの生活習慣 (家族と一緒に食事)

平日のテレビ・ビデオ（ゲームを含む）の1日あたり平均視聴時間について、就学前児童では「2時間以内」が最も多く30.2%、次いで「2時間以上」が23.5%、「1時間以内」が20.1%と続いている。また、就学児童では「2時間以内」が最も多く29.7%、次いで「2時間以上」が29.4%、「1時間以内」が18.5%と続いている。

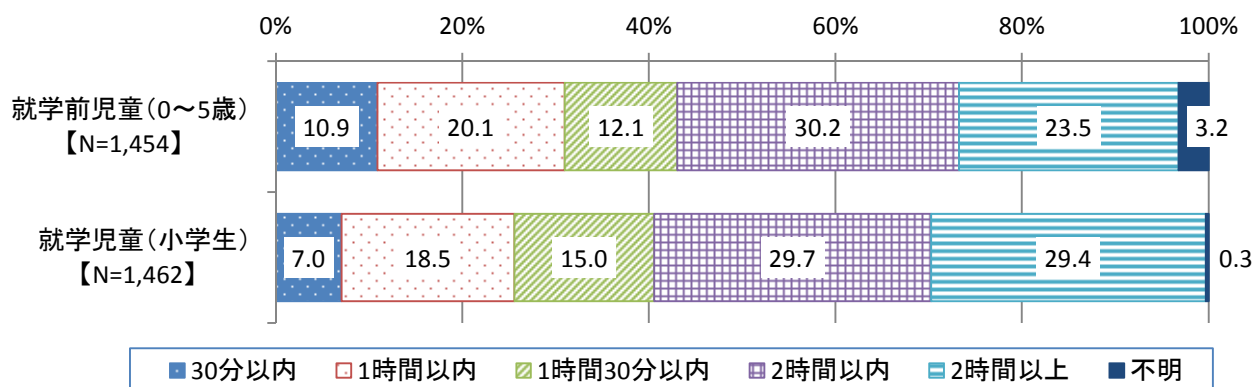


図 2-10 (3) 子どもの生活習慣（テレビ・ビデオの視聴時間）

就寝時刻について、就学前児童では「21時～21時半」が最も多く30.8%、次いで「20時半～21時」が25.2%、「21時半～22時」が20.1%と続いている。また、就学児童では「21時半～22時」が最も多く32.5%、次いで「22時～23時」が24.8%、「20時半～21時」が28.9%と続いている。

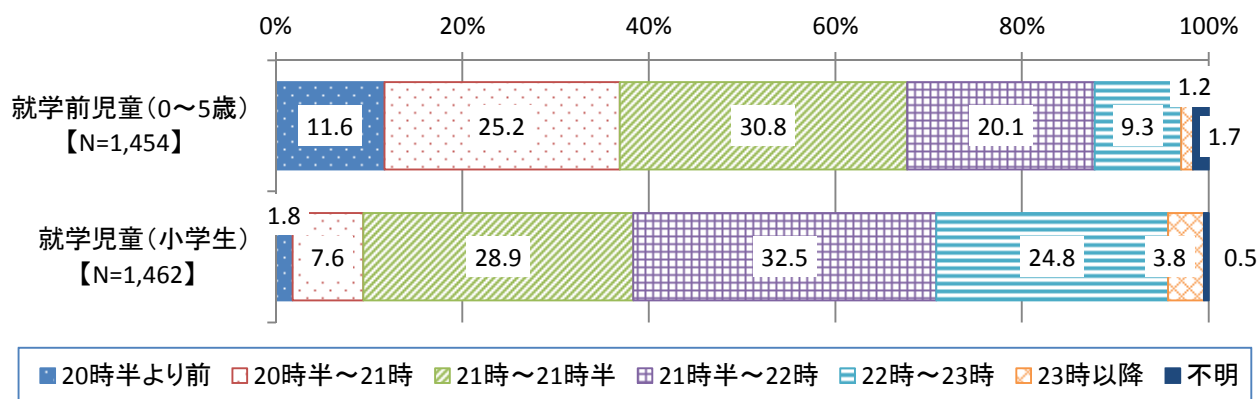


図 2-10 (4) 子どもの生活習慣（就寝時刻）

2. 子どもの普段の過ごし方

平日の放課後および休日のお子さんの普段の過ごし方について、平日の14～16時では「授業などで学校にいる」が最も多く70.2%、平日の16～18時では「家や公園などで友だちと過ごす」が最も多く35.1%、平日の18～20時では「保護者や兄弟姉妹などの家族と過ごす」が最も多く65.7%、平日の20時以降では「保護者や兄弟姉妹などの家族と過ごす」が最も多く82.5%、休日では「保護者や兄弟姉妹などの家族と過ごす」が最も多く68.5%となっている。

表 2-10 (1) 子どもの普段の過ごし方《就学児童（小学生）【N=1,462】》

No	過ごし方	平日				休日
		14～16時	16～18時	18～20時	20時以降	
1	授業などで学校にいる	70.2%	0.8%	0.1%	0.0%	0.1%
2	留守家庭児童育成室で過ごす	7.7%	9.0%	0.1%	0.0%	0.0%
3	太陽の広場（こどもプラザ事業）に参加する	1.6%	1.1%	0.1%	0.1%	0.1%
4	保護者や兄弟姉妹などの家族と過ごす	2.7%	12.2%	65.7%	82.5%	68.5%
5	家事育児代行サービスなどを利用する	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%	0.1%
6	家や公園などで友だちと過ごす	8.3%	35.1%	0.2%	0.3%	7.5%
7	児童会館・児童センターなど公共の施設にいる	0.1%	0.8%	0.0%	0.0%	0.6%
8	地域活動に参加する （子ども会活動、スポーツ活動）	0.0%	1.2%	0.4%	0.1%	4.6%
9	学習塾や習い事へ行く	1.2%	26.2%	15.9%	2.2%	5.7%
10	家で、ひとりで勉強などをする	2.3%	6.1%	8.8%	4.5%	1.6%
11	その他	1.3%	4.7%	3.4%	3.9%	5.1%
12	不明	4.7%	2.7%	5.3%	6.5%	6.0%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

3. 子どもの地域での自然体験などへの参加状況

お住まいの地域が、自然に囲まれている、文化施設が充実しているなど、子どもにとって自然、社会、文化などの体験をしやすい環境であるかについて、「体験しやすいと思う」が最も多く 36.3%、次いで「体験しやすいとは思わない」が 31.1%、「どちらでもない」が 20.0%と続いている。

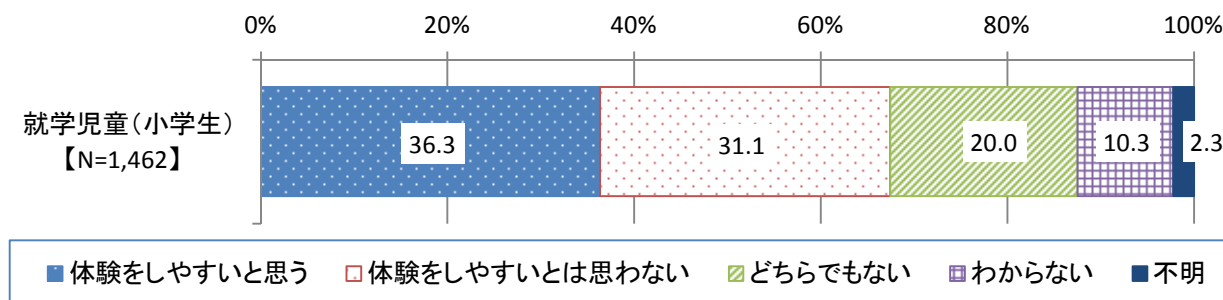


図 2-10 (5) 子どもにとって自然、社会、文化などの体験をしやすい環境

参加したことがある地域での自然体験、社会参加、文化活動について、「地域の活動（地域のお祭りや運動会など）」が最も多く 69.0%、次いで「スポーツ活動」が 36.7%、「体験学習活動（ものづくり体験など）」が 26.5%と続いている。また、子どもは参加したことはないが、今後参加させたいと思っている地域における自然体験、社会参加、文化活動について、「体験学習活動（ものづくり体験など）」が最も多く 35.2%、次いで「スポーツ活動」が 32.0%、「野外活動（キャンプなど）」が 30.0%と続いている。

現在と希望を比較すると、現在より希望が増加しているものは、「国際交流活動（ホームステイなど）」が最も多く 26.1 ポイント、次いで「環境教育活動（自然観察など）」が 13.7 ポイント、「ボランティア活動」が 13.6 ポイントと続いている。

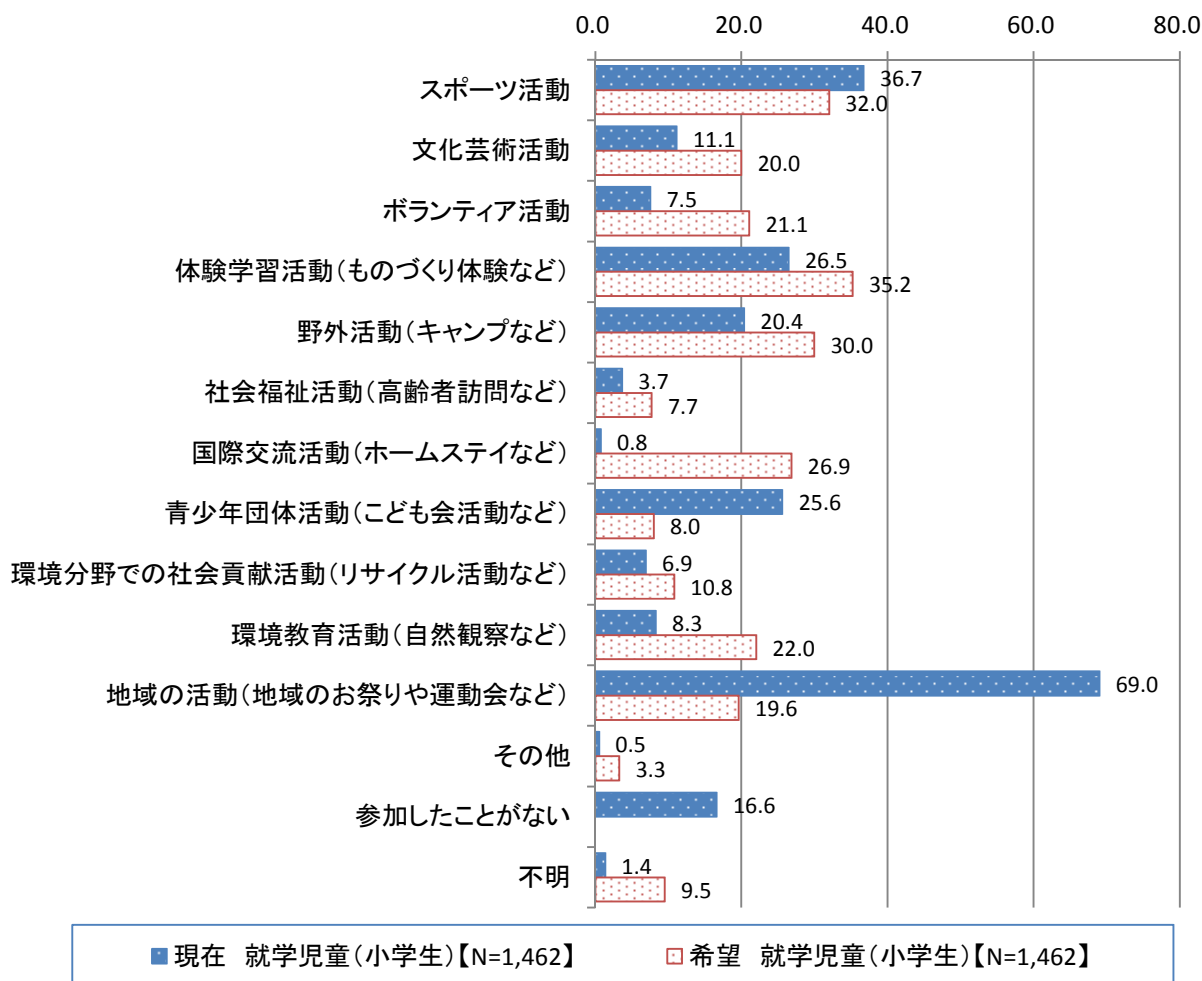


図 2-10 (6) 地域での自然体験、社会参加、文化活動の参加状況【複数回答】

地域での自然体験、社会参加、文化活動に参加していない人に、その理由を聞いたところ、「活動に関する情報がなく参加しにくい」が最も多く 35.4%、次いで「知り合いなどがおらず参加しにくい」が 33.7%、「活動の内容に興味や関心がない」が 28.4%と続いている。

就学児童(小学生)

【N=243】

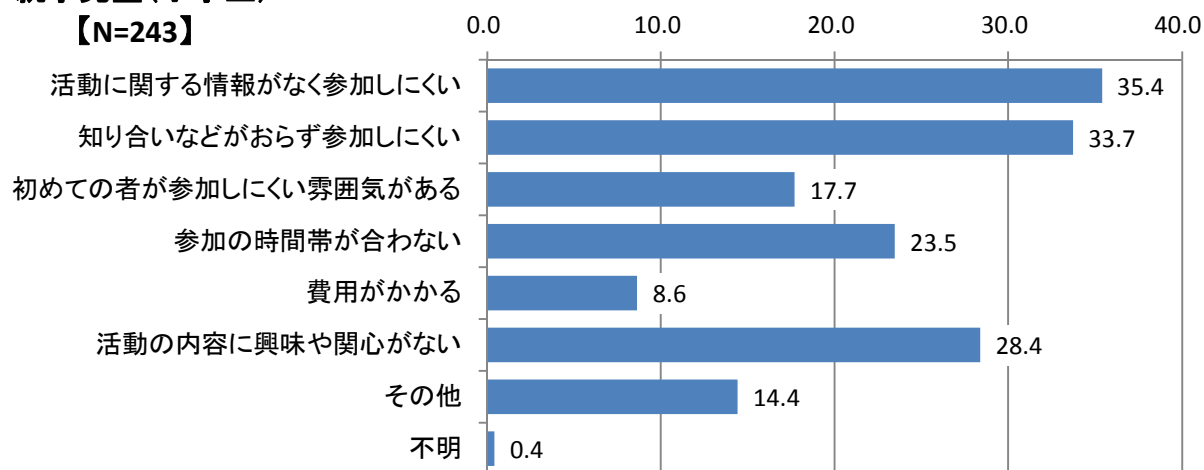


図 2-10 (6) 地域での自然体験、社会参加、文化活動に参加していない理由【複数回答】

第11節 子育てを支援する生活環境の整備や子どもの安全の確保

1. 外出するときに困ること

子どもと外出するときに困ること、困ったことについて、「買い物や用事などの合間の気分転換に子どもを遊ばせる場所がない」が最も多く 45.8%、次いで「小さな子どもとの食事に配慮された場所（店）が少ない」が 43.4%、「歩道の段差などがベビーカーや自転車での通行の妨げになっている」が 39.5%と続いている。

就学前児童(0～5歳)

【N=1,454】

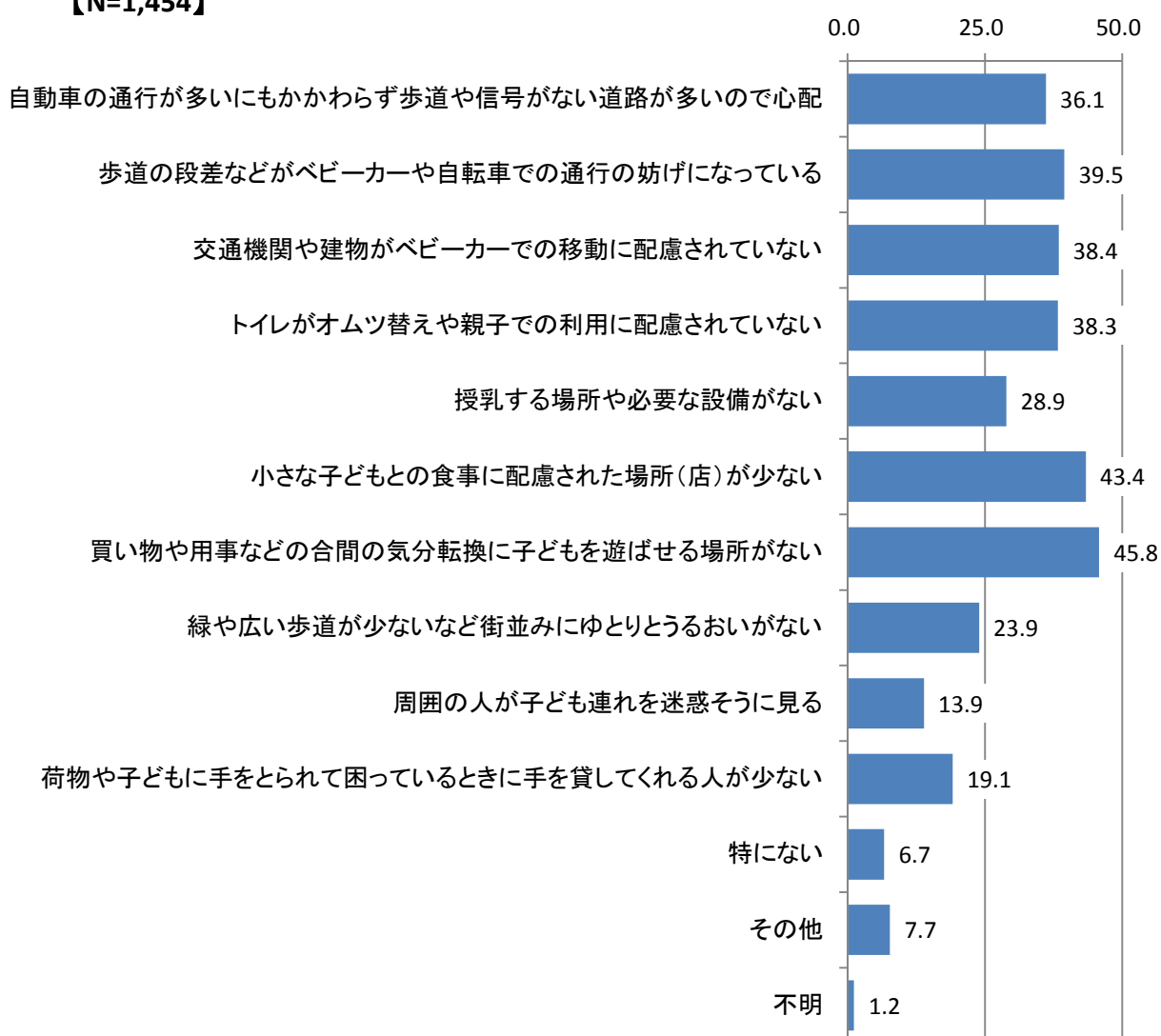


図 2-11 (1) 子どもと外出するときに困ること、困ったこと【複数回答】

2. 地域における子どもの遊び場

地域における子どもの遊び場の満足度について、就学前児童では「満足していない」が最も多く 37.1%、次いで「満足している」が 30.1%、「どちらとも思わない」が 27.4%と続いている。また、就学児童では「満足していない」が最も多く 43.3%、次いで「満足している」が 26.0%、「どちらとも思わない」が 25.4%と続いている。

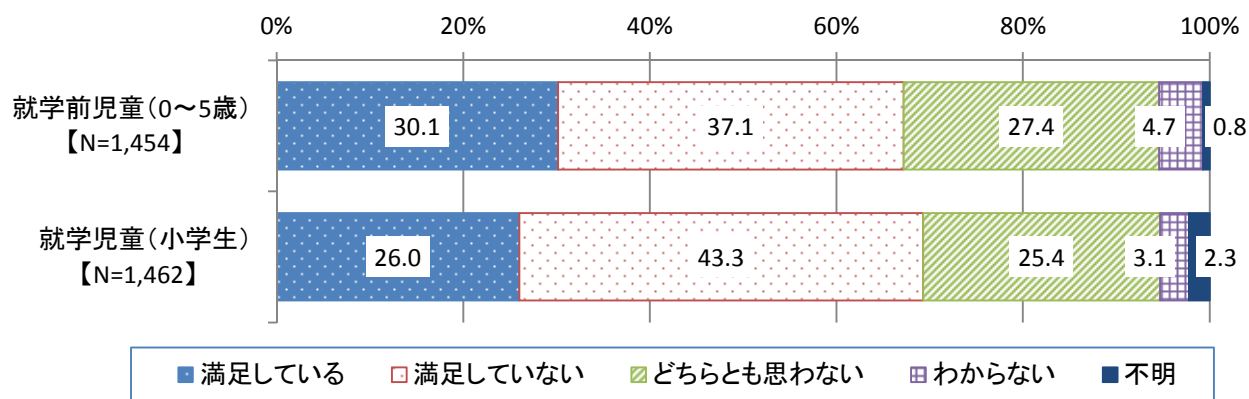


図 2-11 (2) 地域における子どもの遊び場の満足度

地域の子どもの遊び場について日ごろ感じることに、就学前児童では「雨の日に遊べる場所がない」が最も多く 60.0%、次いで「公園など遊び場のトイレがおむつ替えや親子での利用に配慮されていない」が 43.6%、「遊具などの種類が充実していない」が 36.7%と続いている。また、就学児童では「雨の日に遊べる場所がない」が最も多く 50.1%、次いで「思い切り遊ぶために十分な広さがない」が 43.2%、「遊具などの種類が充実していない」が 27.1%と続いている。

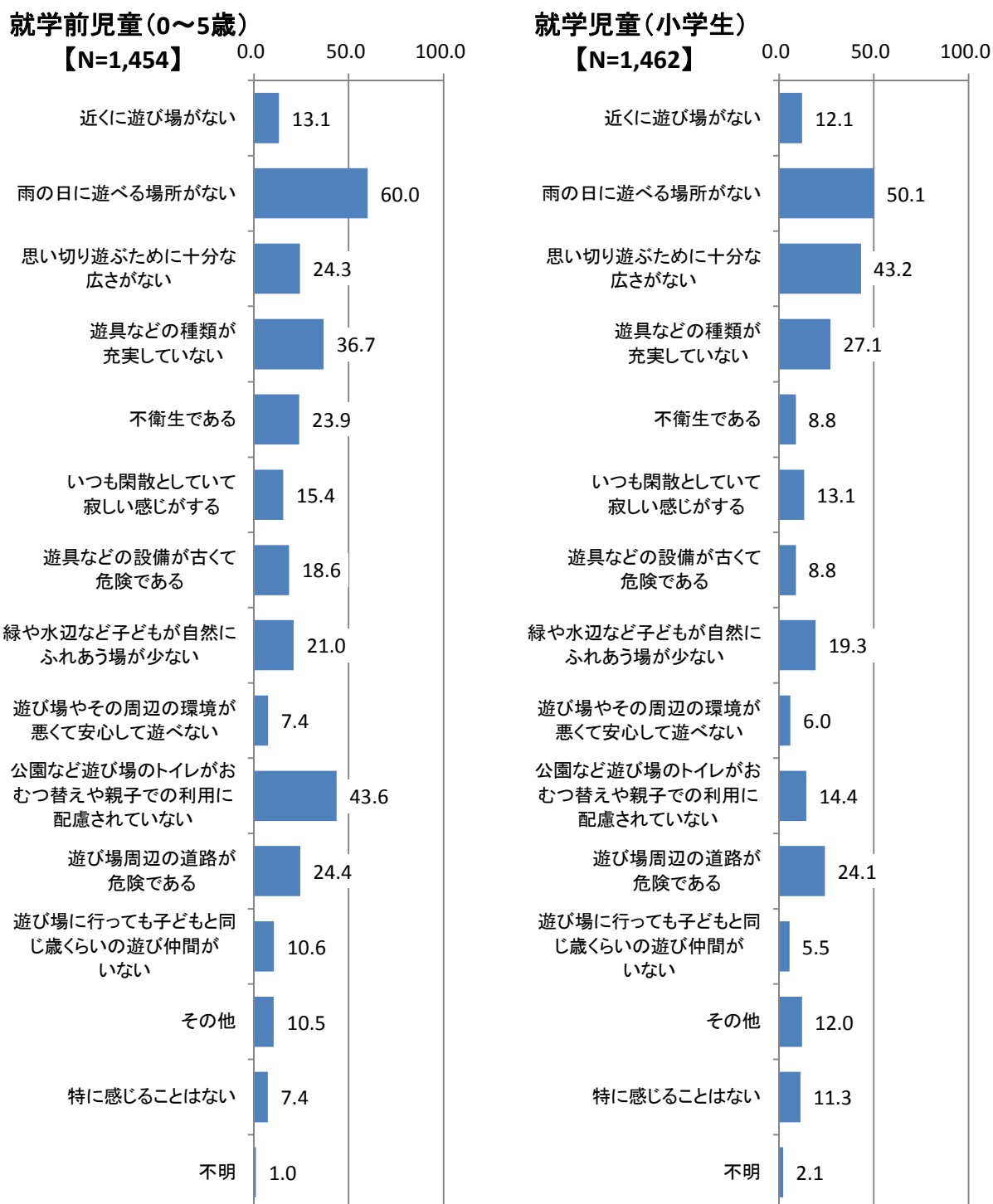


図 2-11 (2) 地域における子どもの遊び場について日ごろ感じること【複数回答】

第12節 子育てに対する意識

1. 近所で子どもの話や世間話をする人

近所（住まいの近く）で日常的にちょっとした子どもの話や世間話をする人がいるかについて、就学前児童では「いる」が74.3%、「いない」が23.7%となっている。また、就学児童では「いる」が74.9%、「いない」が22.3%となっている。

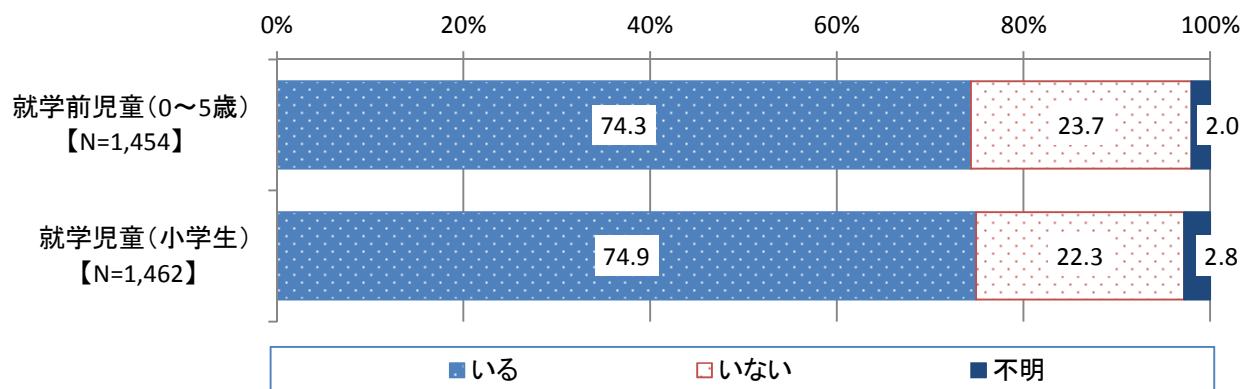


図 2-12 (1) 近所で子どもの話や世間話をする人

2. 子育てに対する感じ方

ご自身にとって子育てを楽しいと感じることが多いと思うか、それともつらいと感じることが多いと思うかについて、就学前児童では「楽しいと感じることの方が多い」が最も多く66.5%、次いで「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」が25.1%、「つらいと感じることの方が多い」が3.6%と続いている。また、就学児童では「楽しいと感じることの方が多い」が最も多く64.4%、次いで「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」が25.4%、「わからない」が3.8%と続いている。

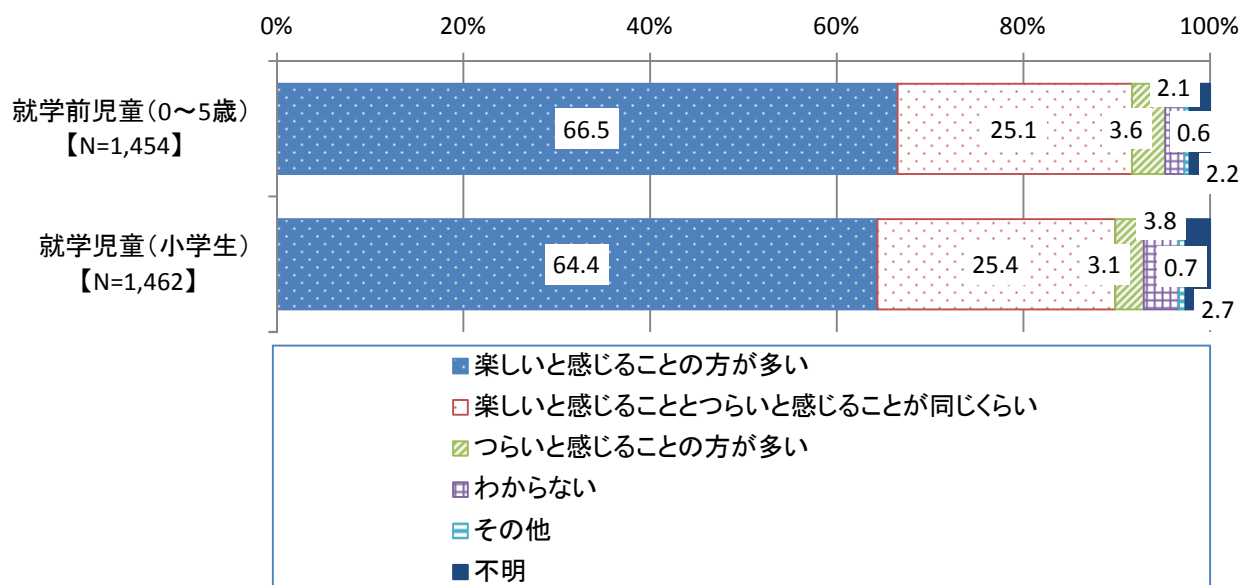


図 2-12 (2) 子育てに対する感じ方

3. 子育てに対する支援・対策

子育てを楽しんでいると感じる人に、子育てをする中で、どのような支援・対策が有効と感じているかについて聞いたところ、就学前児童では「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」が最も多く44.4%、次いで「地域における子育て支援の充実（一時預かり、育児相談など）」が39.9%、「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」が39.8%と続いている。また、就学児童では「子どもを対象にした犯罪・事故の軽減」が最も多く60.3%、次いで「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」が46.3%、「子どもの教育環境」が45.5%と続いている。

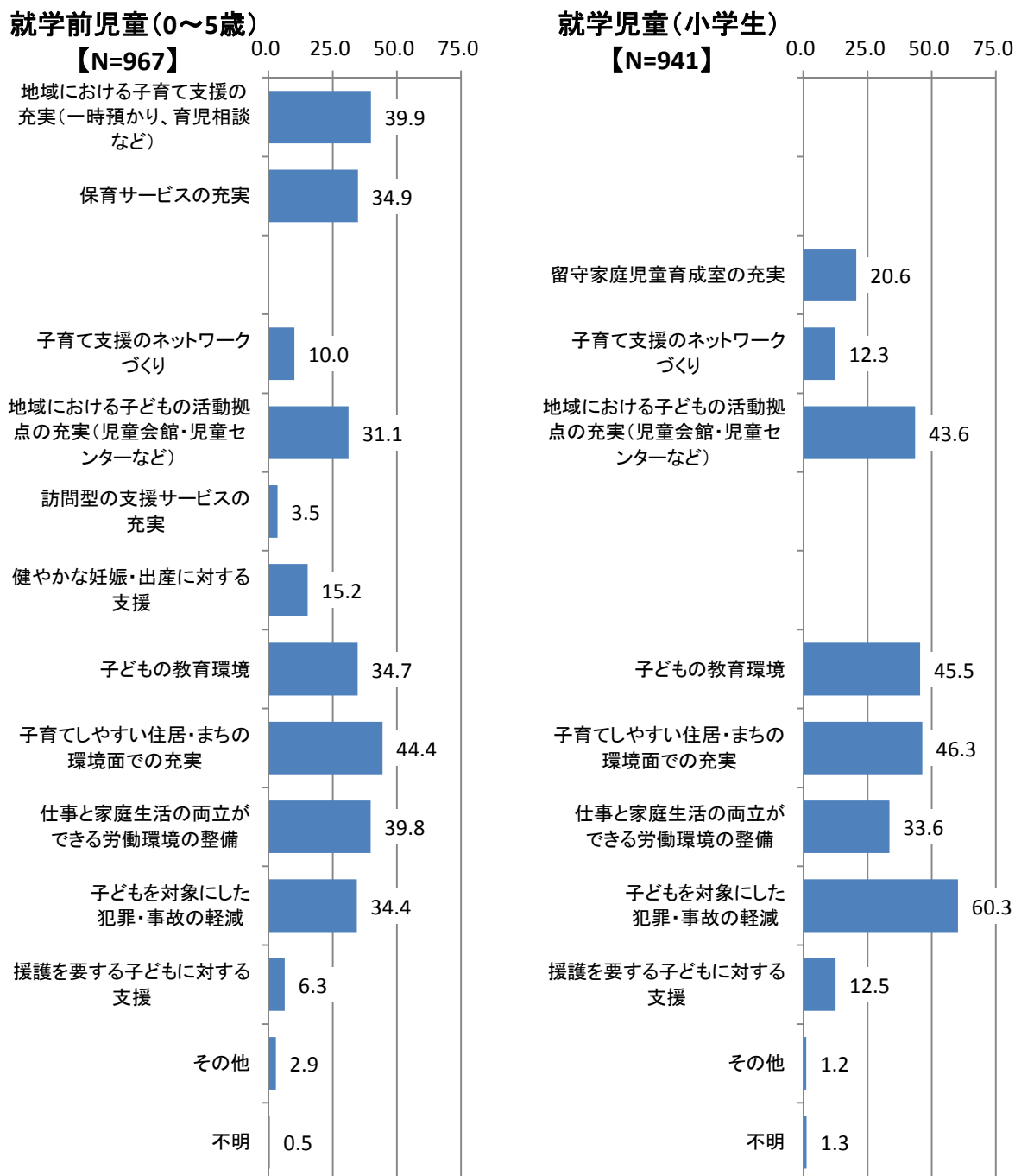


図 2-12 (3) 子育てに対する有効な支援・対策【複数回答】

子育てをつらいと感じることがある人に、子育てのつらさを解消するために必要な支援・対策について聞いたところ、就学前児童では「地域における子育て支援の充実（一時預かり、育児相談など）」が最も多く51.1%、次いで「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」が39.3%、「保育サービスの充実」が38.6%と続いている。また、就学児童では「子どもの教育環境」「子どもを対象にした犯罪・事故の軽減」が最も多く、それぞれ43.2%、次いで「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」が36.7%、「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」が31.2%と続いている。

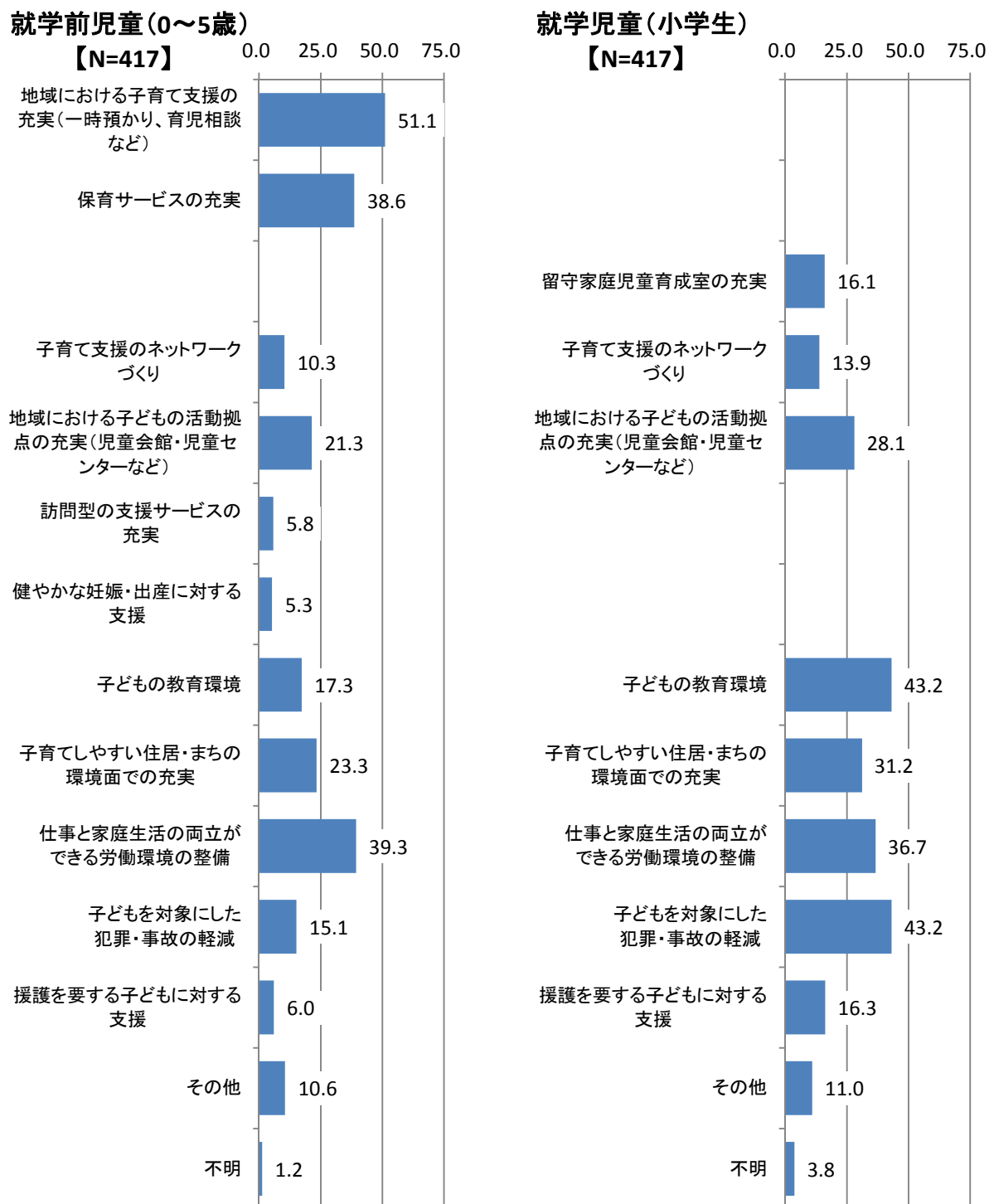


図 2-12 (4) 子育てのつらさを解消するために必要な支援・対策【複数回答】

4. 子育てに関する悩み事

子育てに関して、子どもに対して日常悩んでいること、あるいは気になることについて、就学前児童では「子どもの教育に関すること」が最も多く 34.2%、次いで「食事や栄養に関すること」が 32.7%、「病気や発育発達に関すること」が 28.0%と続いている。また、就学児童では「子どもの教育に関すること」が最も多く 51.1%、次いで「子どもの友だちづきあいに関すること」が 38.2%、「特にない」が 18.9%と続いている。

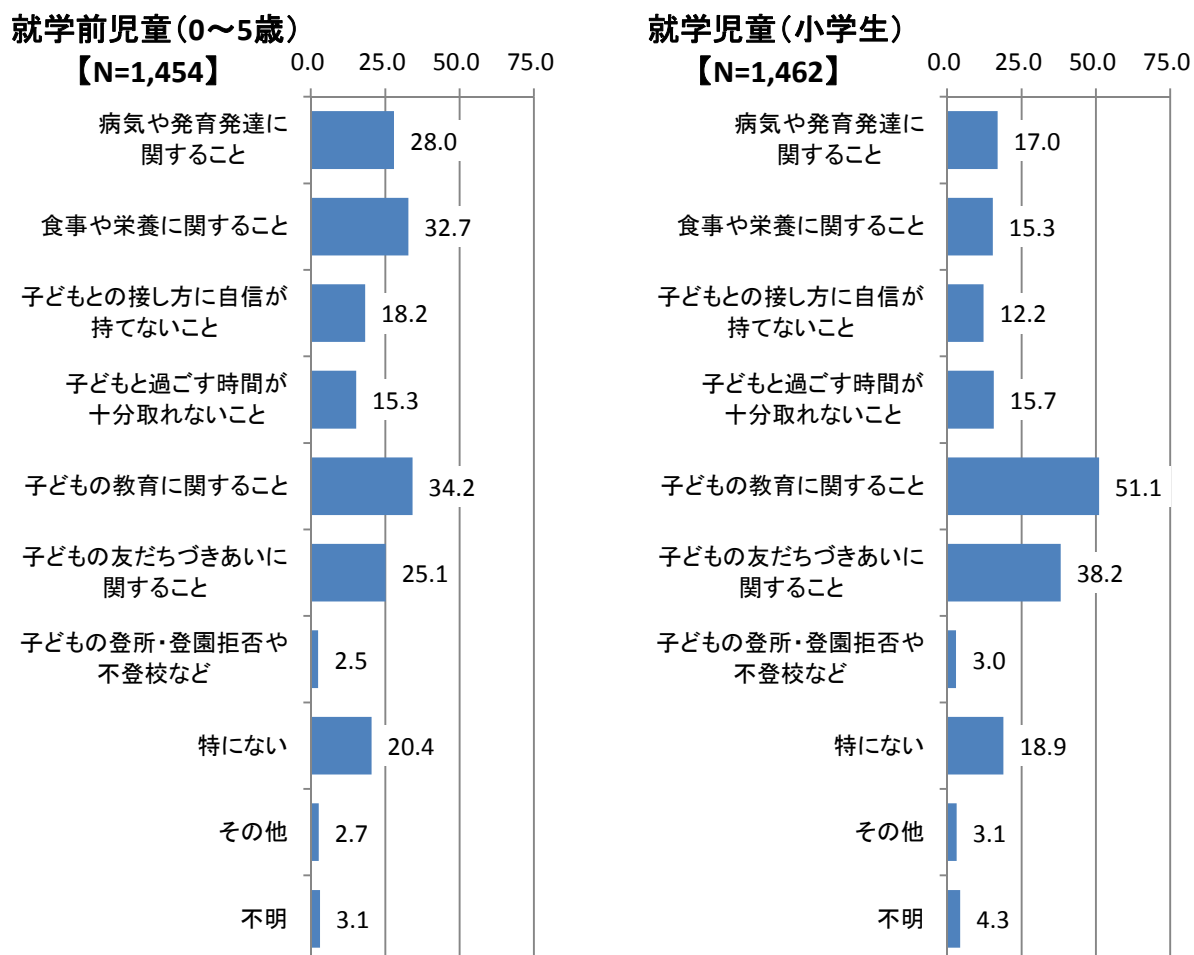
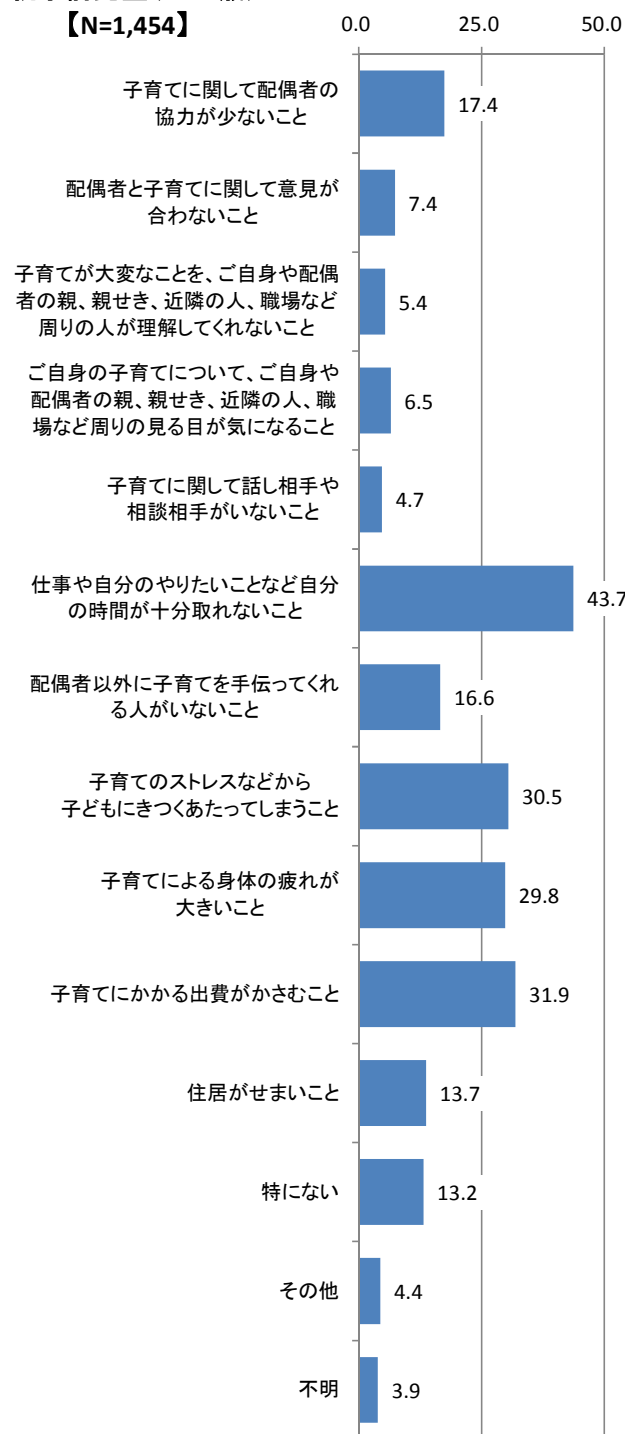


図 2-12 (5) 子どもに関する悩み事【複数回答】

子育てに関して、自身に対して日常悩んでいること、あるいは気になることについて、就学前児童では「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」が最も多く 43.7%、次いで「子育てにかかる出費がかさむこと」が 31.9%、「子育てのストレスなどから子どもにきつくあたってしまうこと」が 30.5%と続いている。また、就学児童では「子育てにかかる出費がかさむこと」が最も多く 38.4%、次いで「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」が 23.7%、「特にない」が 23.4%と続いている。

就学前児童(0～5歳)
【N=1,454】



就学児童(小学生)
【N=1,462】

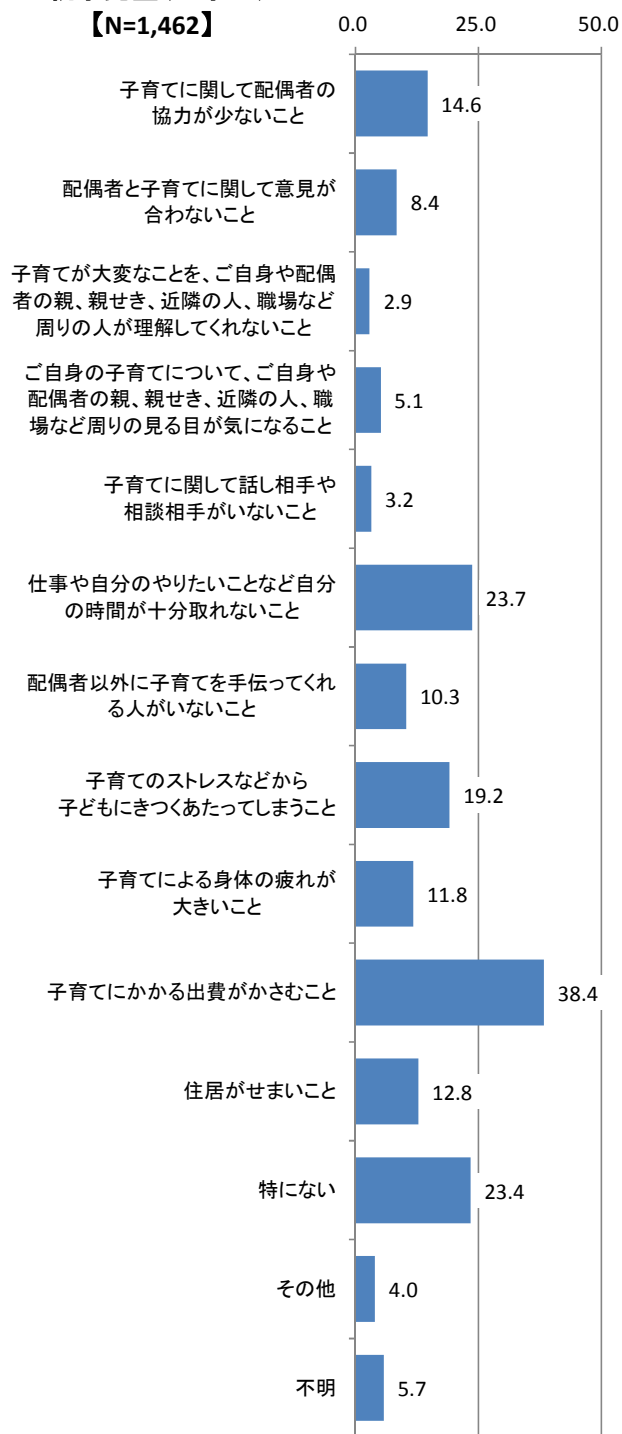


図 2-12 (6) 自身に関する悩み事【複数回答】

5. 地域の人の支え

子育てが地域の人に支えられていると感じるかについて、就学前児童では「感じる」が70.6%、「感じない」が25.9%、就学児童では「感じる」が69.6%、「感じない」が26.2%となっている。

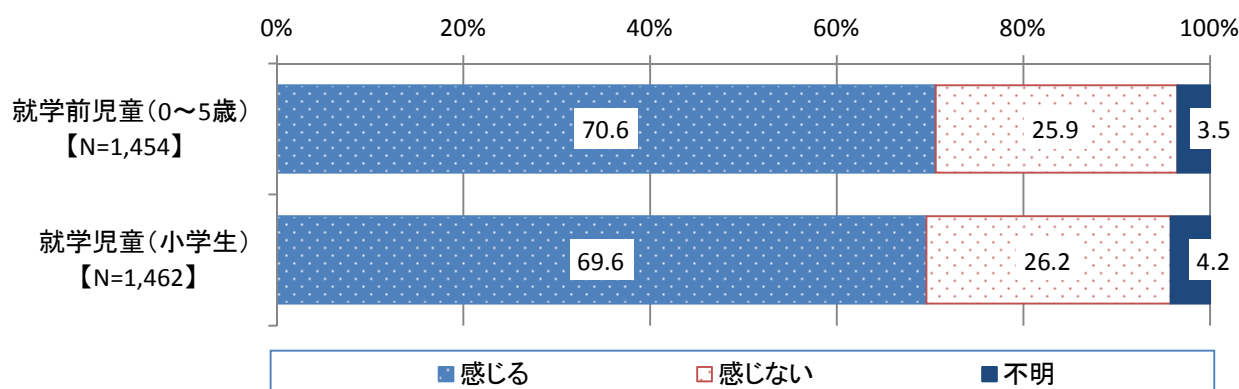


図 2-12 (7) 地域の人に支えられていると感じるか

地域の人に支えられていると感じる人に、特に誰から支えられていると感じるかについて聞いたところ、就学前児童では「同じ世代の子どもを持つ保護者」が最も多く65.7%、次いで「幼稚園、保育所、子育て支援センター(保育所)や子育て広場などの職員」が52.5%、「近所の人」が33.8%と続いている。また、就学児童では「同じ世代の子どもを持つ保護者」が最も多く69.9%、次いで「近所の人」が34.3%、「民生委員・児童委員、自治会、子ども会などの地域団体の人」が17.2%と続いている。

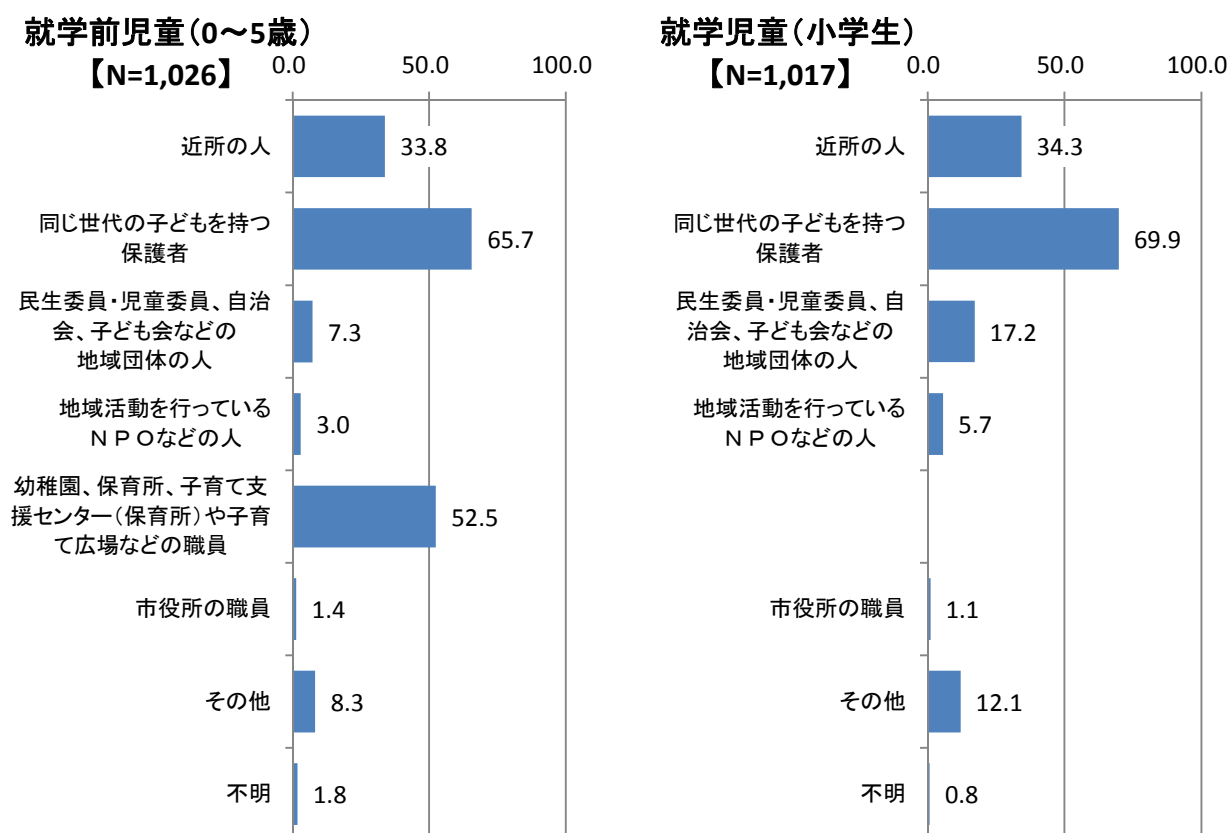


図 2-12 (8) 地域で支えられていると感じる人【複数回答】

地域の人に支えられていると感じない人に、特に誰から支えてほしいと感じるかについて聞いたところ、就学前児童では「同じ世代の子どもを持つ保護者」が最も多く 34.0%、次いで「幼稚園、保育所、子育て支援センター（保育所）や子育て広場などの職員」が 30.5%、「近所の人」が 20.7%と続いている。また、就学児童では「同じ世代の子どもを持つ保護者」が最も多く 28.5%、次いで「近所の人」が 18.5%、「その他」が 17.0%と続いている。その他の主な内容として「わからない」「特にない」「学校の先生」などがある。

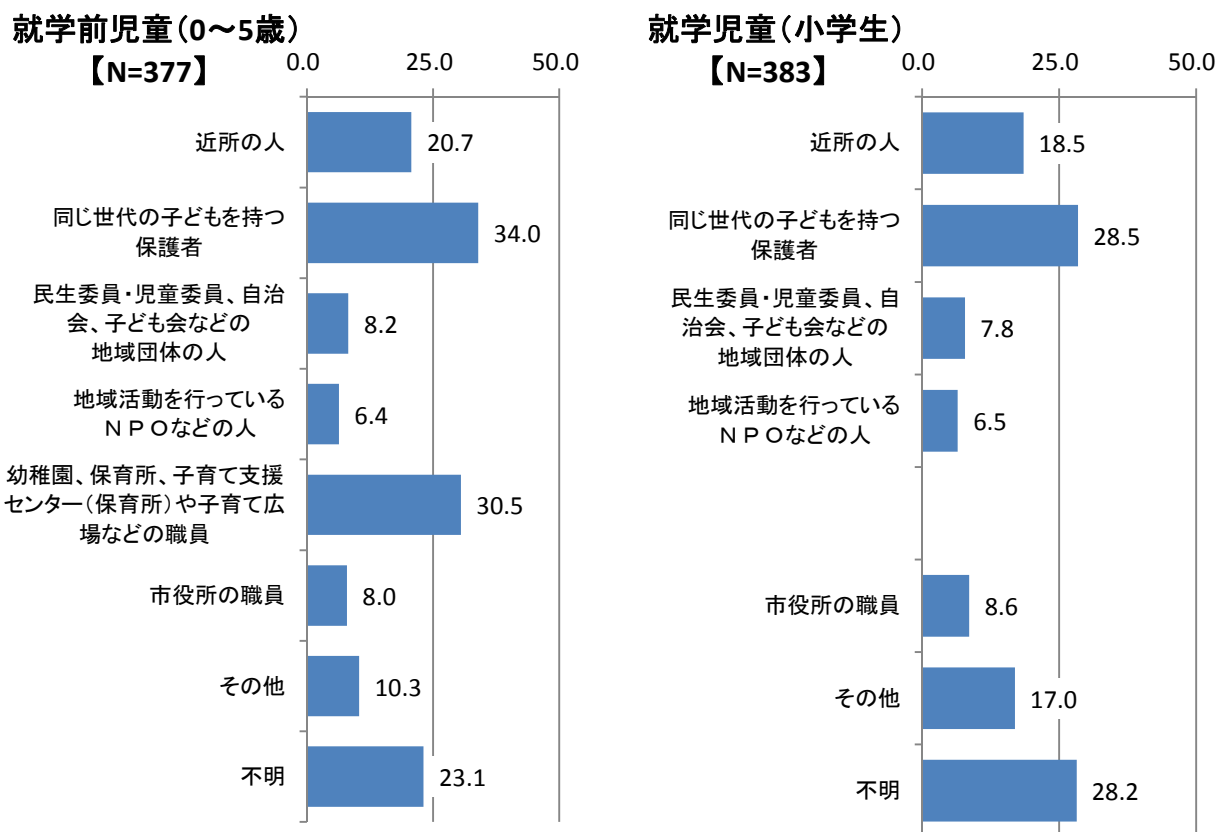


図 2-12 (9) 地域で支えてほしい人【複数回答】